

**WebSphere® Application Server V4.0 for z/OS
and OS/390**



システム管理スクリプト API

**WebSphere® Application Server V4.0 for z/OS
and OS/390**



システム管理スクリプト API

注

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、253ページの『付録. 特記事項』に記載されている一般情報をお読みください。

本書は、WebSphere Application Server V4.0 for z/OS and OS/390 (5655-F31) に適用されます。また、新版で特に断りのない限り、これ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションにも適用されます。

WebSphere Application Server for OS/390 の資料の最新バージョンは、次の Web サイトにあります。

<http://www.ibm.com/jp/software/websphere/appserv/>

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

原典： SA22-7839-00
WebSphere® Application Server V4.0 for z/OS and OS/390
System Management Scripting API

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2001.5

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2000, 2001. All rights reserved.

Translation: © Copyright IBM Japan 2001

目次

本書について	v	アクション “listj2eeserver”	86
本書の構成	v	J2EE アプリケーション	90
関連情報の入手先	vi	アクション “processearfile”	92
第1章 序章	1	アクション “listj2eeapplication”	94
SM スクリプト API	1	アクション “deletej2eeapplication”	98
第2章 SM スクリプト API のインストール方 法	3	アクション “listj2eemodules”	102
クライアント環境の設定手順	3	アクション “listj2eecomponents”	106
第3章 CB390CMD	5	サーバー・インスタンス	109
アクション “start”	6	アクション “createserverinstance”	111
アクション “stop”	8	アクション “deleteserverinstance”	115
アクション “cancel”	10	アクション “changeserverinstance”	117
アクション “cancelrestart”	12	アクション “listserverinstance”	121
アクション “list”	14	コンテナ	123
第4章 CB390CFG	17	アクション “createcontainer”	125
会話	18	アクション “deletecontainer”	129
アクション “createconversation”	20	アクション “changecontainer”	132
アクション “deleteconversation”	22	アクション “listcontainer”	135
アクション “commitconversation”	24	LRM	138
アクション “listconversation”	27	アクション “createlrm”	140
シスプレックス	29	アクション “deletelrm”	143
アクション “changesysplex”	31	アクション “changelrm”	146
アクション “listsysplex”	33	アクション “listlrm”	149
システム	35	LRMI	151
アクション “createsystem”	37	アクション “createlrmi”	153
アクション “deletesystem”	39	アクション “deletelrmi”	156
アクション “changesystem”	41	アクション “changelrmi”	159
アクション “listsystem”	44	アクション “listlrmi”	162
サーバー	47	コンテナ /LRM 関連	164
アクション “createserver”	49	アクション “associatelrmwithcontainer”	166
アクション “deleteserver”	56	アクション “disassociatelrmfromcontainer”	169
アクション “changeserver”	59	アクション “listlrmassociatedwithcontainer”	171
アクション “listserver”	65	アプリケーション・ファミリー	174
J2EE サーバー	68	アクション “importApplicationfamily”	176
アクション “createj2eeserver”	71	アクション “removeApplicationfamily”	179
アクション “deletej2eeserver”	77	アクション “listApplicationfamily”	181
アクション “changej2eeserver”	80	第5章 XMLGEN	185
		第6章 XMLPARSE	189
		第7章 XMLFIND	193

第8章 XMLEXTRACT	197	inputchangecontainer.xml	228
第9章 デフォルト XML ファイル	201	inputlistcontainer.xml	229
inputcreateconversation.xml	201	inputcreatelrm.xml	230
inputdeleteconversation.xml	202	inputdeletelrm.xml	231
inputcommitconversation.xml	202	inputchangelrm.xml	231
inputlistconversation.xml	203	inputlistlrm.xml	232
inputchangesysplex.xml	204	inputcreatelrmi.xml	233
inputlistsysplex.xml	204	inputdeletelrmi.xml	234
inputcreatesystem.xml	205	inputchangelrmi.xml	234
inputchangesystem.xml	206	inputlistlrmi.xml	235
inputlistsystem.xml	207	inputassociatelrmwithcontainer.xml	236
inputdeletesystem.xml	207	inputdisassociatelrmfromcontainer.xml	237
inputcreateserver.xml	208	inputlistlrmassociatedwithcontainer.xml	238
inputdeleteserver.xml	210	inputimportapplicationfamily.xml	238
inputchangeserver.xml	211	inputremoveapplicationfamily.xml	239
inputlistserver.xml	213	inputlistapplicationfamily.xml	240
inputlistj2eeapplication.xml	214	inputprocessearfile.xml	241
inputdeletej2eeapplication.xml	215	第10章 REXX スクリプトの例	243
inputlistj2eecomponents.xml	215	アクティブなサーバーに対する属性の変更	243
inputlistj2eemodules.xml	216	アクティブなサーバーに対するコンテナお	
inputcreatej2eeserver.xml	217	よび LRM の追加	246
inputdeletej2eeserver.xml	219	アクティブなサーバーからのアプリケーショ	
inputchangej2eeserver.xml	220	ンの削除	250
inputlistj2eeserver.xml	222	付録. 特記事項	253
inputcreateserverinstance.xml	223	本書で使用される例	255
inputdeleteserverinstance.xml	224	プログラミング・インターフェース情報	255
inputchangeserverinstance.xml	225	商標	255
inputlistserverinstance.xml	226	用語集	257
inputcreatecontainer.xml	226		
inputdeletecontainer.xml	227		

本書について

本書では、IBM WebSphere Application Server V4.0 for z/OS and OS/390 システム管理スクリプト API 製品について説明します。この資料では、製品の主要な関数および機能を解説するとともに、SM スクリプト API 実行システムのアップグレード方法についても簡単に説明します。本書は、システム管理 - エンド・ユーザー・インターフェース (SM-EUI) 資料の改訂版ではなく、SM スクリプト API の機能のみを説明しています。

注: 本製品の正式名称は「WebSphere Application Server V4.0 for z/OS and OS/390」ですが、本書では以降、「WebSphere for z/OS」または「Application Server」と記します。

本書の構成

本書は、以下のような構成になっています。

- 1ページの『第1章 序章』では、SM スクリプト API について説明します。
- 3ページの『第2章 SM スクリプト API のインストール方法』では、すでに稼働中のシステム上で SM スクリプト API をインストールする方法 (または SM スクリプト API へアップグレードする方法) を説明します。
- 5ページの『第3章 CB390CMD』では、コマンド・プロセッサ CB390CMD の詳細について説明します。
- 17ページの『第4章 CB390CFG』では、CB390CFG の詳細について説明します。
- 185ページの『第5章 XMLGEN』では、REXX スクリプト XMLGEN の詳細について説明します。
- 189ページの『第6章 XMLPARSE』では、REXX スクリプト XMLPARSE の詳細について説明します。
- 193ページの『第7章 XMLFIND』では、REXX スクリプト XMLFIND の詳細について説明します。
- 197ページの『第8章 XMLEXTRACT』では、REXX スクリプト XMLEXTRACT の詳細について説明します。
- 201ページの『第9章 デフォルト XML ファイル』では、ユーザーによる変更が可能な SM-EUI のデフォルト値を記載しています。

- 243ページの『第10章 REXX スクリプトの例』では、REXX スクリプトで実行可能な各種のアクションの例を示しています。
- 253ページの『付録. 特記事項』では、本書の一般的な情報について説明します。

関連情報の入手先

以下に、WebSphere for z/OS ライブラリーに入っている資料を示します。これらは、次の Web サイトから見付けることができます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/>

- *WebSphere Application Server V4.0 for z/OS and OS/390: プログラム・ディレクトリー*, GA88-8549。WebSphere for z/OS のエレメント、およびインストール方法が説明されています。
- *WebSphere Application Server V4.0 for z/OS and OS/390: License Information*, LA22-7855。WebSphere for z/OS のライセンス情報が説明されています。
- *WebSphere Application Server V4.0 for z/OS and OS/390: インストールおよびカスタマイズ*, GA88-8652。WebSphere for z/OS の計画、インストール、およびカスタマイズの各タスクが説明されています。
- *WebSphere Application Server V4.0 for z/OS and OS/390: メッセージおよび診断*, GA88-8655。WebSphere for z/OS に関連する診断情報ならびにメッセージおよびコードが記載されています。
- *WebSphere Application Server V4.0 for z/OS and OS/390: 操作および管理*, SA88-8653。システム操作および管理タスクが説明されています。
- *WebSphere Application Server V4.0 for z/OS and OS/390: J2EE アプリケーションのアセンブル*, SA88-8654。WebSphere for z/OS J2EE サーバーで使用する J2EE アプリケーションの開発、アセンブル、およびインストールの方法が説明されています。また、以前のリリースの WebSphere Application Server for OS/390、またはその他の WebSphere ファミリー・プラットフォームからアプリケーションをマイグレーションする方法についても記載されています。
- *WebSphere Application Server V4.0 for z/OS and OS/390: CORBA アプリケーションのアセンブル*, SA88-8658。WebSphere for z/OS (MOFW) サーバーで使用する CORBA アプリケーションの開発、アセンブル、および展開の方法が説明されています。
- *WebSphere Application Server V4.0 for z/OS and OS/390: システム管理ユーザー・インターフェース*, SA88-8656。システム管理ユーザー・インターフェースで提供されるシステム管理、および操作タスクが説明されています。

- *WebSphere Application Server V4.0 for z/OS and OS/390*: システム管理スクリプト API, SA88-8657。WebSphere for z/OS システム管理スクリプト API 製品の機能が説明されています。

他の z/OS または OS/390 のエレメントおよび製品に関して、情報が必要な場合は、以下の Web ページ内のリンクから参照することができます。

<http://www.ibm.com/servers/eserver/zseries/zos/>

<http://www.ibm.com/servers/s390/os390/>

以下の資料からは、特に有用な情報を参照することができます。

- *Getting Started with WebSphere Application Server*, SC09-4581。WebSphere for z/OS の概要と環境設定の要件が説明されています。
- *WebSphere* ビジネス構築のソリューション, SC09-4432。

第1章 序章

本章では、SM スクリプト API について説明します。

SM スクリプト API

SM スクリプト API は、WebSphere for z/OS Systems Management の追加機能の 1 つです。すでに WebSphere for z/OS の一部となっている SM-EUI とまったく同じ機能を提供します。現在 SM スクリプト API では、REXX 以外のスクリプト言語はサポートされていません。そのため、SM スクリプト API を使用するには、REXX スクリプトの作成方法について理解していなければなりません。

一般に SM スクリプト API スクリプトは、以下の 3 つの部分で構成されます。

- 入力ファイルを生成する部分
- 関数を呼び出す部分
- 結果を処理する部分

作業を容易にするため、これらの 3 つの部分用に、REXX で作成済みの関数が用意されています。その内容は、以下のとおりです。

- CB390CMD(...). 操作関数の呼び出し用
- CB390CFG(...). 管理関数の呼び出し用
- XMLGEN(...). 入力ファイルの生成用
- XMLPARSE(...). 結果の構文解析用
- XMLFIND(...). 特定の属性または値の検索用
- XMLEXTRACT(...). 既知の属性の抽出用

管理関数を使用するには、デフォルト xml ファイルが必要です。デフォルト xml ファイルには、各アクション用の有効な属性がすべて記載されています。ドキュメントのスタイルは、文書型定義 (DTD) で指定されます。

第2章 SM スクリプト API のインストール方法

現在 SM スクリプト API は、WebSphere for z/OS と完全に統合されており、プリインストールの状態でお届けされます。そのため、本章では、クライアント環境の設定方法についてのみ説明します。

注: 本書で「管理アプリケーション」と呼ばれている製品が、別の資料では、以下のような略称で呼ばれている場合があります。

- SM-EUI
- SM-GUI
- GUI

クライアント環境の設定手順

注意: この手順は、OMVS へログインするたびに実行する必要があります。

クライアント環境を設定するには、以下の手順を実行します。

1. OMVS をオープンします。
2. Java クライアントを z/OS または OS/390 上で使用可能にするには、環境変数 LIBPATH および CLASSPATH に以下の値を追加します。

```
export LIBPATH=$LIBPATH:/lib:/usr/lpp/java/IBM/J1.3/bin:/usr/lpp/java/IBM/J1.3/bin/classic:/usr/lpp/WebSphere/lib
```

(上記のコマンドは、途中で改行せずに入力します。)

```
export CLASSPATH=$CLASSPATH:path/ws390crt.jar
```

これらのファイルのデフォルトの *path* は、`/usr/lpp/WebSphere/lib` です。

環境変数 LIBPATH、CLASSPATH、および PATH の詳細については、*WebSphere Application Server V4.0 for z/OS and OS/390: インストールおよびカスタマイズ*, GA88-8652 の「アプリケーション開発およびクライアント環境」に関する章を参照してください。

3. 既存の CLASSPATH に新しい JAR (Java アーカイブ) ファイルを追加します。これを行うには、以下のコマンドを入力します (これらは、タイプ・センシティブです)。

SM スクリプト API のインストール方法

```
export CLASSPATH=$CLASSPATH:/usr/lpp/WebSphere/lib/xerces.jar
export CLASSPATH=$CLASSPATH:/usr/lpp/WebSphere/lib/ws390sms.jar
```

4. 以下のコマンドを入力して、PATH 環境変数に新しいパスを追加します (これには、大文字小文字の区別があります)。

```
export PATH=$PATH:/usr/lpp/WebSphere/bin
```

5. 以下のコマンドを入力して、新しい環境変数を追加します。これには、大文字小文字の区別があります。

```
export DEFAULT_CLIENT_XML_PATH=/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi
```

6. 以下のコマンドを入力して、設定が正しく行なわれたかどうかを確認します。

```
echo $CLASSPATH
echo $DEFAULT_CLIENT_XML_PATH
echo $PATH
```

どの場合でも、以前に行なった設定は、各ストリングの最後に追加する必要があります。

OMVS 用に使用するユーザーは、WebSphere for z/OS 管理者 (CBADMIN など) として登録されていることを確認してください。管理アプリケーション (SM EUJ) を介して新しい管理者を定義する方法については、*WebSphere Application Server V4.0 for z/OS and OS/390: インストールおよびカスタマイズ*, GA88-8652 を参照してください。

注: IBM は、詳細な情報を記載した *client_environment* というサンプル・ファイルを提供しています。このファイルは、`/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi` ディレクトリーに入っています。

以上で手順の説明を終了します。これで、SM スクリプト API を使用できるようになりました。存分に REXX スクリプトを作成してください。

第3章 CB390CMD

CB390CMD は、アクティブな構成内のサーバーまたはサーバー・インスタンスを制御するためのコマンド・プロセッサです。SM スクリプト API は、SM 操作 EUI と同じ機能を提供します。

構文

```
▶—rc = CB390CMD—("— -action—' start —————'—————▶
                                     | stop —————|
                                     | cancel —————|
                                     | cancelrestart —————|
                                     | list —————|
▶— -server—'servername' — -serverinstance—'serverinstancename' —————▶
▶— -output—'outputfilename' —")—————▶
```

構文の詳細

rc 実行された操作からの戻りコード。操作が正常に完了した場合は 0、エラーが発生した場合は 4 が戻されます。

-action

実行する関数を指定します。CB390CMD API には、以下の関数がインプリメントされています。

start サーバーまたはサーバー・インスタンスを開始します。

stop サーバーまたはサーバー・インスタンスを停止します。

cancel サーバーまたはサーバー・インスタンスをキャンセルします。

cancelrestart

サーバーまたはサーバー・インスタンスをキャンセルして再始動します。

list サーバーまたはサーバー・インスタンスの一覧を表示します。

-server

関数が実行されているサーバーの名前。

-serverinstance

関数が実行されているサーバー・インスタンスの名前。

-output

アクションの結果を保管する一時出力ファイル。この出力ファイルには、より詳しい情報が記録されます。このファイルには、すべてのサーバー・インスタンスの一覧が記録されます。これには、所属サーバーやサーバー・インスタンスの状態なども含まれます。各関数の説明では、出力例を用意しています。出力ファイルを処理するには、XMLPARSE (189ページの『第6章 XMLPARSE』)、XMLFIND (193ページの『第7章 XMLFIND』)、および XMLEXTRACT (197ページの『第8章 XMLEXTRACT』) などの関数を使用します。

アクション “start”

このアクションは、サーバーまたはサーバー・インスタンスを開始します。

構文

```
rc = CB390CMD—" — -action—'start' — -server—'servername' —————>
|
| —————>
| —serverinstance—'serverinstancename' —|
|
|<— -output—'outputfilename' —"—————>>
```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、戻りコード (rc) は「4」になります。

servername

このパラメーターには、関数 `start` が実行されるサーバーの名前を指定します。サーバー名に "*" を設定すると、指定されたサーバー・インスタンスが、関係するすべてのサーバーで開始します。たとえば、サーバー名に "*"、サーバー・インスタンス名に "*" を設定すると、すべてのサーバーのすべてのサーバー・インスタンスが開始します。

serverinstancename

このパラメーターには、関数 `start` が実行されるサーバー・インス

タンスの名前を指定します。サーバー・インスタンス名に "*" を設定するか、または何も設定しないと、指定されたサーバーですべてのサーバー・インスタンスが開始します。

outputfilename

このパラメーターには、関数 `start` の出力データを書き込むファイルの名前を指定します。出力ファイルを処理するには、XMLPARSE (189ページの『第6章 XMLPARSE』)、XMLFIND (193ページの『第7章 XMLFIND』)、および XMLEXTRACT (197ページの『第8章 XMLEXTRACT』) などの関数を使用します。

例 サーバー "BBOASR1" のすべてのサーバー・インスタンスを開始する REXX スクリプトの例を以下に示します。そのあとで REXX スクリプト XMLPARSE を使用すると、出力ファイルの一覧が画面に表示されます。

```

/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

rc = 0

rc = CB390CMD("-action 'start' -servername 'BBOASR1'
              -serverinstancename '*' -output 'FCT33'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #33 failed"
  exit
end

rc = XMLPARSE("FCT33" "ALL")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #33 failed while XMLPARSE"
  exit
end
say "FCT Test #33 completed"
exit

error:
say "Error in FCT Test #33" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

出力ファイルは、以下のようになります。

```

servername.1 BBOASR1
serverinstancename.1 BBOASR1A
serverinstancestatus.1 Active
servername.2 BBOASR1
serverinstancename.2 BBOASR1B

```

```
serverinstancestatus.2 Active
status 0
message.1 OK
count 2
```

アクション “stop”

このアクションは、サーバーまたはサーバー・インスタンスを停止します。そのあとで REXX スクリプト XMLPARSE を使用すると、出力ファイルの一覧が画面に表示されます。

構文

```
► rc = CB390CMD (“ — -action—'stop' — -server—'servername' —————►
|
| —serverinstance—'serverinstancename' —|
|
| —output—'outputfilename' —”) —————►
```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、戻りコード (rc) は「4」になります。

servername

このパラメーターには、関数 `stop` が実行されるサーバーの名前を指定します。サーバー名に “*” を設定すると、指定されたサーバー・インスタンスが、関係するすべてのサーバーで停止します。たとえば、サーバー名に “*”、サーバー・インスタンス名に “*” を設定すると、すべてのサーバーのすべてのサーバー・インスタンスが停止します。

serverinstancename

このパラメーターには、関数 `stop` が実行されるサーバー・インスタンスの名前を指定します。サーバー・インスタンス名に “*” を設定するか、または何も設定しないと、指定されたサーバーですべてのサーバー・インスタンスが停止します。

outputfilename

このパラメーターには、関数 `stopped` の出力データを書き込むファイルの名前を指定します。出力ファイルを処理するには、XMLPARSE (189ページの『第6章 XMLPARSE』)、XMLFIND

(193ページの『第7章 XMLFIND』)、および XMLEXTRACT (197ページの『第8章 XMLEXTRACT』)などの関数を使用します。

例 サーバー "BBOASR1" のすべてのサーバー・インスタンスを停止する REXX スクリプトの例を以下に示します。そのあとで REXX スクリプト XMLPARSE を使用すると、出力ファイルの一覧が画面に表示されます。

```

/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

rc = 0

rc = CB390CMD("-action 'stop' -servername 'BBOASR1'
             -serverinstancename '*' -output 'FCT34'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #34 failed"
  exit
end

rc = XMLPARSE("FCT34" "ALL")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #34 failed while XMLPARSE"
  exit
end
say "FCT Test #34 completed"
exit

error:
say "Error in FCT Test #34" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

出力ファイルは、以下のようになります。

```

servername.1 BBOASR1
serverinstancename.1 BBOASR1A
serverinstancestatus.1 Stopped
servername.2 BBOASR1
serverinstancename.2 BBOASR1B
serverinstancestatus.2 Stopped
status 0
message.1 OK
count 2

```

アクション “cancel”

このアクションは、サーバーまたはサーバー・インスタンスをキャンセルします。

構文

```
rc = CB390CMD(" — -action—'cancel' — -server—'servername' —————→
└──────────────────────────────────────────────────────────────────────────┘
- -serverinstance—'serverinstancename' —————→
- -output—'outputfilename' —")————→
```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、戻りコード (rc) は「4」になります。

servername

このパラメーターには、関数 `cancel` が実行されるサーバーの名前を指定します。サーバー名に "*" を設定すると、指定されたサーバー・インスタンスが、関係するすべてのサーバーでキャンセルされます。たとえば、サーバー名に "*"、サーバー・インスタンス名に "*" を設定すると、すべてのサーバーのすべてのサーバー・インスタンスがキャンセルされます。

serverinstancename

このパラメーターには、関数 `cancel` が実行されるサーバー・インスタンスの名前を指定します。サーバー・インスタンス名に "*" を設定するか、または何も設定しないと、指定されたサーバーですべてのサーバー・インスタンスがキャンセルされます。

outputfilename

このパラメーターには、関数 `cancel` の出力データを書き込むファイルの名前を指定します。出力ファイルを処理するには、XMLPARSE (189ページの『第6章 XMLPARSE』)、XMLFIND (193ページの『第7章 XMLFIND』)、および XMLEXTRACT (197ページの『第8章 XMLEXTRACT』) などの関数を使用します。

例 サーバー "BBOASR1" のすべてのサーバー・インスタンスをキャンセル

ルする REXX スクリプトの例を以下に示します。そのあとで REXX スクリプト XMLPARSE を使用すると、出力ファイルの一覧が画面に表示されます。

```

/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

rc = 0

rc = CB390CMD("-action 'cancel' -servername 'BBOASR1'
             -serverinstancename '*' -output 'FCT35'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #35 failed"
  exit
end

rc = XMLPARSE("FCT35" "ALL")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #35 failed while XMLPARSE"
  exit
end
say "FCT Test #35 completed"
exit

error:
say "Error in FCT Test #35" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

この関数が実行されるサーバー・インスタンスは、すぐにはキャンセルされていないこともあるため、この関数の出力は大変重要です。そのため、ここで示すサーバー・インスタンスの状態は、唯一のものであるとは限りません。

出力ファイルは、以下のようになります。

```

servername.1 BBOASR1
serverinstancename.1 BBOASR1A
serverinstancestatus.1 Stopped
servername.2 BBOASR1
serverinstancename.2 BBOASR1B
serverinstancestatus.2 Stopped
status 0
message.1 OK
count 2

```

アクション “cancelrestart”

このアクションは、サーバーまたはサーバー・インスタンスをキャンセルして再始動します。

構文

```
rc = CB390CMD—" — -action—'cancelrestart' — -server—'servername' ————
|
| — -serverinstance—'serverinstancename' —
|
| — -output—'outputfilename' —")
```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、戻りコード (rc) は「4」になります。

servername

このパラメーターには、関数 `cancelrestart` が実行されるサーバーの名前を指定します。サーバー名に "*" を設定すると、指定されたサーバー・インスタンスが、関係するすべてのサーバーでキャンセルされ再始動されます。たとえば、サーバー名に "*"、サーバー・インスタンス名に "*" を設定すると、すべてのサーバーのすべてのサーバー・インスタンスがキャンセルされ再始動されます。

serverinstancename

このパラメーターには、関数 `cancelrestart` が実行されるサーバー・インスタンスの名前を指定します。サーバー・インスタンス名に "*" を設定するか、または何も設定しないと、指定されたサーバーですべてのサーバー・インスタンスがキャンセルされ再始動されません。

outputfilename

このパラメーターには、関数 `cancelrestart` の出力データを書き込むファイルの名前を指定します。出力ファイルを処理するには、XMLPARSE (189ページの『第6章 XMLPARSE』)、XMLFIND (193ページの『第7章 XMLFIND』)、および XMLEXTRACT (197ページの『第8章 XMLEXTRACT』) などの関数を使用します。

例 サーバー "BBOASR1" のすべてのサーバー・インスタンスをキャンセル

ルして再始動する REXX スクリプトの例を以下に示します。そのあとで REXX スクリプト XMLPARSE を使用すると、出力ファイルの一覧が画面に表示されます。

```

/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

rc = 0

rc = CB390CMD("-action 'cancelrestart' -servername 'BBOASR1'
             -serverinstancename '*' -output 'FCT36'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #36 failed"
  exit
end

rc = XMLPARSE("FCT36" "ALL")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #36 failed while XMLPARSE"
  exit
end
say "FCT Test #36 completed"
exit

error:
say "Error in FCT Test #36" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

この関数が実行されるサーバー・インスタンスは、すぐにキャンセルして再始動されていないこともあるため、この関数の出力は大変重要です。そのため、ここで示すサーバー・インスタンスの状態は、唯一のものであるとは限りません。出力ファイルは、以下のようになります。

```

servername.1 BBOASR1
serverinstancename.1 BBOASR1A
serverinstancename.1 Stopped
servername.2 BBOASR1
serverinstancename.2 BBOASR1B
serverinstancename.2 Stopped
status 0
message.1 OK
count 2

```

アクション “list”

このアクションは、サーバーまたはサーバー・インスタンスの一覧を表示します。

構文

```
rc = CB390CMD(" — -action—'list' — -server—'servername' —————→
|
| —serverinstance—'serverinstancename' —————→
|
— -output—'outputfilename' —")————→
```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、戻りコード (rc) は「4」になります。

servername

このパラメーターには、関数 `list` が実行されるサーバーの名前を指定します。サーバー名に `"*` を設定すると、指定されたサーバー・インスタンスが、関係するすべてのサーバーで一覧表示されます。たとえば、サーバー名に `"*`、サーバー・インスタンス名に `"*` を設定すると、すべてのサーバーのすべてのサーバー・インスタンスが一覧表示されます。

serverinstancename

このパラメーターには、関数 `list` が実行されるサーバー・インスタンスの名前を指定します。サーバー・インスタンス名に `"*` を設定するか、または何も設定しないと、指定されたサーバーですべてのサーバー・インスタンスが一覧表示されます。

outputfilename

このパラメーターには、関数 `list` の出力データを書き込むファイルの名前を指定します。出力ファイルを処理するには、XMLPARSE (189ページの『第6章 XMLPARSE』)、XMLFIND (193ページの『第7章 XMLFIND』)、および XMLEXTRACT (197ページの『第8章 XMLEXTRACT』) などの関数を使用します。

例 すべてのサーバーのすべてのサーバー・インスタンスを一覧表示する

REXX スクリプトの例を以下に示します。そのあとで REXX スクリプト XMLPARSE を使用すると、出力ファイルの一覧が画面に表示されま

```

/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

rc = 0

rc = CB390CMD("-action 'list' -servername '*'
             -serverinstancename '*' -output 'FCT47'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #47 failed"
  exit
end

rc = XMLPARSE("FCT47" "ALL")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #47 failed while XMLPARSE"
  exit
end
say "FCT Test #47 completed"
exit

error:
say "Error in FCT Test #47" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

出力ファイルは、以下のようになります。

```

servername.1 BBOASR1
serverinstancename.1 BBOASR1A
serverinstancestatus.1 Stopped
servername.2 BBOASR1
serverinstancename.2 BBOASR1B
serverinstancestatus.2 Stopped
servername.3 BBOASR2
serverinstancename.3 BBOASR2A
serverinstancestatus.3 Stopped
servername.4 BBOASR2
serverinstancename.4 BBOASR2B
serverinstancestatus.4 Stopped
servername.5 BBOASR3
serverinstancename.5 BBOASR3A
serverinstancestatus.5 Stopped
servername.6 BBOASR3
serverinstancename.6 BBOASR3B
serverinstancestatus.6 Stopped
servername.7 CBDAEMON
serverinstancename.7 DAEMON01
serverinstancestatus.7 Active
servername.8 CBINTFRP
serverinstancename.8 INTFRP01

```

CB390CMD

```
serverinstancestatus.8 Active  
servername.9 CBNAMING  
serverinstancename.9 NAMING01  
serverinstancestatus.9 Active  
servername.10 CBSYSMGT  
serverinstancename.10 SYSMGT01  
serverinstancestatus.10 Active  
status 0  
message.1 OK  
count 10
```

第4章 CB390CFG

CB390CFG は、z/OS または OS/390 のサーバーおよびアプリケーションを構成するために使用され、SM Administration EUJ と同じ機能を提供します。

構文

```
► rc = CB390CFG—(“ — -action—'actionname' —————►  
  
► -xmlinput—'defaultxmlfilename' —————►  
└── -input—'inputfilename' ───┘  
  
► -output—'outputfilename' —”)—————►
```

構文の詳細

rc 実行された操作からの戻りコード。操作が正常に完了した場合は 0、エラーが発生した場合は 4 が戻されます。

-action

実行する関数を指定します。各アクションについては、次のセクションで説明します。

-xmlinput

デフォルト xml ファイルの名前。これは、操作で必要とされる属性が含まれた xml ファイルです。文書型定義 (DTD) は、このファイルにコーディングします。デフォルト xml ファイルは、201 ページの『第9章 デフォルト XML ファイル』にすべて記載されています。

-input

一時入力 xml ファイルの名前。このパラメーターは任意に指定します。**-input** を設定した場合は、REXX 関数 **XMLGEN** を使用して、入力ファイルで指定したパラメーターとデフォルト xml ファイルをマージする必要があります。関数 **XMLGEN** については、185 ページの『第5章 XMLGEN』で説明しています。

-output

アクションの結果を保管する一時出力ファイル。この出力ファイルには、より詳細な情報が記録されます。各関数の説明では、出力例を用意しています。出力ファイルを処理するには、**XMLPARSE**

(189ページの『第6章 XMLPARSE』)、XMLFIND (193ページの『第7章 XMLFIND』)、および XMLEXTRACT (197ページの『第8章 XMLEXTRACT』)などの関数を使用します。

会話

以下の関数は、会話を変更するために提供されています。

構文

```

▶ rc = CB390CFG—" -action—" create- conversation-
                        delete-
                        commit-
                        list-
▶ -xmlinput—"defaultxmlfilename" -input—"inputfilename"
▶ -output—"outputfilename" —")

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、戻りコード (rc) は「4」になります。

-action

createconversation

新しい会話を作成します。

deleteconversation

会話を削除します。

commitconversation

会話をコミットまたはアクティブにします。

listconversation

会話の一覧を表示します。

-xmlinput

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、実行するアクションの必須パラメーターをすべて指定する必要があります。このファイルは、文書型定義 (DTD) が指定された xml ファイルです。DTD では、文書構造の指定のみを行いません。ユーザーは、各パラメーターのデフォルト値を指定することができます。

これらのパラメーターは、REXX スクリプトで入力パラメーターを介してオーバーライドすることができます。デフォルト xml ファイルは、201ページの『第9章 デフォルト XML ファイル』にすべて記載されています。これらのファイル内のパラメーターには、SM Administration EUI のデフォルト値が設定されています。デフォルト xml ファイルは、環境変数 `DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` で指定されたパスに含まれていなければなりません。もし、含まれていない場合は、このデフォルト xml ファイルのパスを指定する必要があります。

たとえば、`-xmlinput 'inputcreateconversation.xml'` では、`DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` 内のデフォルト入力 xml ファイルが指定されますが、`-xmlinput './inputcreateconversation.xml'` では、現在のディレクトリー内のファイルが指定されます。

デフォルト xml ファイルのデフォルト・パスを変更するには、環境変数 `DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` に別の既存のパスを設定します。この場合は、そのパスが存在するとともに、使用するデフォルト xml ファイルがそのディレクトリーに入っていることを確認してください。

-input

これは、CB390CFG API のオプション・パラメーターです。デフォルト xml ファイルのパラメーターをオーバーライドする名前値ペアが入った入力ファイルを指定します。REXX 変数を使用して xml ファイルを生成するには、XMLGEN と呼ばれるツールを使用します。XMLGEN ツールについては、185ページの『第5章 XMLGEN』で説明しています。

重要: パラメーターとデフォルト xml ファイルがマージされると、入力ファイルは削除されます。

-output

出力ファイルには、より詳細な情報が記録されます。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。各会話アクションの説明では、出力ファイルの例を用意しています。会話アクションの一般的な出力形式は、以下のようになります。

```

administratorname.1 AdministratorName
conversationdescription.1 ConversationDescription
conversationname.1 ConversationName
status 0|4
message.1 OK|ErrorMessage
count NumberOfListedConversations

```

アクション “createconversation”

このアクションは、新しい会話を作成します。この新しい会話は、アクティブな会話のコピーです。

構文

```
rc = CB390CFG—" -action—'createconversation' —————→
-xmlinput—'defaultxmlfilename' —————→
      |——-input—'inputfilename'———|
- output—'outputfilename' —"————→
```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。

createconversation のデフォルト xml ファイル

"inputcreateconversation.xml" は、201ページの

『inputcreateconversation.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリに入っています。

このディレクトリが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 'inputcreateconversation.xml' を入力するだけで構いません。ディレクトリが指定されていない場合は、このパラメーターに

'/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputcreateconversation.xml' を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリを設定する必要があります。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイルを指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト

xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについては、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める必要があります。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、この会話アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須 属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、201ページの『inputcreateconversation.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
conversationdescription	会話の説明	

例 スクリプトの例を以下に示します。

```

/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "conversationdescription"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "Conversation for the Function Test"

rc = 4
i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #03 failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

```

```

rc = CB390CFG("-action 'createconversation' -xmlinput
'inputcreateconversation.xml' -input 'tempin'
-output 'FCT03'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #03 failed"
  exit
end
exit

error:
say "Error in FCT Test #03" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

出力ファイルは、以下ようになります。

```
cfgcreateconversation_output
```

アクション “deleteconversation”

このアクションは、名前付き会話を削除します。

構文

```

▶▶ rc = CB390CFG(“ — -action—'deleteconversation' —————▶
▶ -xmlinput—'defaultxmlfilename' —————▶
   └── -input—'inputfilename' ───┘
▶ -output—'outputfilename' —”) —————▶▶

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。

`deleteconversation` のデフォルト xml ファイル

"inputdeleteconversation.xml" は、202ページの

『inputdeleteconversation.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。

このディレクトリーが環境変数 `DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` に指定されている場合は、ファイル名 `"inputdeleteconversation.xml"` を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに `"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputdeleteconversation.xml"` を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、`DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` にそのディレクトリーを設定する必要があります。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイルを指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについては、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める必要があります。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、`/tmp` ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、この会話アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、202ページの『inputdeleteconversation.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x

例 スクリプトの例を以下に示します。

```
/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

name.= 0
name.1 = "conversationname"
```

```

val.= 0
val.1 = "API Functiontest"

rc=4
i=1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #05 failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

rc = CB390CFG("-action 'deleteconversation' -xmlinput
'inputdeleteconversation.xml' -input 'tempin' -output
'FCT05'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #05 failed"
  exit
end
exit

error:
say "Error in FCT Test #05" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

出力ファイルは、以下のようになります。

```

administratorname.1 CBADMIN
conversationdescription.1 Conversation for the Function Test
conversationname.1 API Functiontest
status 0
message.1 OK
count 1

```

アクション “commitconversation”

このアクションは、名前付き会話をコミットしてアクティブにします。

構文

```

▶—rc = CB390CFG—(“— -action—'commitconversation' —————▶

▶— -xmlinput—'defaultxmlfilename' —————▶
   └── -input—'inputfilename' ───┘

▶— -output—'outputfilename' —”)—————▶

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。

commitconversation のデフォルト xml ファイル

"inputcommitconversation.xml" は、202ページの

『inputcommitconversation.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。

このディレクトリーが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 "inputcommitconversation.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに

"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputcommitconversation.xml" を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設定する必要があります。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイルを指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについては、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める必要があります。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、この会話アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須属性は、デフォルト xml ファイル内に定義

する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、202ページの『inputcommitconversation.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x

例 スクリプトの例を以下に示します。

```

/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

name. = 0
name.1 = "conversationname"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"

rc=4
i=1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #04 failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

rc = CB390CFG("-action 'commitconversation' -xmlinput
'inputcommitconversation.xml'
-input 'tempin' -output 'FCT04'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #04 failed"
  exit
end
exit

error:
say "Error in FCT Test #04" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)

exit

```

出力ファイルは、以下のようになります。

を使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設定する**必要があります**。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイル指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについては、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める**必要があります**。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、この会話アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須 属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、203ページの『inputlistconversation.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前。 "*" を設定すると、管理者に関連するすべての会話が一覧表示されます。	x

例 スクリプトの例を以下に示します。

```
/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

name.= 0
name.1 = "conversationname"

val.= 0
val.1 = "API Functiontest"

rc = 4
i = 1
```

```

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #06 failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

rc = CB390CFG("-action 'listconversation' -xmlinput
'inputlistconversation.xml' -input 'tempin' -output
'FCT06'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #06 failed"
  exit
end

exit

error:
say "Error in FCT Test #06" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

出力ファイルは、以下のようになります。

cfglistconversation_output

シスプレックス

以下の関数は、シスプレックスを変更するために提供されています。

構文

```

▶ rc = CB390CFG—" -action—' change- sysplex—'
                    list-
▶ -xmlinput—'defaultxmlfilename' —' —input—'inputfilename' —'
▶ -output—'outputfilename' —")

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、戻りコード (rc) は「4」になります。

-action

changesysplex

シスプレックスを変更します。

listsysplex

シスプレックスの一覧を表示します。

-xmlinput

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、実行するアクションの必須パラメーターをすべて指定する必要があります。このファイルは、文書型定義 (DTD) が指定された xml ファイルです。DTD では、文書構造の指定のみを行いません。ユーザーは、各パラメーターのデフォルト値を指定することができます。これらのパラメーターは、REXX スクリプトで入力パラメーターを介してオーバーライドすることができます。デフォルト xml ファイルは、201ページの『第9章 デフォルト XML ファイル』にすべて記載されています。これらのファイル内のパラメーターには、SM Administration EUI のデフォルト値が設定されています。

デフォルト xml ファイルは、環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH で指定されたパスに含まれていなければなりません。もし、含まれていない場合は、このデフォルト xml ファイルのパスを指定する必要があります。

たとえば、`-xmlinput 'inputchangesysplex.xml'` では、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH 内のデフォルト入力 xml ファイルが指定されますが、`-xmlinput './inputchangesysplex.xml'` では、現在のディレクトリー内のファイルが指定されます。

デフォルト xml ファイルのデフォルト・パスを変更するには、環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に別の既存のパスを設定します。この場合は、そのパスが存在するとともに、使用するデフォルト xml ファイルがそのディレクトリーに入っていることを確認してください。

-input

これは、CB390CFG API のオプション・パラメーターです。デフォルト xml ファイルのパラメーターをオーバーライドする名前値ペアが入った入力ファイルを指定します。REXX 変数を使用して xml ファイルを生成するには、XMLGEN と呼ばれるツールを使用します。XMLGEN ツールについては、185ページの『第5章 XMLGEN』で説明しています。

重要: パラメーターとデフォルト xml ファイルがマージされると、入力ファイルは削除されます。

-output

出力ファイルには、より詳細な情報が記録されます。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。各シスプレックス・アクションの説明では、出力ファイルの例を用意しています。

アクション “changesysplex”

このアクションは、シスプレックスの属性を変更します。

構文

```

▶ rc = CB390CFG—" -action—'changesysplex' —————▶
▶ -xmlinput—'defaultxmlfilename' —————▶
   |                                     |
   | -input—'inputfilename' —————▶
▶ -output—'outputfilename' —")—————▶

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。

changesysplex のデフォルト xml ファイル "inputchangesysplex.xml" は、204ページの『inputchangesysplex.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。

このディレクトリーが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 'inputchangesysplex.xml' を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに

'/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputchangesysplex.xml' を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分デフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設定する必要があります。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイル指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める必要があります。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、このシスプレックス・アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、204ページの『inputchangesysplex.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
sysplexname	シスプレックスの名前	x
sysplexdescription	シスプレックスの説明	
logstreamname	ログ・ストリームの名前	x

例 スクリプトの例を以下に示します。

```

/* REXX function */
/* Functiontest Test: changesysplex*/
/* Dependencies: */
/* The sysplex "PLEX1" must be added*/
/* The conversation "API Functiontest" must be added*/
call syscalls 'ON'
signal on error

say "FCT Test changesysplex"

name. = 0
name.1 = "sysplexname"
name.2 = "sysplexdescription"
name.3 = "environment"
name.4 = "conversationname"

val. = 0
val.1 = "PLEX1"

```

```

val.2 = "My new description"
val.3 = "CLASSPATH='/usr/lpp/WebSphere/jars' PATH='/usr/lpp/WebSphere/bin'
DEFAULT_CLIENT_XML_PATH='/sm/xml'"
val.4 = "API Functiontest"

rc = 4
i = 1

/* Generate XML Input */
do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test changesysplex failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

/* Call the function: changesysplex */
rc = CB390CFG("-action 'changesysplex' -xmlinput 'inputchangesysplex.xml'
-input 'tempin' -output 'changesysplex'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test changesysplex failed"
  exit
end

/* Parse the result */
rc = XMLPARSE("changesysplex" "ALL")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test changesysplex failed while XMLPARSE"
  exit
end
say "FCT Test changesysplex completed"
return 0

exit
error:
say "Error in FCT Test changesysplex" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

アクション “listsysplex”

このアクションは、シスプレックスの属性の一覧を表示します。

構文

```

▶—rc = CB390CFG—(“— -action—'listsysplex' —————→

```



```

▶ -xmlinput—'defaultxmlfilename' —————→
└── -input—'inputfilename' ───┘

```

▶ -output-'outputfilename' -")▶

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。listsysplex のデフォルト xml ファイル "inputlistsysplex.xml" は、204ページの『inputlistsysplex.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。

このディレクトリーが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 'inputlistsysplex.xml' を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに

'/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputlistsysplex.xml' を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設定する必要があります。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイル指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める必要があります。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、このシスプレックス・アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須 属性は、デフォルト xml ファ

イル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、204ページの『inputlistsplex.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
sysplexname	シスプレックスの名前	x

システム

以下の関数は、システムを変更するために提供されています。

構文

```

▶—rc = CB390CFG—(“— -action—’
    create—’ system—’
    delete—’
    change—’
    list—’
—)

▶— -xmlinput—’defaultxmlfilename’
    — -input—’inputfilename’ —)

▶— -output—’outputfilename’ —)

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、戻りコード (rc) は「4」になります。

-action

createsystem

新しいシステムを作成します。

deletesystem

システムを削除します。

changesystem

システムを変更します。

listsystem

システムの一覧を表示します。

-xmlinput

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、実行するアクションの必須パラメーターをすべて指定する必要があります。このファイルは、文書型定義 (DTD) が指定された xml ファイルです。DTD では、文書構造の指定のみを行いません。ユーザーは、各パラメーターのデフォルト値を指定することができます。これらのパラメーターは、REXX スクリプトで入力パラメーターを介してオーバーライドすることができます。デフォルト xml ファイルは、201ページの『第9章 デフォルト XML ファイル』にすべて記載されています。これらのファイル内のパラメーターには、SM Administration EUI のデフォルト値が設定されています。デフォルト xml ファイルは、環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH で指定されたパスに含まれていなければなりません。もし、含まれていない場合は、このデフォルト xml ファイルのパスを指定する必要があります。

たとえば、`-xmlinput 'inputcreatesystem.xml'` では、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH 内のデフォルト入力 xml ファイルが指定されますが、`-xmlinput './inputcreatesystem.xml'` では、現在のディレクトリー内のファイルが指定されます。

デフォルト xml ファイルのデフォルト・パスを変更するには、環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に別の既存のパスを設定します。この場合は、そのパスが存在するとともに、使用するデフォルト xml ファイルがそのディレクトリーに入っていることを確認してください。

-input

これは、CB390CFG API のオプション・パラメーターです。デフォルト xml ファイルのパラメーターをオーバーライドする名前値ペアが入った入力ファイルを指定します。REXX 変数を使用して xml ファイルを生成するには、XMLGEN と呼ばれるツールを使用します。XMLGEN ツールについては、185ページの『第5章 XMLGEN』で説明しています。

重要: パラメーターとデフォルト xml ファイルがマージされると、入力ファイルは削除されます。

-output

出力ファイルには、より詳細な情報が記録されます。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。各システム・アクションの説明では、出力ファイルの例を用意しています。

アクション “createsystem”

このアクションは、新しいシステムを作成します。この新しいシステムは、アクティブなシステムのコピーです。

構文

```

▶▶ rc = CB390CFG—" -action—'createsystem' —————▶
▶ -xmlinput—'defaultxmlfilename' —————▶
    |                                     |
    | -input—'inputfilename' —————▶
    |
▶▶ -output—'outputfilename' —"—————▶▶
  
```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。createsystem のデフォルト xml ファイル "inputcreatesystem.xml" は、205ページの『inputcreatesystem.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。

このディレクトリーが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 'inputcreatesystem.xml' を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに

'/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputcreatesystem.xml' を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設定する必要があります。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイルを指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章

XMLGEN』) を使用します。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める必要があります。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、このシステム・アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、205ページの『inputcreatesystem.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
systemname	システムの名前	x
systemdescription	システムの説明	

例 スクリプトの例を以下に示します。

```

/* REXX function */
/* Functiontest Test  createsystem*/
/* Dependencies: */
/* The conversation "API Functiontest" must be added*/
/* The system "SY2" must not be added in the conversation "API Functiontest"*/
call syscalls 'ON'
signal on error

say "FCT Test #createsystem"

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "systemname"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "SY2"
rc = 4
i = 1

/* Generate XML Input */
do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #createsystem failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

/* Call the function: createsystem */
rc = CB390CFG("-action 'createsystem' -xmlinput 'inputcreatesystem.xml'

```



```

-input 'tempin' -output 'createsystem'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #createsystem failed"
  exit
end

/* Parse the result */
rc = XMLPARSE("createsystem" "ALL")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #createsystem failed while XMLPARSE"
  exit
end
say "FCT Test #createsystem completed"
return 0

exit
error:
say "Error in FCT Test #createsystem" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

アクション “deletesystem”

このアクションは、名前付きシステムを削除します。

構文

```

▶—rc = CB390CFG—(“— -action—'deletesystem' —————→

▶— -xmlinput—'defaultxmlfilename' —————→
   |                                     |
   |— -input—'inputfilename' —————→

▶— -output—'outputfilename' —”)—————→

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。deletesystem のデフォルト xml ファイル "inputdeletesystem.xml" は、207ページの『inputdeletesystem.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリに入っています。

このディレクトリが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 "inputdeletesystem.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリが指定されていない場合

は、このパラメーターに
 "/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputdeletesystem.xml" を
 設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを
 完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを
 使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定する
 か、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設
 定する必要があります。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれる
 ファイルを指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト
 xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章
 XMLGEN』) を使用します。このファイルが存在しない場合は、デ
 フォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める
 必要があります。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力フ
 ァイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、この会話アクション用として認められている属性がすべ
 て含まれています。必須 属性は、デフォルト xml ファイル内に定義
 する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章
 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml
 ファイルは、207ページの『inputdeletesystem.xml』に記載されていま
 す。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
systemname	システムの名前	x

例 スクリプトの例を以下に示します。

```
/* REXX function */
/* Functiontest Test 09: deletesystem*/

/* Dependencies: */
/* The conversation "API Functiontest" must be added*/
/* The system "SY2" must be added in the conversation "API Functiontest"*/
call syscalls 'ON'
signal on error

say "FCT Test #deletesystem"
```

```

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "systemname"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "SY2"

rc = 4
i = 1

/*Generate XML Input */
do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #deletesystem failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

/* Call the function: deletesystem */
rc = CB390CFG("-action 'deletesystem' -xmlinput 'inputdeletesystem.xml'
-input 'tempin' -output 'deletesystem'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #deletesystem failed"
  exit
end

/* Parse the result */
rc = XMLPARSE("deletesystem" "ALL")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #deletesystem failed while XMLPARSE"
  exit
end
say "FCT Test #deletesystem completed"
exit

error:
say "Error in FCT Test #deletesystem" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

アクション “changesystem”

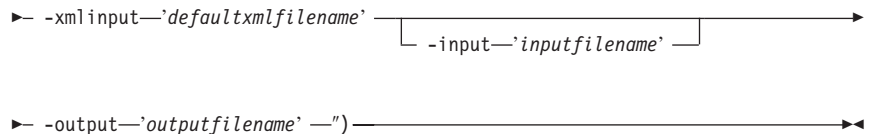
このアクションは、名前付きシステムの属性を変更します。

構文

```

▶—rc = CB390CFG—(“— -action—'changesystem' —————▶

```



構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。changesystem のデフォルト xml ファイル "inputchangesystem.xml" は、206ページの『inputchangesystem.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリに入っています。

このディレクトリが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 "inputchangesystem.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリが指定されていない場合は、このパラメーターに

"usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputchangesystem.xml" を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリを設定する必要があります。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイルを指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める必要があります。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリ内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、このシステム・アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須 属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、206ページの『inputchangesystem.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
systemname	システムの名前	x
systemdecription	システムの説明	

例 スクリプトの例を以下に示します。

```

/* REXX function */
/* Functiontest Test : changesystem*/
/* Dependencies: */
/* The conversation "API Functiontest" must be added*/
/* The system "SY2" must be added in the conversation "API Functiontest"*/
call syscalls 'ON'
signal on error

say "FCT Test #changesystem"

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "systemname"
name.3 = "systemdescription"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "SY2"
val.3 = "New description"

rc = 4
i = 1

/* Generate XML Input */
do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #changesystem failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

/* Call the function: changeesystem */
rc = CB390CFG("-action 'changesystem' -xmlinput 'inputchangesystem.xml'

```

```

-input 'tempin' -output 'changesystem')
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #changesystem failed"
  exit
end

/* Parse the result */
rc = XMLPARSE("changesystem" "ALL")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #changesystem failed while XMLPARSE"
  exit
end
say "FCT Test #changesystem completed"
return 0
exit

error:
say "Error in FCT Test #changesystem" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

アクション “listsystem”

このアクションは、名前付きシステムの一覧を表示します。システム名に "*" を設定すると、すべてのシステムが一覧表示されます。

構文

```

▶—rc = CB390CFG—(“— -action—'listsystem' —————▶
▶— -xmlinput—'defaultxmlfilename' —————▶
   |                                     |
   |— -input—'inputfilename' —————▶
▶— -output—'outputfilename' —”)—————▶

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。listsystem のデフォルト xml ファイル "inputlistsystem.xml" は、207ページの

『inputlistsystem.xml』に記載されています。このファイルは、
"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。

このディレクトリーが環境変数 `DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` に指定されている場合は、ファイル名 "inputlistsystem.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに
"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputlistsystem.xml" を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、`DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` にそのディレクトリーを設定する必要があります。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイルを指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める必要があります。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、このシステム・アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須 属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、207ページの『inputlistsystem.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前。 "*" を設定すると、管理者に関連するすべての会話が一覧表示されます。	x
systemname	システムの名前	x

例 スクリプトの例を以下に示します。

```

/* REXX function */
/* Functiontest Test listsystem: listsystem*/

/* Dependencies: */
/* For Part 1: "List special system" the system "SY2" must be created */
/*           conversation "API Functiontest" must be added */
/* For Part 2: "List all systems" none */
call syscalls 'ON'
signal on error
say "FCT Test #listsystem"

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "systemname"

/* Part 1: */
/* List special system */

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "SY1"

rc = 4
i = 1

/* Generate XML Input */
do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #listsystem failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

/* Call the function: listsystem */
rc = CB390CFG("-action 'listsystem' -xmlinput 'inputlistsystem.xml'
-input 'tempin' -output 'listsystem'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #listsystem failed"
  exit
end

/* Parse the result */
rc = XMLPARSE("listsystem" "ALL")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #listsystem failed while XMLPARSE"
  exit
end

/* Part 2: */
/* List all systems */

val.2 = "*"
i=1

```



```

/* Generate XML Input */
do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if rc == 4 then do
    say "FCT Test #listsystem failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

/* Call the function: listsystem */
rc = CB390CFG("-action 'listsystem' -xmlinput 'inputlistsystem.xml'
-input 'tempin' -output 'listsystemB'")
if rc == 4 then do
  say "FCT Test #listsystem failed"
  exit
end

/* Parse the result */
rc = XMLPARSE("listsystemB" "ALL")
if rc == 4 then do
  say "FCT Test #listsystem failed while XMLPARSE"
  exit
end
say "FCT Test #listsystem completed"
exit

error:
say "Error in FCT Test #listsystem" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

サーバー

以下の関数は、サーバーを変更するために提供されています。

構文

```

▶▶ rc = CB390CFG(("-action-'create- server-'
                  delete-
                  change-
                  list-
                  ')
▶ -xmlinput-'defaultxmlfilename'
  [-input-'inputfilename' -]
▶ -output-'outputfilename' -")

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、戻りコード (rc) は「4」になります。

action

<i>createserver</i>	新しいサーバーを作成します。
<i>deleteserver</i>	サーバーを削除します。
<i>changeserver</i>	サーバーを変更します。
<i>listserver</i>	サーバーの一覧を表示します。

-xmlinput

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、実行するアクションの必須パラメーターをすべて指定する**必要があります**。このファイルは、文書型定義 (DTD) が指定された xml ファイルです。DTD では、文書構造の指定のみを行いません。ユーザーは、各パラメーターのデフォルト値を指定することができます。これらのパラメーターは、REXX スクリプトで入力パラメーターを介してオーバーライドすることができます。デフォルト xml ファイルは、201ページの『第9章 デフォルト XML ファイル』にすべて記載されています。これらのファイル内のパラメーターには、SM Administration EUI のデフォルト値が設定されています。

デフォルト xml ファイルは、環境変数 `DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` で指定されたパスに**含まれていなければなりません**。もし、含まれていない場合は、このデフォルト xml ファイルのパスを指定する必要があります。

たとえば、`-xmlinput 'inputcreateserver.xml'` では、`DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` 内のデフォルト入力 xml ファイルが指定されますが、`-xmlinput './inputcreateserver.xml'` では、現在のディレクトリー内のファイルが指定されます。

デフォルト xml ファイルのデフォルト・パスを変更するには、環境変数 `DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` に別の既存のパスを設定します。この場合は、そのパスが存在するとともに、使用するデフォルト xml ファイルがそのディレクトリーに入っていることを確認してください。

-input

これは、CB390CFG API のオプション・パラメーターです。デフォルト xml ファイルのパラメーターをオーバーライドする名前値ペアが入った入力ファイルを指定します。REXX 変数を使用して

xml ファイルを生成するには、XMLGEN と呼ばれるツールを使用します。XMLGEN ツールについては、185ページの『第5章 XMLGEN』で説明しています。

重要: パラメーターとデフォルト xml ファイルがマージされると、入力ファイルは削除されます。

-output

出力ファイルには、より詳細な情報が記録されます。各サーバー・アクションの説明では、出力ファイルの例を用意しています。サーバー・アクションの一般的な出力形式は、以下のようになります。

```

administratorname.1 AdministratorName
allownonauthenticatedclients.1 Y|N
allowserverregiongarbagecollection.1 Y|N
allowssl.1 Y|N
allowuseridpasswd.1 Y|N
conversationname.1 ConversationName
dcekeytabfile.1 DCEKeyTabFile
dcequalityofprotection.1 DCEQualityOfProtectionState
debuggerallowed.1 Y|N
garbagecollectioninterval.1 Number(0-2G)
identityofthecontrolregion.1 IdentityOfTheControlRegion
identityoftheserverregion.1 IdentityOfTheServerRegion
isolationpolicy.1 IsolationPolicyState
localidentity.1 LocalIdentity
logstreamname.1 LogStreamName
procname.1 ProcName
productionserver.1 Y|N
remoteidentity.1 RemoteIdentity
replicationpolicy.1 ReplicationPolicyState
serverdescription.1 ServerDescription
servername.1 ServerName
serverregionjvmname.1 ServerRegionJVMName
serverregionrequiresjvm.1 Y|N
serverregionstacksize.1 Number(0-100000)
sslracfkeyring.1 SSL_RACF_Keyring
sslv2timeout.1 SSL_V2Timeout
sslv3timeout.1 SSL_V3Timeout
sysplexname.1 SysplexName
transactionfactory.1 Y|N
usedce.1 Y|N
useridpassticket.1 Y|N
security.1 Security
status 0|4
message.1 OK|ErrorMessage
count NumberOfListedServers

```

アクション “createserver”

このアクションは、新しいサーバーを作成します。

構文

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、このサーバー・アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須 属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、208ページの『inputcreateserver.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
servername	サーバーの名前	x
serverdescription	サーバーの説明	
identityofthecontrolregion		x
identityoftheserverregion		x
serverregionstacksize	数値	x
productionserver	"Y" または "N" のみ指定可能	x
debuggerallowed	"Y" または "N" のみ指定可能	x
isolationpolicy	以下の値が指定可能: One_Transaction_Per_Server_Region Multiple_Transactions_Per_Server_Region	x
replicationpolicy	以下の値が指定可能: One_Per_Server_Replicate_As_Needed	x
serverregionrequiresjvm	"Y" または "N" のみ指定可能	x
serverregionjvmname	JVM の名前	x
localidentity	ローカル識別の名前	x
remoteidentity	リモート識別の名前	x
transactionfactory	"Y" または "N" のみ指定可能	x
allowserverregiongarbagecollection	"Y" または "N" のみ指定可能	x
garbagecollectioninterval	0 ~ 2G の数値	x
logstreamname	ログ・ストリームの名前	x
procname		x
allownonauthenticatedclients	"Y" または "N" のみ指定可能	x

パラメーター名	値	必須
allowuseridpasswd	"Y" または "N" のみ指定可能	x
useridpassticket	"Y" または "N" のみ指定可能	x
usedce	"Y" または "N" のみ指定可能	x
dcequalityofprotection	以下の値が指定可能: No_Protection Integrity Confidentiality	x
dcekeytabfile	DCE キータブ・ファイルの名前	x
allowssl	"Y" または "N" のみ指定可能	x
sslrackeyring		x
sslv2timeout	1 ~ 100 の数値	x
sslv3timeout	1 ~ 86400 の数値	x
security	<p>セキュリティー・タイプの設定。 セキュリティーの順序を指定します。デフォルト xml ファイルのセキュリティーを指定するには、各セキュリティー・タイプのエレメントを設定する必要があります。セキュリティー・タイプを指定する場合は、属性を設定する必要があります。 REXX で指定する場合は、エレメントを 1 つだけ指定する必要があります。セキュリティーを設定するには、security value [value value ...] と入力します。value には、セキュリティー・タイプの値を指定します。セキュリティーを指定する場合は、値を 1 つ以上設定する必要があります。設定できる値は、以下のとおりです。</p> <p>ISM_DCE ISM_UserID_Password ISM_Pass_Ticket ISM_SSL</p>	
smfwrserveractivity	"Y" または "N" のみ指定可能	x
smfwrcontaineractivity	"Y" または "N" のみ指定可能	x
smfwrserverinterval	"Y" または "N" のみ指定可能	x
smfwrcontainerinterval	"Y" または "N" のみ指定可能	x
smfintervallength	15 ~ 86400 の数値 (または 0)	x

パラメーター名	値	必須
environment	デフォルト xml 内の環境を指定するには、各環境のタイプごとにエレメントを設定する必要があります。環境のタイプを指定する場合は、属性を設定する 必要があります 。 環境を REXX で指定する場合は、エレメントを 1 つだけ指定する必要があります。環境を設定するには、environment name = 'value' [name = 'value' ...] と入力します。name には環境の名前を、value には環境の値を指定します。環境を指定する場合は、name = 'value' ペアを 1 つ以上指定する 必要があります 。	
allowsslclientcerts	"Y" または "N" のみ指定可能	x
olthostname	文字 (256)	x
oltport	1 ~ 65535 の文字値	x
acceptassertedid	"Y" または "N" のみ指定可能	x
allowkerberos	"Y" または "N" のみ指定可能	x
sendassertedid	"Y" または "N" のみ指定可能	x

サーバーのプロパティについては、SM-EUI およびスクリプト API との間で、いくつかの違いがあります。以下の表は、異なる値を示しています。

"DCE 品質保護" のパラメーター

スクリプトの値	GUI の値
Integrity	Message Integrity
Confidentiality	Message Confidentiality

例 スクリプトの例を以下に示します。

```
/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "servername"
name.3 = "identityofthecontrolregion"
```

```

name.4 = "identityoftheserverregion"
name.5 = "serverregionstacksize"
name.6 = "productionserver"
name.7 = "debuggerallowed"
name.8 = "isolationpolicy"
name.9 = "replicationpolicy"
name.10 = "serverregionrequiresjvm"
name.11 = "serverregionjvmname"
name.12 = "localidentity"
name.13 = "remoteidentity"
name.14 = "transactionfactory"
name.15 = "allowserverregiongarbagecollection"
name.16 = "garbagecollectioninterval"
name.17 = "logstreamname"
name.18 = "procname"
name.19 = "allownonauthenticatedclients"
name.20 = "allowuseridpasswd"
name.21 = "useridpassticket"
name.22 = "usedce"
name.23 = "dcequalityofprotection"
name.24 = "dcekeytabfile"
name.25 = "security"
name.26 = "allowssl"
name.27 = "serverdescription"
name.28 = "sslracfkeyring"
name.29 = "sslv2timeout"
name.30 = "sslv3timeout"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "APIFCT"
val.3 = "IBMUSER"
val.4 = "IBMUSER"
val.5 = "0"
val.6 = "Y"
val.7 = "N"
val.8 = "Multiple_Transactions_Per_Server_Region"
val.9 = "One_Per_Server"
val.10 = "N"
val.11 = ""
val.12 = "CBGUEST"
val.13 = "CBGUEST"
val.14 = "N"
val.15 = "Y"
val.16 = "50000"
val.17 = ""
val.18 = "BBOASR1"
val.19 = "Y"
val.20 = "Y"
val.21 = "N"
val.22 = "N"
val.23 = "No_Protection"
val.24 = ""
val.25 = "ISM_UserID_Password"
val.26 = "N"

```



```

val.27 = "APIFCT Description"
val.28 = ""
val.29 = "100"
val.30 = "600"

rc = 4
i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #07 failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

rc = CB390CFG("-action 'createserver' -xmlinput 'inputcreateserver.xml'
              -input 'tempin' -output 'FCT07'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #07 failed"
  exit
end
exit

error:
say "Error in FCT Test #07" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

出力ファイルは、以下のようになります。

```

administratorname.1 CBADMIN
allownonauthenticatedclients.1 Y
allowserverregiongarbagecollection.1 Y
allowssl.1 N
allowuseridpasswd.1 Y
conversationname.1 API Functiontest
dcekeytabfile.1
dcequalityofprotection.1 No_Protection
debuggerallowed.1 N
garbagecollectioninterval.1 50000
identityofthecontrolregion.1 IBMUSER
identityoftheserverregion.1 IBMUSER
isolationpolicy.1 Multiple_Transactions_Per_Server_Region
localidentity.1 CBGUEST
logstreamname.1
procname.1 BBOASR1
productionserver.1 Y
remoteidentity.1 CBGUEST
replicationpolicy.1 One_Per_Server
serverdescription.1 APIFCT Description
servername.1 APIFCT
serverregionjvmname.1
serverregionrequiresjvm.1 N

```

```

serverregionstacksize.1 0
sslrackeyring.1
sslv2timeout.1
sslv3timeout.1
sysplexname.1 PLEX1
transactionfactory.1 N
usedce.1 N
useridpassticket.1 N
security.1 ISM_UserID_Password
environment.1 CLASSPATH = 'Demo:test1' PATH = 'test2'
status 0
message.1 OK
count 1

```

アクション “deleteserver”

このアクションは、サーバーを削除します。ただし、これは論理的な削除となります。この変更が関連付けられている会話がコミットされるまで、実際の削除は行なわれません。

構文

```

▶ rc = CB390CFG—(“— -action—'deleteserver' —————▶
▶ -xmlinput—'defaultxmlfilename' —————▶
|                                     |
|                                     | —input—'inputfilename' —|
|                                     |
▶ -output—'outputfilename' —”)————▶

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。deleteserver のデフォルト xml ファイル "inputdeleteserver.xml" は、210ページの『inputdeleteserver.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。

このディレクトリーが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 "inputdeleteserver.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合

は、このパラメーターに
 "/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputdeleteserver.xml" を
 設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを
 完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを
 使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定する
 か、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設
 定する必要があります。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれる
 ファイルを指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト
 xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章
 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについて
 は、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合
 は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて
 含める必要があります。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力フ
 ァイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、このサーバー・アクション用として認められている属性
 がすべて含まれています。必須 属性は、デフォルト xml ファイル内
 に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章
 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml
 ファイルは、210ページの『inputdeleteserver.xml』に記載されていま
 す。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
servername	サーバーの名前	x

例 スクリプトの例を以下に示します。

```

/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

say "FCT Test #09"

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "servername"

```

```

val.= 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "APIFCT"

rc = 4
i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #09 failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

rc = CB390CFG("-action 'deleteserver' -xmlinput 'inputdeleteserver.xml'
              -input 'tempin' -output 'FCT09'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #09 failed"
  exit
end
exit

error:
say "Error in FCT Test #09" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

administratorname.1 CBADMIN
allownonauthenticatedclients.1 Y
allowserverregiongarbagecollection.1 Y
allowssl.1 N
allowuseridpasswd.1 Y
conversationname.1 API Functiontest
dcekeytabfile.1
dcequalityofprotection.1 No_Protection
debuggerallowed.1 N
garbagecollectioninterval.1 50000
identityofthecontrolregion.1 IBMUSER
identityoftheserverregion.1 IBMUSER
isolationpolicy.1 Multiple_Transactions_Per_Server_Region
localidentity.1 CBGUEST
logstreamname.1
procname.1 BBOASR1
productionserver.1 Y
remoteidentity.1 CBGUEST
replicationpolicy.1 One_Per_Server
serverdescription.1 APIFCT Description
servername.1 APIFCT
serverregionjvmname.1
serverregionrequiresjvm.1 N
serverregionstacksize.1 0
sslrackeyring.1
sslv2timeout.1 0

```

```

sslvt3timeout.1 0
sysplexname.1 PLEX1
transactionfactory.1 N
usedce.1 N
useridpassticket.1 N
security.1 ISM_UserID_Password ISM_DCE
environment.1 CLASSPATH = 'testchange1' PATH = 'testchange2'
status 0
message.1 OK
count 1

```

アクション “changeserver”

このアクションは、名前付きサーバーの属性を変更します。

構文

```

►—rc = CB390CFG—(“— -action—'changeserver' —————►
                                     |
►— -xmlinput—'defaultxmlfilename' —————►
                                     |
                                     | —input—'inputfilename' —|
                                     |
►— -output—'outputfilename' —”)—————►

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。changeserver のデフォルト xml ファイル "inputchangeserver.xml" は、211ページの『inputchangeserver.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリに入っています。

このディレクトリが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 "inputchangeserver.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリが指定されていない場合は、このパラメーターに

"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputchangeserver.xml" を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを

使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設定する必要があります。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイル指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについては、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める必要があります。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、このサーバー・アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須 属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、211ページの『inputchangeserver.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
servername	サーバーの名前	x
serverdescription	サーバーの説明	
identityofthecontrolregion		x
identityoftheserverregion		x
serverregionstacksize	数値	x
productionserver	"Y" または "N" のみ指定可能	x
debuggerallowed	"Y" または "N" のみ指定可能	x
isolationpolicy	以下の値が指定可能: One_Transaction_Per_server_Region Multiple_Transactions_Per_Server_Region	x
replicationpolicy	以下の値が指定可能: One_Per_Server Replicate_As_Needed	x

パラメーター名	値	必須
serverregionrequiresjvm	"Y" または "N" のみ指定可能	x
serverregionjvmname	JVM の名前	x
localidentity	ローカル識別の名前	x
remoteidentity	リモート識別の名前	x
transactionfactory	"Y" または "N" のみ指定可能	x
allowserverregiongarbagecollection	"Y" または "N" のみ指定可能	x
garbagecollectioninterval	0 ~ 2G の数値	x
logstreamname	ログ・ストリームの名前	x
procname		x
allownonauthenticatedclients	"Y" または "N" のみ指定可能	x
allowuseridpasswd	"Y" または "N" のみ指定可能	x
useridpassticket	"Y" または "N" のみ指定可能	x
usedce	"Y" または "N" のみ指定可能	x
dcequalityofprotection	以下の値が指定可能: No_Protection Integrity Confidentiality	x
dcekeytabfile	DCE キータブ・ファイルの名前	x
allowssl	"Y" または "N" のみ指定可能	x
sslracfkeyring		x
sslv2timeout	1 ~ 100 の数値	x
sslv3timeout	1 ~ 86400 の数値	x

パラメーター名	値	必須
security	<p>セキュリティー・タイプの設定。 セキュリティーの順序を指定します。デフォルト xml ファイルのセキュリティーを指定するには、各セキュリティー・タイプのエレメントを設定する必要があります。セキュリティー・タイプを指定する場合は、属性を設定する必要があります。 REXX で指定する場合は、エレメントを 1 つだけ指定する必要があります。セキュリティーを設定するには、security value [value value ...] と入力します。value には、セキュリティー・タイプの値を指定します。セキュリティーを指定する場合は、値を 1 つ以上設定する必要があります。設定できる値は、以下のとおりです。</p> <p>ISM_DCE ISM_UserID_Password ISM_Pass_Ticket ISM_SSL</p>	
smfwrserveractivity	"Y" または "N" のみ指定可能	x
smfwrcontaineractivity	"Y" または "N" のみ指定可能	x
smfwrserverinterval	"Y" または "N" のみ指定可能	x
smfwrcontainerinterval	"Y" または "N" のみ指定可能	x
smfintervallength	15 ~ 86400 の数値 (または 0)	x
environment	<p>デフォルト xml 内の環境を指定するには、各環境のタイプごとにエレメントを設定する必要があります。環境のタイプを指定する場合は、属性を設定する必要があります。 環境を REXX で指定する場合は、エレメントを 1 つだけ指定する必要があります。環境を設定するには、environment name ='value' [name ='value' ...] と入力します。name には環境の名前を、value には環境の値を指定します。環境を指定する場合は、name ='value' ペアを 1 つ以上指定する必要があります。</p>	
allowsslclientcerts	"Y" または "N" のみ指定可能	x
olthostname	文字 (256)	x

パラメーター名	値	必須
oltport	1 ~ 65535 の文字値	x
acceptassertedid	"Y" または "N" のみ指定可能	x
allowkerberos	"Y" または "N" のみ指定可能	x
sendassertedid	"Y" または "N" のみ指定可能	x

サーバーのプロパティについては、SM-EUI およびスクリプト API との間で、いくつかの違いがあります。以下の表は、異なる値を示しています。

"DCE 品質保護" のパラメーター

スクリプトの値	GUI の値
Integrity	Message Integrity
Confidentiality	Message Confidentiality

例 スクリプトの例を以下に示します。

```

/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "servername"
name.3 = "identityofthecontrolregion"
name.4 = "identityoftheserverregion"
name.5 = "serverregionstacksize"
name.6 = "productionserver"
name.7 = "debuggerallowed"
name.8 = "isolationpolicy"
name.9 = "replicationpolicy"
name.10 = "serverregionrequiresjvm"
name.11 = "serverregionjvmname"
name.12 = "localidentity"
name.13 = "remoteidentity"
name.14 = "transactionfactory"
name.15 = "allowserverregiongarbagecollection"
name.16 = "garbagecollectioninterval"
name.17 = "logstreamname"
name.18 = "procname"
name.19 = "allownonauthenticatedclients"
name.20 = "allowuseridpasswd"
name.21 = "useridpassticket"
name.22 = "usedce"
name.23 = "dcequalityofprotection"
name.24 = "dcekeytabfile"

```

CB390CFG

```
name.25 = "security"
name.26 = "allowssl"
name.27 = "serverdescription"
name.28 = "sslracfkeyring"
name.29 = "sslv2timeout"
name.30 = "sslv3timeout"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "APIFCT"
val.3 = "IBMUSER"
val.4 = "IBMUSER"
val.5 = "0"
val.6 = "Y"
val.7 = "N"
val.8 = "Multiple_Transactions_Per_Server_Region"
val.9 = "One_Per_Server"
val.10 = "N"
val.11 = ""
val.12 = "CBGUEST"
val.13 = "CBGUEST"
val.14 = "N"
val.15 = "Y"
val.16 = "50000"
val.17 = ""
val.18 = "BBOASR1"
val.19 = "Y"
val.20 = "Y"
val.21 = "N"
val.22 = "N"
val.23 = "No_Protection"
val.24 = ""
val.25 = "ISM_UserID_Password"
val.26 = "N"
val.27 = "APIFCT Description"
val.28 = ""
val.29 = "200"
val.30 = "500"

rc = 4
i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #08 failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

rc = CB390CFG("-action 'changeserver' -xmlinput 'inputchangeserver.xml'
             -input 'tempin' -output 'FCT08'")

if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #08 failed"
```

```

    exit
end
exit

error:
say "Error in FCT Test #08" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

出力ファイルは、以下のようになります。

```

administratorname.1 CBADMIN
allownonauthenticatedclients.1 Y
allowserverregiongarbagecollection.1 Y
allowssl.1 N
allowuseridpasswd.1 Y
conversationname.1 API Functiontest
dcekeytabfile.1
dcequalityofprotection.1 No_Protection
debuggerallowed.1 N
garbagecollectioninterval.1 50000
identityofthecontrolregion.1 IBMUSER
identityoftheserverregion.1 IBMUSER
isolationpolicy.1 Multiple_Transactions_Per_Server_Region
localidentity.1 CBGUEST
logstreamname.1
procname.1 BBOASR1
productionserver.1 Y
remoteidentity.1 CBGUEST
replicationpolicy.1 One_Per_Server
serverdescription.1 APIFCT Description
servername.1 APIFCT
serverregionjvmname.1
serverregionrequiresjvm.1 N
serverregionstacksize.1 0
sslrackeyring.1
sslv2timeout.1
sslv3timeout.1
sysplexname.1 PLEX1
transactionfactory.1 N
usedce.1 N
useridpassticket.1 N
security.1 ISM_UserID_Password ISM_DCE
environment.1 CLASSPATH = 'testchange1' PATH = 'testchange2'
status 0
message.1 OK
count 1

```

アクション “listserver”

このアクションは、名前付きサーバーの一覧を表示します。サーバー名に "*" を設定すると、すべてのサーバーが一覧表示されます。

構文

```

▶rc = CB390CFG—" -action'listserver' —————▶
▶ -xmlinput'defaultxmlfilename' —————▶
   |                                     |
   | -input'inputfilename' —————▶
▶ -output'outputfilename' —————▶

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。listserver のデフォルト xml ファイル "inputlistserver.xml" は、213ページの『inputlistserver.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。このディレクトリーが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 "inputlistserver.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに "/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputlistserver.xml" を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設定する必要があります。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイルを指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについては、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める必要があります。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、このサーバー・アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、213ページの『inputlistserver.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
servername	"*" を設定すると、会話内のすべてのサーバーが一覧表示されます。	x

例 スクリプトの例を以下に示します。

```

/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

name.= 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "servername"

val.= 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "APIFCT"

rc = 4
i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #10 failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

rc = CB390CFG("-action 'listserver' -xmlinput 'inputlistserver.xml'
              -input 'tempin' -output 'FCT10'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #10 failed"
  exit
end

```

```
exit

error:
say "Error in FCT Test #10" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit
```

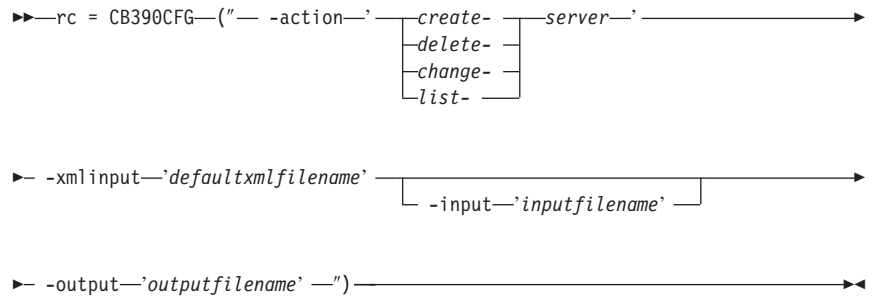
出力ファイルは、以下のようになります。

```
administratorname.1 CBADMIN
allownonauthenticatedclients.1 Y
allowserverregiongarbagecollection.1 Y
allowssl.1 N
allowuseridpasswd.1 Y
conversationname.1 API Functiontest
dcekeytabfile.1
dcequalityofprotection.1 No_Protection
debuggerallowed.1 N
garbagecollectioninterval.1 50000
identityofthecontrolregion.1 IBMUSER
identityoftheserverregion.1 IBMUSER
isolationpolicy.1 Multiple_Transactions_Per_Server_Region
localidentity.1 CBGUEST
logstreamname.1
procname.1 BBOASR1
productionserver.1 Y
remoteidentity.1 CBGUEST
replicationpolicy.1 One_Per_Server
serverdescription.1 APIFCT Description
servername.1 APIFCT
serverregionjvmname.1
serverregionrequiresjvm.1 N
serverregionstacksize.1 0
sslrackeyring.1
sslv2timeout.1 0
sslv3timeout.1 0
sysplexname.1 PLEX1
transactionfactory.1 N
usedce.1 N
useridpassticket.1 N
security.1 ISM_UserID_Password ISM_DCE
environment.1 CLASSPATH = 'testchange1' PATH = 'testchange2'
status 0
message.1 OK
count 1
```

J2EE サーバー

以下の関数は、J2EE サーバーを変更するために提供されています。

構文



構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、戻りコード (rc) は「4」になります。

action

createj2eeserver

新しい J2EE サーバーを作成します。

deletej2eeserver J2EE サーバーを削除します。

changej2eeserver

J2EE サーバーを変更します。

listj2eeserver J2EE サーバーの一覧を表示します。

-xmlinput

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、実行するアクションの必須パラメーターをすべて指定する**必要があります**。このファイルは、文書型定義 (DTD) が指定された xml ファイルです。DTD では、文書構造の指定のみを行ないます。ユーザーは、各パラメーターのデフォルト値を指定することができます。これらのパラメーターは、REXX スクリプトで入力パラメーターを介してオーバーライドすることができます。デフォルト xml ファイルは、201ページの『第9章 デフォルト XML ファイル』にすべて記載されています。これらのファイル内のパラメーターには、SM Administration EUI のデフォルト値が設定されています。

デフォルト xml ファイルは、環境変数 `DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` で指定されたパスに**含まれていなければなりません**。もし、含まれていない場合は、このデフォルト xml ファイルのパスを指定する必要があります。

たとえば、`-xmlinput 'inputcreatej2eeserver.xml'` では、`DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` 内のデフォルト入力 `xml` ファイルが指定されますが、`-xmlinput './inputcreatej2eeserver.xml'` では、現在のディレクトリー内のファイルが指定されます。

デフォルト `xml` ファイルのデフォルト・パスを変更するには、環境変数 `DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` に別の既存のパスを設定します。この場合は、そのパスが存在するとともに、使用するデフォルト `xml` ファイルがそのディレクトリーに入っていることを確認してください。

-input

これは、CB390CFG API のオプション・パラメーターです。デフォルト `xml` ファイルのパラメーターをオーバーライドする名前値ペアが入った入力ファイルを指定します。REXX 変数を使用して `xml` ファイルを生成するには、XMLGEN と呼ばれるツールを使用します。XMLGEN ツールについては、185ページの『第5章 XMLGEN』で説明しています。

重要: パラメーターとデフォルト `xml` ファイルがマージされると、入力ファイルは削除されます。

-output

出力ファイルには、より詳細な情報が記録されます。各 J2EE サーバー・アクションの説明では、出力ファイルの例を用意しています。J2EE サーバー・アクションの一般的な出力形式は、以下のようになります。

```

administratorname.1 AdministratorName
allownonauthenticatedclients.1 Y|N
allowserverregiongarbagecollection.1 Y|N
allowssl.1 Y|N
allowuseridpasswd.1 Y|N
conversationname.1 ConversationName
dcekeytabfile.1 DCEKeyTabFile
dcequalityofprotection.1 DCEQualityOfProtectionState
debuggerallowed.1 Y|N
garbagecollectioninterval.1 Number(0-2G)
identityofthecontrolregion.1 IdentityOfTheControlRegion
identityoftheserverregion.1 IdentityOfTheServerRegion
isolationpolicy.1 IsolationPolicyState
localidentity.1 LocalIdentity
logstreamname.1 LogStreamName
procname.1 ProcName
productionserver.1 Y|N
remoteidentity.1 RemoteIdentity
replicationpolicy.1 ReplicationPolicyStata
serverdescription.1 ServerDescription
servername.1 ServerName

```



```

serverregionjvmname.1 ServerRegionJVMName
serverregionrequiresjvm.1 Y|N
serverregionstacksize.1 Number(0-100000)
sslracfkeyring.1 SSL_RACF_Keyring
sslv2timeout.1 SSL_V2Timeout
sslv3timeout.1 SSL_V3Timeout
sysplexname.1 SysplexName
transactionfactory.1 Y|N
usedce.1 Y|N
useridpassticket.1 Y|N
security.1 Security
status 0|4
message.1 OK|ErrorMessage
count NumberOfListedServers

```

アクション “createj2eeserver”

このアクションは、新しい J2EE サーバーを作成します。

構文

```

▶▶ rc = CB390CFG—" -action—'createj2eeserver' —————▶
▶ -xmlinput—'defaultxmlfilename' —————▶
   |                                     |
   | -input—'inputfilename' —————▶
▶ -output—'outputfilename' —" )————▶▶

```

構文の詳細

rc すべてのが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。

createj2eeserver のデフォルト xml ファイル

"inputcreatej2eeserver.xml" は、217ページの

『inputcreatej2eeserver.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。

このディレクトリーが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 "inputcreatej2eeserver.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場

合は、このパラメーターに

"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputcreatej2eeserver.xml"
を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設定する**必要があります**。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイル指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについては、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める**必要があります**。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、このサーバー・アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須 属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、217ページの『inputcreatej2eeserver.xml』に記載されていません。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
servername	J2EE サーバーの名前	x
serverdescription	J2EE サーバーの説明	
identityofthecontrolregion		x
identityoftheserverregion		x
serverregionstacksize	数値	x
productionserver	"Y" または "N" のみ指定可能	x
debuggerallowed	"Y" または "N" のみ指定可能	x

パラメーター名	値	必須
isolationpolicy	以下の値が指定可能: One_Transaction_Per_Server_Region Multiple_Transactions_Per_Server_Region	x
replicationpolicy	以下の値が指定可能: One_Per_Server_Replicate_As_Needed	x
serverregionrequiresjvm	"Y" または "N" のみ指定可能	x
serverregionjvmname	JVM の名前	x
localidentity	ローカル識別の名前	x
remoteidentity	リモート識別の名前	x
transactionfactory	"Y" または "N" のみ指定可能	x
allowserverregiongarbagecollection	"Y" または "N" のみ指定可能	x
garbagecollectioninterval	0 ~ 2G の数値	x
logstreamname	ログ・ストリームの名前	x
procname		x
allownonauthenticatedclients	"Y" または "N" のみ指定可能	x
allowuseridpasswd	"Y" または "N" のみ指定可能	x
useridpassticket	"Y" または "N" のみ指定可能	x
usedce	"Y" または "N" のみ指定可能	x
dcequalityofprotection	以下の値が指定可能: No_Protection Integrity Confidentiality	x
dcekeytabfile	DCE キータブ・ファイルの名前	x
allowssl	"Y" または "N" のみ指定可能	x
sslrackkeyring		x
sslv2timeout	1 ~ 100 の数値	x
sslv3timeout	1 ~ 86400 の数値	x

パラメーター名	値	必須
security	<p>セキュリティー・タイプの設定。 セキュリティーの順序を指定します。デフォルト xml ファイルのセキュリティーを指定するには、各セキュリティー・タイプのエレメントを設定する必要があります。セキュリティー・タイプを指定する場合は、属性を設定する必要があります。 REXX で指定する場合は、エレメントを 1 つだけ指定する必要があります。セキュリティーを設定するには、security value [value value ...] と入力します。value には、セキュリティー・タイプの値を指定します。セキュリティーを指定する場合は、値を 1 つ以上設定する必要があります。設定できる値は、以下のとおりです。</p> <p>ISM_DCE ISM_UserID_Password ISM_Pass_Ticket ISM_SSL</p>	
smfwrserveractivity	"Y" または "N" のみ指定可能	x
smfwrcontaineractivity	"Y" または "N" のみ指定可能	x
smfwrserverinterval	"Y" または "N" のみ指定可能	x
smfwrcontainerinterval	"Y" または "N" のみ指定可能	x
smfintervallength	15 ~ 86400 の数値 (または 0)	x
environment	<p>デフォルト xml 内の環境を指定するには、各環境のタイプごとにエレメントを設定する必要があります。環境のタイプを指定する場合は、属性を設定する必要があります。 環境を REXX で指定する場合は、エレメントを 1 つだけ指定する必要があります。環境を設定するには、environment name = 'value' [name = 'value' ...] と入力します。name には環境の名前を、value には環境の値を指定します。環境を指定する場合は、name = 'value' ペアを 1 つ以上指定する必要があります。</p>	
allowsslclientcerts	"Y" または "N" のみ指定可能	x
olthostname	文字 (256)	x

パラメーター名	値	必須
oltport	1 ~ 65535 の文字値	x
acceptassertedid	"Y" または "N" のみ指定可能	x
allowkerberos	"Y" または "N" のみ指定可能	x
sendassertedid	"Y" または "N" のみ指定可能	x

J2EE サーバーのプロパティについては、SM-EUI およびスクリプト API との間で、いくつかの違いがあります。以下の表は、異なる値を示しています。

"DCE 品質保護" のパラメーター

スクリプトの値	GUI の値
Integrity	Message Integrity
Confidentiality	Message Confidentiality

例 スクリプトの例を以下に示します。

```

/* REXX function */
/* Functiontest Test : createj2eeserver*/
/* Dependencies: */
/* The conversation "API Functiontest" must be added*/
/* The J2EEserver "J2EESRV" must not be added in the conversation
"API Functiontest"*/
call syscalls 'ON'
signal on error

say "FCT Test #createj2eeserver"

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "j2eeservername"
name.3 = "identityofthecontrolregion"
name.4 = "identityoftheserverregion"
name.5 = "serverregionstacksize"
name.6 = "productionserver"
name.7 = "debuggerallowed"
name.8 = "isolationpolicy"
name.9 = "replicationpolicy"
name.10 = "serverregionrequiresjvm"
name.11 = "serverregionjvmname"
name.12 = "localidentity"
name.13 = "remoteidentity"
name.14 = "transactionfactory"
name.15 = "allowserverregiongarbagecollection"
name.16 = "garbagecollectioninterval"
name.17 = "logstreamname"
name.18 = "procname"

```

```

name.19 = "allownonauthenticatedclients"
name.20 = "allowuseridpasswd"
name.21 = "useridpassticket"
name.22 = "usedce"
name.23 = "dcequalityofprotection"
name.24 = "dcekeytabfile"
name.25 = "security"
name.26 = "allowssl"
name.27 = "j2eeserverdescription"
name.28 = "sslracfkeyring"
name.29 = "sslv2timeout"
name.30 = "sslv3timeout"
name.31 = "environment"
name.32 = "allowsslclientcerts"
name.33 = "olthostname"
name.34 = "oltpport"
name.35 = "allowkerberos"
name.36 = "acceptassertedid"
name.37 = "sendassertedid"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "J2EESRV"
val.3 = "IBMUSER"
val.4 = "IBMUSER"
val.5 = "0"
val.6 = "Y"
val.7 = "N"
val.8 = "Multiple_Transactions_Per_Server_Region"
val.9 = "One_Per_Server"
val.10 = "N"
val.11 = ""
val.12 = "CBGUEST"
val.13 = "CBGUEST"
val.14 = "N"
val.15 = "Y"
val.16 = "50000"
val.17 = ""
val.18 = "BBOASR1"
val.19 = "Y"
val.20 = "Y"
val.21 = "N"
val.22 = "N"
val.23 = "No_Protection"
val.24 = ""
val.25 = "ISM_UserID_Password"
val.26 = "N"
val.27 = "APIFCT Description"
val.28 = ""
val.29 = "100"
val.30 = "600"
val.31 = "CLASSPATH='Demo:test1' PATH='test2'
DEFAULT_CLIENT_XML_PATH=' /sm/xml ' "
val.32 = "Y"
val.33 = ""

```

```

val.34 = "7000"
val.35 = "Y"
val.36 = "Y"
val.37 = "Y"

rc = 4
i = 1

/* Generate XML Input */
do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #createj2eeserver failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

/* Call the function: createj2eeserver */
rc = CB390CFG("-action 'createj2eeserver' -xmlinput
'inputcreatej2eeserver.xml' -input 'tempin'
-output 'createj2eeserver'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #createj2eeserver failed"
  exit
end

/* Parse the result */
rc = XMLPARSE("createj2eeserver" "ALL")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #createj2eeserver failed while XMLPARSE"
  exit
end
say "FCT Test #createj2eeserver completed"
return 0

exit
error:
say "Error in FCT Test #createj2eeserver" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

アクション “deletej2eeserver”

このアクションは、J2EE サーバーを削除します。ただし、これは、論理的な削除となります。この変更が関連付けられている会話がコミットされるまで、実際の削除は行なわれません。

構文

```

▶—rc = CB390CFG—(“— -action—'deletej2eeserver' —————▶

```

```

▶ -xmlinput—'defaultxmlfilename' —————▶
    └── -input—'inputfilename' ───┘
▶ -output—'outputfilename' —")————▶

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。

deletej2eeserver のデフォルト xml ファイル

"inputdeletej2eeserver.xml" は、219ページの

『inputdeletej2eeserver.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。

このディレクトリーが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 "inputdeletej2eeserver.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに

"usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputdeletej2eeserver.xml" を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設定する必要があります。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイル指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについては、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める必要があります。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、このサーバー・アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須 属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、219ページの『inputdeletej2eeserver.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
servername	J2EE サーバーの名前	x

例

スクリプトの例を以下に示します。

```

/* REXX function */
/* Functiontest Test : deletej2eeserver*/

/* Dependencies: */
/* The conversation "API Functiontest" must be added*/
/* The J2EEserver "J2EESRV" must be added in the conversation
"API Functiontest"*/
call syscalls 'ON'
signal on error

say "FCT Test #deletej2eeserver"

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "j2eeservername"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "J2EESRV"

rc = 4
i = 1

/*Generate XML Input */
do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #deletej2eeserver failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

```

```

/* Call the function: deletej2eeserver */
rc = CB390CFG("-action 'deletej2eeserver' -xmlinput
'inputdeletej2eeserver.xml' -input 'tempin'
-output 'deletej2eeserver'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #deletej2eeserver failed"
  exit
end

/* Parse the result */
rc = XMLPARSE("deletej2eeserver" "ALL")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #deletej2eeserver failed while XMLPARSE"
  exit
end
say "FCT Test #deletej2eeserver completed"
exit

error:
say "Error in FCT Test #deletej2eeserver" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

アクション “changej2eeserver”

このアクションは、名前付き J2EE サーバーの属性を変更します。

構文

```

▶ rc = CB390CFG(“— -action—'changej2eeserver' —————▶
▶ -xmlinput—'defaultxmlfilename' —————▶
  └── -input—'inputfilename' ───┘
▶ -output—'outputfilename' —”)▶

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。

changej2eeserver のデフォルト xml ファイル
"inputchangej2eeserver.xml" は、220ページの

『inputchangej2eeserver.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。

このディレクトリーが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 "inputchangej2eeserver.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに "/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputchangej2eeserver.xml" を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設定する必要があります。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイルを指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについては、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める必要があります。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、このサーバー・アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、220ページの『inputchangej2eeserver.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
servername	J2EE サーバーの名前	x
serverdescription	J2EE サーバーの説明	
identityofthecontrolregion		x

CB390CFG

パラメーター名	値	必須
identityoftheserverregion		x
serverregionstacksize	数値	x
productionserver	"Y" または "N" のみ指定可能	x
debuggerallowed	"Y" または "N" のみ指定可能	x
isolationpolicy	以下の値が指定可能: One_Transaction_Per_server_Region Multiple_Transactions_Per_Server_Region	x
replicationpolicy	以下の値が指定可能: One_Per_Server Replicate_As_Needed	x
serverregionrequiresjvm	"Y" または "N" のみ指定可能	x
serverregionjvmname	JVM の名前	x
localidentity	ローカル識別の名前	x
remoteidentity	リモート識別の名前	x
transactionfactory	"Y" または "N" のみ指定可能	x
allowserverregiongarbagecollection	"Y" または "N" のみ指定可能	x
garbagecollectioninterval	0 ~ 2G の数値	x
logstreamname	ログ・ストリームの名前	x
procname		x
allownonauthenticatedclients	"Y" または "N" のみ指定可能	x
allowuseridpasswd	"Y" または "N" のみ指定可能	x
useridpassticket	"Y" または "N" のみ指定可能	x
usedce	"Y" または "N" のみ指定可能	x
dcequalityofprotection	以下の値が指定可能: No_Protection Integrity Confidentiality	x
dcekeytabfile	DCE キータブ・ファイルの名前	x
allowssl	"Y" または "N" のみ指定可能	x
sslracfkeyring		x
sslv2timeout	1 ~ 100 の数値	x
sslv3timeout	1 ~ 86400 の数値	x

パラメーター名	値	必須
security	<p>セキュリティー・タイプの設定。 セキュリティーの順序を指定します。デフォルト xml ファイルのセキュリティーを指定するには、各セキュリティー・タイプのエレメントを設定する必要があります。セキュリティー・タイプを指定する場合は、属性を設定する必要があります。 REXX で指定する場合は、エレメントを 1 つだけ指定する必要があります。セキュリティーを設定するには、security value [value value ...] と入力します。value には、セキュリティー・タイプの値を指定します。セキュリティーを指定する場合は、値を 1 つ以上設定する必要があります。設定できる値は、以下のとおりです。</p> <p>ISM_DCE ISM_UserID_Password ISM_Pass_Ticket ISM_SSL</p>	
smfwrsrserveractivity	"Y" または "N" のみ指定可能	x
smfwrcontaineractivity	"Y" または "N" のみ指定可能	x
smfwrsrserverinterval	"Y" または "N" のみ指定可能	x
smfwrcontainerinterval	"Y" または "N" のみ指定可能	x
smfintervallength	15 ~ 86400 の数値 (または 0)	x
environment	<p>デフォルト xml 内の環境を指定するには、各環境のタイプごとにエレメントを設定する必要があります。環境のタイプを指定する場合は、属性を設定する必要があります。 環境を REXX で指定する場合は、エレメントを 1 つだけ指定する必要があります。環境を設定するには、environment name ='value' [name ='value' ...] と入力します。name には環境の名前を、value には環境の値を指定します。環境を指定する場合は、name ='value' ペアを 1 つ以上指定する必要があります。</p>	
allowsslclientcerts	"Y" または "N" のみ指定可能	x
olthostname	文字 (256)	x

パラメーター名	値	必須
oltport	1 ~ 65535 の文字値	x
acceptassertedid	"Y" または "N" のみ指定可能	x
allowkerberos	"Y" または "N" のみ指定可能	x
sendassertedid	"Y" または "N" のみ指定可能	x

J2EE サーバーのプロパティーについては、SM-EUI およびスクリプト API との間で、いくつかの違いがあります。以下の表は、異なる値を示しています。

"DCE 品質保護" のパラメーター

スクリプトの値	GUI の値
Integrity	Message Integrity
Confidentiality	Message Confidentiality

例 スクリプトの例を以下に示します。

```

/* REXX function */
/* Functiontest Test:  changej2eeserver*/
/* Dependencies: */
/* The conversation "API Functiontest" must be added*/
/* The J2EE server "J2EESRV" must be added in the conversation
"API Functiontest"*/
call syscalls 'ON'
signal on error

say "FCT Test #changej2eeserver"

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "j2eeservername"
name.3 = "identityofthecontrolregion"
name.4 = "identityoftheserverregion"
name.5 = "serverregionstacksize"
name.6 = "productionserver"
name.7 = "debuggerallowed"
name.8 = "isolationpolicy"
name.9 = "replicationpolicy"
name.10 = "serverregionrequiresjvm"
name.11 = "serverregionjvmname"
name.12 = "localidentity"
name.13 = "remoteidentity"
name.14 = "transactionfactory"
name.15 = "allowserverregiongarbagecollection"
name.16 = "garbagecollectioninterval"
name.17 = "logstreamname"
name.18 = "procname"

```

```

name.19 = "allownonauthenticatedclients"
name.20 = "allowuseridpasswd"
name.21 = "useridpassticket"
name.22 = "usedce"
name.23 = "dcequalityofprotection"
name.24 = "dcekeytabfile"
name.25 = "security"
name.26 = "allowssl"
name.27 = "j2eeserverdescription"
name.28 = "sslv2timeout"
name.29 = "sslv3timeout"
name.30 = "environment"
name.31 = "olthostname"
name.32 = "oltport"
name.33 = "allowsslclientcerts"
name.34 = "allowkerberos"
name.35 = "sendassertedid"
name.36 = "acceptassertedid"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "J2EESRV"
val.3 = "IBMUSER"
val.4 = "IBMUSER"
val.5 = "0"
val.6 = "Y"
val.7 = "N"
val.8 = "Multiple_Transactions_Per_Server_Region"
val.9 = "One_Per_Server"
val.10 = "N"
val.11 = ""
val.12 = "CBGUEST"
val.13 = "CBGUEST"
val.14 = "N"
val.15 = "Y"
val.16 = "50000"
val.17 = ""
val.18 = "BBOASR1"
val.19 = "Y"
val.20 = "Y"
val.21 = "N"
val.22 = "N"
val.23 = "No_Protection"
val.24 = ""
val.25 = "ISM_UserID_Password ISM_DCE"
val.26 = "N"
val.27 = "J2EESRV Description modified"
val.28 = "200"
val.29 = "500"
val.30 = "CLASSPATH='testchange1' PATH='testchange2'"
val.31 = ""
val.32 = "9000"
val.33 = "N"
val.34 = "Y"
val.35 = "Y"

```

```

val.36 = "Y"

rc = 4
i = 1

/* Generate XML Input */
do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #changej2eeserver failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

/* Call the function: changeeserver */
rc = CB390CFG("-action 'changej2eeserver' -xmlinput
'inputchangej2eeserver.xml' -input 'tempin'
-output 'changej2eeserver'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #changej2eeserver failed"
  exit
end

/* Parse the result */
rc = XMLPARSE("changej2eeserver" "ALL")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #changej2eeserver failed while XMLPARSE"
  exit
end
say "FCT Test #changej2eeserver completed"
return 0

exit
error:
say "Error in FCT Test #changej2eeserver" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

アクション “listj2eeserver”

このアクションは、名前付き J2EE サーバーの一覧を表示します。J2EE サーバー名に “*” を設定すると、すべての J2EE サーバーが一覧表示されます。

構文

```

▶ rc = CB390CFG(“ — -action—'listj2eeserver' —————▶

```



```

▶ -xmlinput—'defaultxmlfilename' —————▶
   └── -input—'inputfilename' ───┘

```


▶ -output-'outputfilename' -")▶

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。listj2eeserver のデフォルト xml ファイル "inputlistj2eeserver.xml" は、222ページの『inputlistj2eeserver.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。このディレクトリーが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 "inputlistj2eeserver.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに

`"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputlistj2eeserver.xml"` を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設定する**必要があります**。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイルを指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについては、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める**必要があります**。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、この J2EE サーバー・アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須属性は、デフォルト xml ファ

イル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、222ページの『inputlistj2eeserver.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
servername	"*" を設定すると、会話内のすべての J2EE サーバーが一覧表示されます。	x

例 スクリプトの例を以下に示します。

```

/* REXX function */
/* Functiontest Test : listj2eeserver*/

/* Dependencies: */
/* For Part 1: The conversation "API Functiontest" must be added and
   the J2EE server "J2EESRV" must be added in the conversation
   "API Functiontest"*/
/* For Part 2: The conversation "API Functiontest" must be added */
call syscalls 'ON'
signal on error

say "FCT Test #listj2eeserver A"

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "j2eeservername"

/* Part 1: */
/* List special J2EE server */
val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "J2EESRV"

rc = 4
i = 1

/*Generate XML Input */
do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #listj2eeserver failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

/* Call the function: listj2eeserverA */
rc = CB390CFG("-action 'listj2eeserver' -xmlinput 'inputlistj2eeserver.xml'

```

```

-input 'tempin' -output 'listj2eeserverA'")
if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #listj2eeserverA failed"
    exit
end

/* Parse the result */
rc = XMLPARSE("listj2eeserverA" "ALL")
if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #listj2eeserverA failed while XMLPARSE"
    exit
end

/* Part 2: */
/* List all J2EE server */

say "FCT Test #listj2eeserver B"

val.2 = "*"

rc = 4
i = 1

/*Generate XML Input */
do while(name.i <> '0')
    rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
    if (rc == 4) then do
        say "FCT Test #listj2eeserverb failed while XMLGEN"
        exit
    end
    i = i+1
end;

/* Call the function: listj2eeserverB */
rc = CB390CFG("-action 'listj2eeserver' -xmlinput 'inputlistj2eeserver.xml'
-input 'tempin' -output 'listj2eeserverB'")
if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #listj2eeserverB failed"
    exit
end

/* Parse the result */
rc = XMLPARSE("listj2eeserverB" "ALL")
if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #listj2eeserverB failed while XMLPARSE"
    exit
end
say "FCT Test #listj2eeserverB completed"
exit

error:
say "Error in FCT Test #listj2eeserver" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

J2EE アプリケーション

以下の関数は、J2EE アプリケーションの処理および一覧表示のために提供されています。

構文

```

▶ rc = CB390CFG(" -action- 'processearfile- _____' _____
  |listj2eeapplication- _____|
  |deletej2eeapplication- _____|
  |listj2eemodules- _____|
  |listj2eecomponent- _____|
▶ -xmlinput- 'defaultxmlfilename' _____
  | -input- 'inputfilename' _____|
▶ -output- 'outputfilename' _____)

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、戻りコード (rc) は「4」になります。

action

processearfile 解決された ear ファイルを処理します。

listj2eeapplication
アプリケーションの一覧を表示します。

deletej2eeapplication
アプリケーションを削除します。

listj2eemodules モジュールの一覧を表示します。

listj2eecomponent
コンポーネントの一覧を表示します。

-xmlinput

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、実行するアクションの必須パラメーターをすべて指定する必要があります。このファイルは、文書型定義 (DTD) が指定された xml ファイルです。DTD では、文書構造の指定のみを行いません。ユーザーは、各パラメーターのデフォルト値を指定することができます。これらのパラメーターは、REXX スクリプトで入力パラメーターを介してオーバーライドすることができます。デフォルト xml フ

ファイルは、201ページの『第9章 デフォルト XML ファイル』にすべて記載されています。これらのファイル内のパラメーターには、SM Administration EUI のデフォルト値が設定されています。

デフォルト xml ファイルは、環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH で指定されたパスに含まれていなければなりません。もし、含まれていない場合は、このデフォルト xml ファイルのパスを指定する必要があります。

たとえば、`-xmlinput 'inputprocessearfile.xml'` では、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH 内のデフォルト入力 xml ファイルが指定されますが、`-xmlinput './inputprocessearfile.xml'` では、現在のディレクトリー内のファイルが指定されます。

デフォルト xml ファイルのデフォルト・パスを変更するには、環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に別の既存のパスを設定します。この場合は、そのパスが存在するとともに、使用するデフォルト xml ファイルがそのディレクトリーに入っていることを確認してください。

-input

これは、CB390CFG API のオプション・パラメーターです。デフォルト xml ファイルのパラメーターをオーバーライドする名前値ペアが入った入力ファイルを指定します。REXX 変数を使用して xml ファイルを生成するには、XMLGEN と呼ばれるツールを使用します。XMLGEN ツールについては、185ページの『第5章 XMLGEN』で説明しています。

重要: パラメーターとデフォルト xml ファイルがマージされると、入力ファイルは削除されます。

-output

出力ファイルには、より詳細な情報が記録されます。各 J2EE アプリケーション・アクションの説明では、出力ファイルの例を用意しています。J2EE アプリケーションの一般的な出力形式は、以下のようになります。

```

administratorname.1 CBADMIN
conversationname.1 API Functiontest
j2eeapplicationname.1 testApp
j2eeservername.1 BBOASR4
sysplexname.1 PLEX1
status 0
message.1 OK
count 1

```

アクション “processearfile”

この関数は、ear ファイルを処理するために提供されています。ear ファイルを処理するには、サーバー側の SM EUI を介して ear ファイルを保管する必要があります。解決された ear ファイルは、SM スクリプト API の入力として使用することができます。

構文

```
rc = CB390CFG(“ — -action—’processearfile’ —————→
— -xmlinput—’defaultxmlfilename’ —————→
      | — -input—’inputfilename’ —————→
— -output—’outputfilename’ —”)—————→
```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。processearfile のデフォルト xml ファイル "inputprocessearfile.xml" は、241ページの『inputprocessearfile.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリに入っています。

このディレクトリが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 "inputprocessearfile.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリが指定されていない場合は、このパラメーターに

```
"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputprocessearfile.xml"
```

を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリを設定する必要があります。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれる

ファイルを指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについては、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める**必要があります**。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリ内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、このサーバー・アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須 属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、241ページの『inputprocessearfile.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
j2eeservername	J2EE サーバーの名前	x
earfilename	解決された ear ファイルの名前 注: このファイルは、完全修飾名で指定する必要があります。(例: /tmp/testBean_resolved.ear)	x

例 スクリプトの例を以下に示します。

```
call syscalls 'ON'
signal on error

say "FCT Test #processearfile"

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "j2eeservername"
name.3 = "earfilename"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "BBOASR4"
val.3 = "/tmp/testApp_resolved.ear"

rc = 4
i = 1
```

```

/* Generate XML Input */
do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #processearfile failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

/* Call the function: importApplicationfamily */
rc = CB390CFG("-action 'processearfile' -xmlinput 'inputprocessearfile.xml'
-input 'tempin' -output 'processearfile'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #processearfile failed"
  exit
end

/* Parse the result */
rc = XMLPARSE("processearfile" "ALL")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #processearfile failed while XMLPARSE"
  exit
end
say "FCT Test #processearfile completed"
return 0
exit

error:
say "Error in FCT Test #processearfile" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

出力ファイルは、以下のようになります。

```

administratorname.1 = CBADMIN
conversationname.1 = API Functiontest
j2eeapplicationname.1 = testApp
j2eeservername.1 = BBOASR4
sysplexname.1 = PLEX1
status = 0
message.1 = OK
count = 1

```

アクション “listj2eeapplication”

このアクションは、名前付きアプリケーションの一覧を表示します。アプリケーションの名前に “*” を設定すると、指定された J2EE サーバー上のすべてのアプリケーションが一覧表示されます。

構文


```

▶—rc = CB390CFG—("— -action—'listj2eeapplication' —————→
▶— -xmlinput—'defaultxmlfilename' —————→
   |                                     |
   |— -input—'inputfilename' —————→
▶— -output—'outputfilename' —————→

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。

listj2eeapplication のデフォルト xml ファイル

"inputlistj2eeapplication.xml" は、214ページの

『inputlistj2eeapplication.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。

このディレクトリーが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 "inputlistj2eeapplication.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに "/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputlistj2eeapplication.xml" を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設定する必要があります。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイルを指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについて

は、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める必要があります。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、このサーバー・アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須 属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、214ページの『inputlistj2eeapplication.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
j2eeservername	J2EE サーバーの名前	x
j2eeapplicationname	アプリケーションの名前を設定します。"*" を設定すると、指定された J2EE サーバーにインストールされているすべてのアプリケーションが一覧表示されます。	x

例 スクリプトの例を以下に示します。

```

/* REXX function */
/* Functiontest Test : listj2eeapplication */

call syscalls 'ON'
signal on error

say "FCT Test #listj2eeapplication"

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "j2eeservername"
name.3 = "j2eeapplicationname"

/* Part 1: */
/* List special J2EE application */
val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "BBOASR4"
val.3 = "testApp"

```

```

rc = 4
i = 1
say "TEST listj2eeapplication A"

/* Generate XML Input */
do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #listj2eeapplication A failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

/* Call the function: listj2eeapplication */
rc = CB390CFG("-action 'listj2eeapplication' -xmlinput
'inputlistj2eeapplication.xml' -input 'tempin' -output
'listj2eeapplicationA'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #listj2eeapplication A failed"
  exit
end

/* Parse the result */
rc = XMLPARSE("listj2eeapplicationA" "ALL")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #listj2eeapplication A failed while XMLPARSE"
  exit
end

/* Part 2: */
/* List all J2EE application */
say "TEST listj2eeapplication B"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "BBOASR4"
val.3 = "*"

rc = 4
i = 1

/* Generate XML Input */
do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #listj2eeapplication B failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

/* Call the function: listj2eeapplication */

```

```

rc = CB390CFG("-action 'listj2eeapplication' -xmlinput
'inputlistj2eeapplication.xml' -input 'tempin' -output
'listj2eeapplicationB'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #listj2eeapplication B failed"
  exit
end

/* Parse the result */
rc = XMLPARSE("listj2eeapplicationB" "ALL")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #listj2eeapplication B failed while XMLPARSE"
  exit
end
say "FCT Test #listj2eeapplication B completed"
exit

error:
say "Error in FCT Test #listj2eeapplication" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

出力ファイルは、以下のようになります。

```

administratorname.1 CBADMIN
conversationname.1 API Functiontest
j2eeapplicationname.1 testApp
j2eeservername.1 BBOASR4
sysplexname.1 PLEX1
status 0
message.1 OK
count 1

```

アクション “deletej2eeapplication”

このアクションは、名前付き J2EE アプリケーションを削除します。ただし、これは、論理的な削除となります。この変更が関連付けられている会話がコミットされるまで、削除は行なわれません。

構文

```

rc = CB390CFG(“(— -action—'deletej2eeapplication' —————→

— -xmlinput—'defaultxmlfilename' —————→
└── -input—'inputfilename' ───┘

— -output—'outputfilename' —”)————→

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。

deletej2eeapplication のデフォルト xml ファイル

"inputdeletej2eeapplication.xml" は、215ページの

『inputdeletej2eeapplication.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。

このディレクトリーが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名

"inputdeletej2eeapplication.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに "/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputdeletej2eeapplication.xml" を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設定する**必要があります**。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイルを指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについては、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める**必要があります**。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、このアクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須 属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章

XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、215ページの『inputdeletej2eeapplication.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
j2eeservername	J2EE サーバーの名前	x
j2eeapplicationname	削除するアプリケーションの名前	x

例 スクリプトの例を以下に示します。

```

/* REXX function */
/* Functiontest Test : listj2eeapplication */

call syscalls 'ON'
signal on error

say "FCT Test #listj2eeapplication"

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "j2eeservername"
name.3 = "j2eeapplicationname"

/* Part 1: */
/* List special J2EE application */
val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "BBOASR4"
val.3 = "testApp"

rc = 4
i = 1
say "TEST listj2eeapplication A"

/* Generate XML Input */
do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #listj2eeapplication A failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

/* Call the function: listj2eeapplication */
rc = CB390CFG("-action 'listj2eeapplication' -xmlinput
'inputlistj2eeapplication.xml' -input 'tempin' -output
'listj2eeapplicationA'")
if (rc == 4) then do

```

```

    say "FCT Test #listj2eeapplication A failed"
    exit
end

/* Parse the result */
rc = XMLPARSE("listj2eeapplicationA" "ALL")
if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #listj2eeapplication A failed while XMLPARSE"
    exit
end

/* Part 2: */
/* List all J2EE application */
say "TEST listj2eeapplication B"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "BBOASR4"
val.3 = "*"

rc = 4
i = 1

/* Generate XML Input */
do while(name.i <> '0')
    rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
    if (rc == 4) then do
        say "FCT Test #listj2eeapplication B failed while XMLGEN"
        exit
    end
    i = i+1
end;

/* Call the function: listj2eeapplication */
rc = CB390CFG("-action 'listj2eeapplication' -xmlinput
'inputlistj2eeapplication.xml' -input 'tempin' -output
'listj2eeapplicationB'")
if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #listj2eeapplication B failed"
    exit
end

/* Parse the result */
rc = XMLPARSE("listj2eeapplicationB" "ALL")
if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #listj2eeapplication B failed while XMLPARSE"
    exit
end
say "FCT Test #listj2eeapplication B completed"
exit

```

```

error:
say "Error in FCT Test #listj2eeapplication" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

出力ファイルは、以下のようになります。

```

administratorname.1 CBADMIN
conversationname.1 API Functiontest
j2eeapplicationname.1 testApp
j2eeservername.1 BBOASR4
sysplexname.1 PLEX1
status 0
message.1 OK
count 1

```

アクション “listj2eemodules”

このアクションは、名前付きモジュールの一覧を表示します。モジュールの名前に “*” を設定すると、指定された J2EE アプリケーション上のすべてのモジュールが一覧表示されます。

構文

```

▶—rc = CB390CFG—(“— -action—'listj2eemodules' —————▶
▶ -xmlinput—'defaultxmlfilename' —————▶
└── -input—'inputfilename' ───┘
▶ -output—'outputfilename' —”)————▶

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。

listj2eemodules のデフォルト xml ファイル

“inputlistj2eemodules.xml” は、216ページの

『inputlistj2eemodules.xml』に記載されています。このファイルは、
“/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi” ディレクトリーに入っていません。

このディレクトリーが環境変数 `DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` に指定されている場合は、ファイル名 `"inputlistj2eemodules.xml"` を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに

`"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/listj2eemodules.xml"` を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、`DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` にそのディレクトリーを設定する必要があります。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイルを指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについては、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める必要があります。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、`"/tmp"` ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、このアクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、216ページの『inputlistj2eemodules.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
j2eeservername	J2EE サーバーの名前	x
j2eeapplicationname	J2EE アプリケーションの名前	x
j2eemodulename	モジュールの名前を設定します。"*" を設定すると、指定された J2EE アプリケーションに関連付けられているすべてのモジュールが一覧表示されます。	x

例 スクリプトの例を以下に示します。

Here is an example script:

```

call syscalls 'ON'
signal on error

say "FCT Test #listj2eeapplication"

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "j2eeservername"
name.3 = "j2eeapplicationname"

/* Part 1: */
/* List special J2EE application */
val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "BBOASR4"
val.3 = "testApp"

rc = 4
i = 1
say "TEST listj2eeapplication A"

/* Generate XML Input */
do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #listj2eeapplication A failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

/* Call the function: listj2eeapplication */
rc = CB390CFG("-action 'listj2eeapplication' -xmlinput
'inputlistj2eeapplication.xml' -input 'tempin' -output
'listj2eeapplicationA'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #listj2eeapplication A failed"
  exit
end

/* Parse the result */
rc = XMLPARSE("listj2eeapplicationA" "ALL")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #listj2eeapplication A failed while XMLPARSE"
  exit
end

/* Part 2: */
/* List all J2EE application */
say "TEST listj2eeapplication B"

```

```

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "BBOASR4"
val.3 = "*"

rc = 4
i = 1

/* Generate XML Input */
do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #listj2eeapplication B failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

/* Call the function: listj2eeapplication */
rc = CB390CFG("-action 'listj2eeapplication' -xmlinput
'inputlistj2eeapplication.xml' -input 'tempin' -output
'listj2eeapplicationB'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #listj2eeapplication B failed"
  exit
end

/* Parse the result */
rc = XMLPARSE("listj2eeapplicationB" "ALL")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #listj2eeapplication B failed while XMLPARSE"
  exit
end
say "FCT Test #listj2eeapplication B completed"
exit

error:
say "Error in FCT Test #listj2eeapplication" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

出力ファイルは、以下のようになります。

```

administratorname.1 CBADMIN
conversationname.1 API Functiontest
j2eeapplicationname.1 testApp
j2eeservername.1 BBOASR4
sysplexname.1 PLEX1
status 0
message.1 OK
count 1

```

アクション “listj2eecomponents”

このアクションは、名前付きコンポーネントの一覧を表示します。コンポーネントの名前に "*" を設定すると、指定された J2EE モジュール上のすべてのコンポーネントが一覧表示されます。

構文

```
rc = CB390CFG—" -action—'listj2eecomponents' —————>
-xmlinput—'defaultxmlfilename' —————>
  | -input—'inputfilename' —————>
- output—'outputfilename' —")>
```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。

listj2eecomponents のデフォルト xml ファイル

"inputlistj2eecomponents.xml" は、215ページの

『inputlistj2eecomponents.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリに入っています。このディレクトリが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 "listj2eecomponents.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリが指定されていない場合は、このパラメーターに

"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/listj2eecomponents.xml" を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリを設定する必要があります。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイルを指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト

xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについては、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める必要があります。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、このアクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、215ページの『inputlistj2eecomponents.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
j2eeservername	J2EE サーバーの名前	x
j2eeapplicationname	アプリケーションの名前	x
j2eemodulename	モジュールの名前	x
j2eecomponentsname	コンポーネントの名前を設定します。"*" を設定すると、指定された J2EE モジュールに関連付けられているすべてのコンポーネントが一覧表示されます。	x

例 スクリプトの例を以下に示します。

```

/* REXX function */
/* Functiontest Test : listj2eemodules */

/* Dependencies: */
/* Part 1: The conversation "API Functiontest" must be added,
the server "APIFCT" must be added to the "API Functiontest" conversation
and the application family "API_Funcitontest_Application" must be added */
/* Part 2: The conversation "API Functiontest" must be added and
the server "APIFCT" must be added to the "API Functiontest" conversation*/
call syscalls 'ON'
signal on error

say "FCT Test #listj2eemodules special case"

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "j2eeservername"
name.3 = "j2eeapplicationname"
name.4 = "modulename"

```

```

/* Part 1: */
/* List special J2EE modules */
val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "BBOASR4"
val.3 = "testApp"
val.4 = "testBean_deploy.jar"

rc = 4
i = 1

/* Generate XML Input */
do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #listj2eemodules A failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

/* Call the function: listj2eemodules */
rc = CB390CFG("-action 'listj2eemodules' -xmlinput 'inputlistj2eemodules.xml'
-input 'tempin' -output 'listj2eemodules'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #listj2eemodules failed"
  exit
end

/* Parse the result */
rc = XMLPARSE("listj2eemodules" "ALL")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #listj2eemodules failed while XMLPARSE"
  exit
end

say "TEST listj2eemodules all cases"

/* Part 2: */
/* List all J2EE modules */

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "BBOASR4"
val.3 = "PolicyIVP"
val.4 = "*"

rc = 4
i = 1

/* Generate XML Input */
do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #listj2eemodules B failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

/* Call the function: listj2eemodules */
rc = CB390CFG("-action 'listj2eemodules' -xmlinput 'inputlistj2eemodules.xml'
-input 'tempin' -output 'listj2eemodulesB'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #listj2eemodules B failed"
  exit
end

/* Parse the result */

```

```

rc = XMLPARSE("listj2eemodulesB" "ALL")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #listj2eemodules B failed while XMLPARSE"
  exit
end

exit

error:
say "Error in FCT Test #listj2eemodules" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

出力ファイルは、以下のようになります。

```

administratorname.1 CBADMIN
conversationname.1 API Functiontest
j2eeapplicationname.1 testApp
j2eeservername.1 BBOASR4
modulename.1 testBean_deploy.jar
sysplexname.1 PLEX1
status 0
message.1 OK
count 1

```

サーバー・インスタンス

以下の関数は、サーバー・インスタンスを変更するために提供されています。

構文

```

► rc = CB390CFG(—" -action—" create- delete- change- list- serverinstance—)

```

```

► -xmlinput—'defaultxmlfilename' -input—'inputfilename'

```

```

► -output—'outputfilename' —)

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、戻りコード (rc) は「4」になります。

-action

createserverinstance

新しいサーバー・インスタンスを作成します。

deleteserverinstance

サーバー・インスタンスを削除します。

changeserverinstance

サーバー・インスタンスを変更します。

listserverinstance

サーバー・インスタンスの一覧を表示します。

-xmlinput

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、実行するアクションの必須パラメーターをすべて指定する必要があります。このファイルは、文書型定義 (DTD) が指定された xml ファイルです。DTD では、文書構造の指定のみを行いません。ユーザーは、各パラメーターのデフォルト値を指定することができます。これらのパラメーターは、REXX スクリプトで入力パラメーターを介してオーバーライドすることができます。デフォルト xml ファイルは、201ページの『第9章 デフォルト XML ファイル』にすべて記載されています。これらのファイル内のパラメーターには、SM Administration EUI のデフォルト値が設定されています。

デフォルト xml ファイルは、環境変数 `DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` で指定されたパスに含まれていなければなりません。もし、含まれていない場合は、このデフォルト xml ファイルのパスを指定する必要があります。

たとえば、`-xmlinput 'inputcreateserverinstance.xml'` では、`DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` 内のデフォルト入力 xml ファイルが指定されますが、

`-xmlinput './inputcreateserverinstance.xml'` では、現在のディレクトリー内のファイルが指定されます。

デフォルト xml ファイルのデフォルト・パスを変更するには、環境変数 `DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` に別の既存のパスを設定します。この場合は、そのパスが存在するとともに、使用するデフォルト xml ファイルがそのディレクトリーに入っていることを確認してください。

-input

これは、CB390CFG API のオプション・パラメーターです。デフォルト xml ファイルのパラメーターをオーバーライドする名前値ペアが入った入力ファイルを指定します。REXX 変数を使用して xml ファイルを生成するには、XMLGEN と呼ばれるツールを使用します。XMLGEN ツールについては、185ページの『第5章 XMLGEN』で説明しています。

重要: パラメーターとデフォルト xml ファイルがマージされると、入力ファイルは削除されます。

output

出力ファイルには、より詳細な情報が記録されます。各サーバー・インスタンス・アクションの説明では、出力ファイルの例を用意しています。サーバー・インスタンス・アクションの一般的な出力形式は、以下のようになります。

```

administratorname.1 AdministratorName
configportnumber.1 ConfiguredPortNumber
conversationname.1 ConversationName
logstreamname.1 LogstreamName
serverinstancedescription.1 ServerInstanceDescription
serverinstancename.1 ServerInstanceName
servername.1 ServerName
sslfirewallport.1 SSLFirewallPortNumber
sysplexname.1 SysplexName
systemname.1 SystemName
status 0|4
message.1 OK|ErrorMessage
count NumberOfListedServerInstances

```

アクション “createserverinstance”

このアクションは、新しいサーバー・インスタンスを作成します。

構文

```

▶—rc = CB390CFG—(“— -action—'createserverinstance' —————▶
▶— -xmlinput—'defaultxmlfilename' —————▶
└— -input—'inputfilename' —┘
▶— -output—'outputfilename' —”)—————▶

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。

createserverinstance のデフォルト xml ファイル "inputcreateserverinstance.xml" は、223ページの

『inputcreateserverinstance.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。

このディレクトリーが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 "inputcreateserverinstance.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに "/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputcreateserverinstance.xml" を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設定する**必要があります**。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイル指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについては、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める**必要があります**。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、このサーバー・インスタンス・アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、223ページの『inputcreateserverinstance.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
servername	サーバーの名前	x
serverinstancename	サーバー・インスタンスの名前	x
serverinstancedescription	サーバー・インスタンスの説明	x

パラメーター名	値	必須
systemname	システムの名前	x
logstreamname	ログ・ストリームの名前	x
environment	デフォルト xml 内の環境を指定するには、各環境のタイプごとにエレメントを設定する必要があります。環境のタイプを指定する場合は、属性を設定する必要があります。環境を REXX で指定する場合は、エレメントを 1 つだけ指定する必要があります。環境を設定するには、environment name = 'value' [name = 'value' ...] と入力します。name には環境の名前を、value には環境の値を指定します。環境を指定する場合は、name = 'value' ペアを 1 つ以上指定する必要があります。	
configportnumber	0 ~ 65535 の数値	x
sslfirewallport	0 ~ 65535 の数値	x

例 スクリプトの例を以下に示します。

```

/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

say "FCT Test #11"

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "servername"
name.3 = "serverinstancename"
name.4 = "serverinstancedescription"
name.5 = "systemname"
name.6 = "logstreamname"
name.7 = "environment"
name.8 = "configportnumber"
name.9 = "sslfirewallport"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "APIFCT"
val.3 = "APIFCTSI"
val.4 = "API Functiontest ServerInstance"
val.5 = "SY1"
val.6 = ""

```

```

val.7 = "CLASSPATH='test1' PATH='test2'"
val.8 = "12345"
val.9 = "9000"

rc=4
i=1

/* Generate XML Input */
do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #11 failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

/* Call the function: createserverinstance */
rc = CB390CFG("-action 'createserverinstance'
  -xmlinput 'inputcreateserverinstance.xml'
  -input 'tempin' -output 'FCT11'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #11 failed"
  exit
end

/* Parse the result */
rc = XMLPARSE("FCT11" "ALL")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #11 failed while XMLPARSE"
  exit
end
say "FCT Test #11 completed"
return 0
exit

error:
say "Error in FCT Test #11" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

出力ファイルは、以下のようになります。

```

administratorname.1 CBADMIN
configportnumber.1 12345
conversationname.1 API Functiontest
logstreamname.1
serverinstancedescription.1 API Functiontest ServerInstance
serverinstancename.1 APIFCTSI
servername.1 APIFCT
sslfirewallport.1 9000
sysplexname.1 PLEX1

```

```

systemname.1 SY1
status 0
message.1 OK
count 1

```

アクション “deleteserverinstance”

このアクションは、名前付きサーバー・インスタンスを削除します。ただし、これは、論理的な削除となります。この変更が関連付けられている会話がコミットされるまで、削除は行なわれません。

構文

```

➤ rc = CB390CFG—" -action—'deleteserverinstance' —————➤
➤ -xmlinput—'defaultxmlfilename' —————➤
   |                                     |
   | -input—'inputfilename' ————— |
   |                                     |
➤ -output—'outputfilename' —" )—————➤

```

構文の詳細

rc すべてのが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。

deleteserverinstance のデフォルト xml ファイル

"inputdeleteserverinstance.xml" は、224ページの

『inputdeleteserverinstance.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。

このディレクトリーが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 "inputdeleteserverinstance.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに "/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputdeleteserverinstance.xml" を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、その

ファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、`DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` にそのディレクトリーを設定する**必要があります**。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイル指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト `xml` ファイルの値に設定するには、`XMLGEN` (185ページの『第5章 `XMLGEN`』) を使用します。これがどのように機能するかについては、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの `xml` 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める**必要があります**。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、`"/tmp"` ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト `xml` ファイルの値

以下の表には、このサーバー・インスタンス・アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須属性は、デフォルト `xml` ファイル内に定義する必要があります。これは、`XMLGEN` (185ページの『第5章 `XMLGEN`』) スクリプトで定義することができます。デフォルト `xml` ファイルは、224ページの『`inputdeleteserverinstance.xml`』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
<code>conversationname</code>	会話の名前	x
<code>servername</code>	サーバーの名前	x
<code>serverinstancename</code>	サーバー・インスタンスの名前	x

例 スクリプトの例を以下に示します。

```
/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

name.1 = "conversationname"
name.2 = "servername"
name.3 = "serverinstancename"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "APIFCT"
val.3 = "APIFCTSI"

rc = 4
i = 1
```

```

do while(val.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #13 failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

rc = CB390CFG("-action 'deleteserverinstance'
             -xmlinput 'inputdeleteserverinstance.xml'
             -input 'tempin' -output 'FCT13'")

if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #13 failed"
  exit
end
exit

error:
say "Error in FCT Test #13" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

出力ファイルは、以下のようになります。

```

administratorname.1 CBADMIN
conversationname.1 API Functiontest
logstreamname.1
serverinstancedescription.1 API Functiontest Serverinstance Description modified
serverinstancename.1 APIFCTSI
servername.1 APIFCT
sysplexname.1 PLEX1
systemname.1 SY1
environment.1 CLASSPATH = 'testchange1' PATH = 'testchange2'
status 0
message.1 OK
count 1

```

アクション “changeserverinstance”

このアクションは、名前付きサーバー・インスタンスの属性を変更します。

構文

```

▶—rc = CB390CFG—(“— -action—'changeserverinstance' —————▶
▶— -xmlinput—'defaultxmlfilename' —————▶
└— -input—'inputfilename' —┘
▶— -output—'outputfilename' —”)—————▶

```

構文の詳細

rc すべてのが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。

changeserverinstance のデフォルト xml ファイル

"inputchangeserverinstance.xml" は、225ページの

『inputchangeserverinstance.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。

このディレクトリーが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 "inputchangeserverinstance.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに "/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputchangeserverinstance.xml" を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設定する**必要があります**。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイル指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについては、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて**含める必要があります**。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、このサーバー・インスタンス・アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、225ページの『inputchangeserverinstance.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
servername	サーバーの名前	x
serverinstancename	サーバー・インスタンスの名前	x
serverinstancedescription	サーバー・インスタンスの説明	x
systemname	システムの名前	x
logstreamname	ログ・ストリームの名前	x
environment	デフォルト xml 内の環境を指定するには、各環境のタイプごとにエレメントを設定する 必要があります 。環境のタイプを指定する場合は、属性を設定する 必要があります 。 環境を REXX で指定する場合は、エレメントを 1 つだけ指定する 必要があります 。 環境を設定するには、environment name = 'value' [name = 'value' ...] と入力します。name には環境の名前を、value には環境の値を指定します。環境を指定する場合は、name = 'value' ペアを 1 つ以上指定する 必要があります 。	
configportnumber	0 ~ 65535 の数値	x
sslfirewallport	0 ~ 65535 の数値	x

例 スクリプトの例を以下に示します。

```

/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

say "FCT Test #12"

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "servername"
name.3 = "serverinstancename"
name.4 = "serverinstancedescription"
name.5 = "systemname"
name.6 = "logstreamname"
name.7 = "environment"
name.8 = "configportnumber"
name.9 = "sslfirewallport"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "APIFCT"

```

```

val.3 = "APIFCTSI"
val.4 = "API Functiontest Serverinstance Description modified"
val.5 = "SY1"
val.6 = ""
val.7 = "CLASSPATH='testchange1' PATH='testchange2'"
val.8 = "50000"
val.9 = "11000"

```

```

rc = 4
i = 1

```

```

/* Generate XML Input */
do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #12 failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

```

```

/* Call the function: changeserverinstance */
rc = CB390CFG("-action 'changeserverinstance'
  -xmlinput 'inputchangeserverinstance.xml'
  -input 'tempin' -output 'FCT12'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #12 failed"
  exit
end

```

```

/* Parse the result */
rc = XMLPARSE("FCT12" "ALL")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #12 failed while XMLPARSE"
  exit
end
say "FCT Test #12 completed"
exit

```

```

error:
say "Error in FCT Test #12" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

出力ファイルは、以下のようになります。

```

administratorname.1 CBADMIN
configportnumber.1 50000
conversationname.1 API Functiontest
logstreamname.1
serverinstancedescriptions.1 API Functiontest Serverinstance Description modified
serverinstancename.1 APIFCTSI
servername.1 APIFCT
sslfirewallport.1 11000
sysplexname.1 PLEX1
systemname.1 SY1
status 0
message.1 OK
count 1

```

アクション “listserverinstance”

このアクションは、名前付きサーバー・インスタンスの一覧を表示します。サーバー・インスタンス名に “*” を設定すると、すべてのサーバー・インスタンスが一覧表示されます。

構文

```

▶—rc = CB390CFG—(“— -action—'listserverinstance' —————▶
                                     |
▶— -xmlinput—'defaultxmlfilename' —————▶
                                     |
                                     | —input—'inputfilename' —|
                                     |
▶— -output—'outputfilename' —”)—————▶

```

構文の詳細

rc すべてのが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。

listserverinstance のデフォルト xml ファイル

"inputlistserverinstance.xml" は、226ページの

『inputlistserverinstance.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。

このディレクトリーが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 "inputlistserverinstance.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに

"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputlistserverinstance.xml" を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設定する必要があります。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれる

ファイル指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについては、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める必要があります。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、このサーバー・インスタンス・アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、226ページの『inputlistserverinstance.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
servername	サーバーの名前	x
serverinstancename	サーバー・インスタンスの名前。 "*" を設定すると、サーバーに関連するすべてのサーバー・インスタンスが一覧表示されます。	x

例 スクリプトの例を以下に示します。

```

/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

name.= 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "servername"
name.3 = "serverinstancename"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "APIFCT"
val.3 = "APIFCTSI"

```

```

rc = 4
i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #14 failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

rc = CB390CFG("-action 'listserverinstance'
             -xmlinput 'inputlistserverinstance.xml'
             -input 'tempin' -output 'FCT14'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #14 failed"
  exit
end
exit

error:
say "Error in FCT Test #14" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

出力ファイルは、以下のようになります。

```

administratorname.1 CBADMIN
conversationname.1 API Functiontest
logstreamname.1
serverinstancedescription.1 API Functiontest Serverinstance Description modified
serverinstancename.1 APIFCTSI
servername.1 APIFCT
sysplexname.1 PLEX1
systemname.1 SY1
environment.1 CLASSPATH = 'testchange1' PATH = 'testchange2'
status 0
message.1 OK
count 1

```

コンテナ

以下の関数は、コンテナを変更するために提供されています。

構文

```

▶ -rc = CB390CFG("-action-'
                create- container-'
                delete-
                change-
                list-
                ')

▶ -xmlinput-'defaultxmlfilename'
  -input-'inputfilename'

```

▶ -output-'outputfilename' -")

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、戻りコード (rc) は「4」になります。

-action

createcontainer 新しいコンテナを作成します。

deletecontainer コンテナを削除します。

changecontainer
コンテナを変更します。

listcontainer コンテナの一覧を表示します。

-xmlinput

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、実行するアクションの必須パラメーターをすべて指定する必要があります。このファイルは、文書型定義 (DTD) が指定された xml ファイルです。DTD では、文書構造の指定のみを行いません。ユーザーは、各パラメーターのデフォルト値を指定することができます。これらのパラメーターは、REXX スクリプトで入力パラメーターを介してオーバーライドすることができます。デフォルト xml ファイルは、201ページの『第9章 デフォルト XML ファイル』にすべて記載されています。これらのファイル内のパラメーターには、SM Administration EUI のデフォルト値が設定されています。

デフォルト xml ファイルは、環境変数 `DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` で指定されたパスに含まれていなければなりません。もし、含まれていない場合は、このデフォルト xml ファイルのパスを指定する必要があります。

たとえば、`-xmlinput 'inputcreatecontainer.xml'` では、`DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` 内のデフォルト入力 xml ファイルが指定されますが、`-xmlinput './inputcreatecontainer.xml'` では、現在のディレクトリー内のファイルが指定されます。

デフォルト xml ファイルのデフォルト・パスを変更するには、環境変数 `DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` に別の既存のパスを設定しま

す。この場合は、そのパスが存在するとともに、使用するデフォルト xml ファイルがそのディレクトリーに入っていることを確認してください。

-input

これは、CB390CFG API のオプション・パラメーターです。デフォルト xml ファイルのパラメーターをオーバーライドする名前値ペアが入った入力ファイルを指定します。REXX 変数を使用して xml ファイルを生成するには、XMLGEN と呼ばれるツールを使用します。XMLGEN ツールについては、185ページの『第5章 XMLGEN』で説明しています。

重要: パラメーターとデフォルト xml ファイルがマージされると、入力ファイルは削除されます。

-output

出力ファイルには、より詳細な情報が記録されます。各コンテナー・アクションの説明では、出力ファイルの例を用意しています。コンテナー・アクションの一般的な出力形式は、以下のようになります。

```
aclcheckrequired.1 Y|N
activationisolation_policy.1 ActivationIsolationPolicyState
administratorname.1 AdministratorName
containerdescription.1 ContainerDescription
containername.1 ContainerName
conversationname.1 ConversationName
managedobjectrefresh_policy.1 ManagedObjectRefreshPolicyState
passivationconstraints.1 PassivationConstraintsState
servername.1 ServerName
sysplexname.1 SysplexName
transactionpolicy.1 TransactionPolicyState
status 0|4
message.1 OK|ErrorMessage
count NumberOfListedContainer
```

アクション “createcontainer”

このアクションは、新しいコンテナーを作成します。

構文

```
►► -rc = CB390CFG—(“— -action—'createcontainer' —————→
► -xmlinput—'defaultxmlfilename' —————→
└── -input—'inputfilename' ───┘
```

▶ -output-'outputfilename' -")▶

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。

createcontainer のデフォルト xml ファイル

"inputcreatecontainer.xml" は、226ページの

『inputcreatecontainer.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。

このディレクトリーが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 "inputcreatecontainer.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに

"usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputcreatecontainer.xml" を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設定する**必要があります**。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイルを指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについては、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める**必要があります**。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、このコンテナ・アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、226ページの『inputcreatecontainer.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
servername	サーバーの名前	x
containername	コンテナの名前	x
containerdescription	コンテナの説明	x
aclcheckrequired	"Y" または "N" のみ指定可能	x
activationisolationpolicy	以下の値が指定可能: Transaction_Level Container_Level	x
passivationconstraints	以下の値が指定可能: Pinned Pinned_For_Life_Of_Transaction Not Pinned	x
managedobjectrefreshpolicy	以下の値が指定可能: At_Transaction_Recognition At_Activation	x
transactionpolicy	以下の値が指定可能: Tx_Required Tx_MOFW_Isolated_HG Tx_MOFW_Merged_HG Tx_MOFW_Supports_Merged_HG	x

コンテナのプロパティについては、SM-EUI およびスクリプト API との間で、いくつかの違いがあります。以下の表は、異なる値を示しています。

"非活動化制約" のパラメーター

スクリプトの値	GUI の値
Pinned_For_Life_Of_Transaction	トランザクション・ライフ用にピンされている

"マネージド・オブジェクトの最新表示ポリシー" のパラメーター

スクリプトの値	GUI の値
At_Transaction_Recognition	トランザクションにつき

"トランザクション・ポリシー" のパラメーター

スクリプトの値	GUI の値
Tx_Required	必須
Tx_MOFW_Isolated_HG	同一サーバーのハイブリッド・グローバル
Tx_MOFW_Merged_HG	ハイブリッド・グローバル
Tx_MOFW_Supports_Merged_HG	同一サーバーのハイブリッド・グローバルをサポート

例 スクリプトの例を以下に示します。

```

/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "servername"
name.3 = "containername"
name.4 = "containerdescription"
name.5 = "aclcheckrequired"
name.6 = "activationisolation_policy"
name.7 = "passivationconstraints"
name.8 = "managedobjectrefresh_policy"
name.9 = "transactionpolicy"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "APIFCT"
val.3 = "API Functiontest_Container"
val.4 = "API Functiontest_Container Description"
val.5 = "N"
val.6 = "Transaction_Level"
val.7 = "Not_Pinned"
val.8 = "At_Activation"
val.9 = "TX_Required"

rc = 4
i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #15 failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

rc = CB390CFG("-action 'createcontainer' -xmlinput 'inputcreatecontainer.xml'

```

```

        -input 'tempin' -output 'FCT15'")
if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #15 failed"
    exit
end
exit

error:
say "Error in FCT Test #15" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

出力ファイルは、以下のようになります。

```

aclcheckrequired.1 N
activationisolationpolicy.1 Transaction_Level
administratorname.1 CBADMIN
containerdescription.1 API Functiontest Container Description
containername.1 API_Functiontest_Container
conversationname.1 API_Functiontest
managedobjectrefreshpolicy.1 At_Activation
passivationconstraints.1 Not_Pinned
servername.1 APIFCT
sysplexname.1 PLEX1
transactionpolicy.1 Tx_Required
status 0
message.1 OK
count 1

```

アクション “deletecontainer”

このアクションは、名前付きコンテナを削除します。ただし、これは、論理的な削除となります。この変更が関連付けられている会話がコミットされるまで、削除は行なわれません。

構文

```

▶▶ rc = CB390CFG—(“ — -action—'deletecontainer' —————▶
▶ -xmlinput—'defaultxmlfilename' —————▶
    └── -input—'inputfilename' ───┘
▶ -output—'outputfilename' —”)—————▶▶

```

構文の詳細

rc すべてのが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。

deletecontainer のデフォルト xml ファイル

"inputdeletecontainer.xml" は、227ページの

『inputdeletecontainer.xml』に記載されています。このファイルは、
"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。

このディレクトリーが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 "inputdeletecontainer.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに

"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputdeletecontainer.xml" を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設定する**必要があります**。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイル指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについては、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める**必要があります**。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、このコンテナー・アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、227ページの『inputdeletecontainer.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
servername	サーバーの名前	x
containername	コンテナーの名前	x

例 スクリプトの例を以下に示します。

```

/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

name.= 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "servername"
name.3 = "containername"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "APIFCT"
val.3 = "API_Functiontest_Container"

rc = 4
i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #17 failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

rc = CB390CFG("-action 'deletecontainer' -xmlinput
'inputdeletecontainer.xml' -input 'tempin' -output 'FCT17'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #17 failed"
  exit
end
exit

error:
say "Error in FCT Test #17" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

出力ファイルは、以下のようになります。

```

aclcheckrequired.1 Y
activationisolationpolicy.1 Container_Level
administratorname.1 CBADMIN
containerdescription.1 API Functiontest Container Description
containername.1 API_Functiontest_Container
conversationname.1 API Functiontest
managedobjectrefreshpolicy.1 At_Transaction_Recognition
passivationconstraints.1 Pinned
servername.1 APIFCT
sysplexname.1 PLEX1

```

```
transactionpolicy.1 Tx_MOFW_Supports_Merged_HG
status 0
message.1 OK
count 1
```

アクション “changecontainer”

このアクションは、名前付きコンテナの属性を変更します。

構文

```
rc = CB390CFG (“ — -action—'changecontainer' —————>
-xmlinput—'defaultxmlfilename' —————>
      | -input—'inputfilename' —————>
- output—'outputfilename' —”)—————>
```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。

changecontainer のデフォルト xml ファイル

"inputchangecontainer.xml" は、228ページの

『inputchangecontainer.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリに入っています。

このディレクトリが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 "inputchangecontainer.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリが指定されていない場合は、このパラメーターに

"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputchangecontainer.xml" を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリを設定する必要があります。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイル指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについては、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める必要があります。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリ内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、このコンテナ・アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、228ページの『inputchangecontainer.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
servername	サーバーの名前	x
containername	コンテナの名前	x
containerdescription	コンテナの説明	
aclcheckrequired	"Y" または "N" のみ指定可能	x
activationisolationpolicy	以下の値が指定可能: Transaction_Level Container_Level	x
passivationconstraints	以下の値が指定可能: Pinned Pinned_For_Life_Of_Transaction Not_Pinned	x
managedobjectrefreshpolicy	以下の値が指定可能: At_Transaction_Recognition At_Activation	x

パラメーター名	値	必須
transactionpolicy	以下の値が指定可能: Tx_Required Tx_MOFW_Isolated HG Tx_MOFW_Merged_HG Tx_MOFW_Supports Merged_HG	x

コンテナのプロパティについては、SM-EUI およびスクリプト API との間で、いくつかの違いがあります。以下の表は、異なる値を示しています。

"非活動化制約" のパラメーター

スクリプトの値	GUI の値
Pinned_For_Life_Of_Transaction	Pinned_For_Transaction_Life

"マネージド・オブジェクトの最新表示ポリシー" のパラメーター

パラメーター名	値
At_Transaction_Recognition	トランザクションにつき

"トランザクション・ポリシー" のパラメーター

スクリプトの値	GUI の値
Tx_Required	必須
Tx_MOFW_Isolated_HG	同一サーバーのハイブリッド・グローバル
Tx_MOFW_Merged_HG	ハイブリッド・グローバル
Tx_MOFW_Supports_Merged_HG	同一サーバーのハイブリッド・グローバルをサポート

例 スクリプトの例を以下に示します。

```

/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "servername"
name.3 = "containername"
name.4 = "containerdescription"
name.5 = "aclcheckrequired"

```



```

name.6 = "activationisolation_policy"
name.7 = "passivationconstraints"
name.8 = "managedobjectrefresh_policy"
name.9 = "transactionpolicy"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "APIFCT"
val.3 = "API Functiontest Container"
val.4 = "API Functiontest Container Description"
val.5 = "Y"
val.6 = "Container_Level"
val.7 = "Pinned"
val.8 = "At_Transaction_Recognition"
val.9 = "TX_MOFW_Supports_Merged_HG"

rc = 4
i = 1

do while(name.i <>'0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #16 failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

rc = CB390CFG("-action 'changecontainer' -xmlinput 'inputchangecontainer.xml'
              -input 'tempin' -output 'FCT16'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #16 failed"
  exit
end
exit

error:
say "Error in FCT Test #16" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

出力ファイルは、以下ようになります。

```

aclcheckrequired.1 Y
activationisolationpolicy.1 Container_Level
administratorname.1 CBADMIN
containerdescription.1 API Functiontest Container Description
containername.1 API Functiontest Container
conversationname.1 API Functiontest
managedobjectrefreshpolicy.1 At_Transaction_Recognition
passivationconstraints.1 Pinned
servername.1 APIFCT
sysplexname.1 PLEX1
transactionpolicy.1 Tx_MOFW_Supports_Merged_HG
status.0
message.1 OK
count 1

```

アクション “listcontainer”

このアクションは、名前付きコンテナの一覧を表示します。コンテナ名に “*” を設定すると、すべてのコンテナが一覧表示されます。

構文

```

▶ rc = CB390CFG—" -action-'listcontainer' —————▶
▶ -xmlinput-'defaultxmlfilename' —————▶
   |                                     |
   | -input-'inputfilename'           |
   |_____|
▶ -output-'outputfilename' —————▶

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。listcontainer のデフォルト xml ファイル "inputlistcontainer.xml" は、229ページの『inputlistcontainer.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。

このディレクトリーが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 "inputlistcontainer.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに

```
"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputlistcontainer.xml"
```

を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設定する必要があります。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイルを指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについては、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める必要があります。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、このコンテナ・アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、229ページの『inputlistcontainer.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
servername	サーバーの名前	x
containername	コンテナの名前。 "*" を設定すると、指定されたサーバーに関連するすべてのコンテナが一覧表示されます。	x

例 スクリプトの例を以下に示します。

```

/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

name.= 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "servername"
name.3 = "containername"

val.= 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "APIFCT"
val.3 = "API_Functiontest_Container"

rc = 4
i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #18 failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

```

```

rc = CB390CFG("-action 'listcontainer' -xmlinput 'inputlistcontainer.xml'
              -input 'tempin' -output 'FCT18'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #18 failed"
  exit
end
exit

error:
say "Error in FCT Test #18" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

出力ファイルは、以下のようになります。

```

aclcheckrequired.1 Y
activationisolationpolicy.1 Container_Level
administratorname.1 CBADMIN
containerdescription.1 API Functiontest Container Description
containername.1 API_Functiontest_Container
conversationname.1 API Functiontest
managedobjectrefreshpolicy.1 At_Transaction_Recognition
passivationconstraints.1 Pinned
servername.1 APIFCT
sysplexname.1 PLEX1
transactionpolicy.1 Tx_MOFW_Supports_Merged_HG
status 0
message.1 OK
count 1

```

LRM

以下の関数は、LRM を変更するために提供されています。

構文

```

▶ rc = CB390CFG(" — -action—' ————— create- ————— lrm—' —————→
                | ————— delete- —————
                | ————— change- —————
                | ————— list- —————
▶ -xmlinput—'defaultxmlfilename' —————→
                | ————— -input—'inputfilename' —————
▶ -output—'outputfilename' —") —————→

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、戻りコード (rc) は「4」になります。

-action

createlrm 新しい lrm を作成します。
deletelrm lrm を削除します。
changelrm lrm を変更します。
listlrm lrm の一覧を表示します。

-xmlinput

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、実行するアクションの必須パラメーターをすべて指定する必要があります。このファイルは、文書型定義 (DTD) が指定された xml ファイルです。DTD では、文書構造の指定のみを行いません。ユーザーは、各パラメーターのデフォルト値を指定することができます。これらのパラメーターは、REXX スクリプトで入力パラメーターを介してオーバーライドすることができます。デフォルト xml ファイルは、201ページの『第9章 デフォルト XML ファイル』にすべて記載されています。これらのファイル内のパラメーターには、SM Administration EUI のデフォルト値が設定されています。

デフォルト xml ファイルは、環境変数 `DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` で指定されたパスに含まれていなければなりません。もし、含まれていない場合は、このデフォルト xml ファイルのパスを指定する必要があります。

たとえば、`-xmlinput 'inputcreatelrm.xml'` では、`DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` のデフォルト入力 xml ファイルが指定されますが、`-xmlinput './inputcreatelrm.xml'` では、現在のディレクトリー内のファイルが指定されます。

デフォルト xml ファイルのデフォルト・パスを変更するには、環境変数 `DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` に別の既存のパスを設定します。この場合は、そのパスが存在するとともに、使用するデフォルト xml ファイルがそのディレクトリーに入っていることを確認してください。

-input

これは、CB390CFG API のオプション・パラメーターです。デフォルト xml ファイルのパラメーターをオーバーライドする名前値ペアが入った入力ファイルを指定します。REXX 変数を使用して

xml ファイルを生成するには、XMLGEN と呼ばれるツールを使用します。XMLGEN ツールについては、185ページの『第5章 XMLGEN』で説明しています。

重要: パラメーターとデフォルト xml ファイルがマージされると、入力ファイルは削除されます。

-output

出力ファイルには、より詳細な情報が記録されます。各 LRM アクションの説明では、出力ファイルの例を用意しています。LRM アクションの一般的な出力形式は、以下のようになります。

```

administratorname.1 AdministratorName
coclasscreatefunction.1 CoClassCreateFunctionState
coclassname.1 CoClassName
codllname.1 CoDllName
conversationname.1 ConversationName
lrmdescription.1 LRMDescription
lrmname.1 LRMName
lrmsubsystemtype.1 LRMSubsystemTypeState
sysplexname.1 SysplexName
status 0|4
message.1 OK|ErrorMessage
count NumberOfListedLRM

```

アクション “createlrm”

このアクションは、新しい LRM を作成します。

構文

```

▶ rc = CB390CFG—" -action-'createlrm' —————▶
▶ -xmlinput-'defaultxmlfilename' —————▶
   └── -input-'inputfilename' ───┘
▶ -output-'outputfilename' —————▶

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。createlrm の

デフォルト xml ファイル "inputcreatelrm.xml" は、230ページの『inputcreatelrm.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。

このディレクトリーが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 "inputcreatelrm.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに

"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputcreatelrm.xml" を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設定する必要があります。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイルを指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについては、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める必要があります。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、この LRM アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、230ページの『inputcreatelrm.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前。 "*" を設定すると、管理者に関連するすべての会話が一覧表示されます。	x
lrmname	lrm の名前	x

パラメーター名	値	必須
lrmdescription	lrm の説明	
coclassname		
codllname		
coclasscreatefunction		
lrmsubsystemtype		

例 スクリプトの例を以下に示します。

```

/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "lrmname"
name.3 = "lrmdescription"
name.4 = "coclassname"
name.5 = "codllname"
name.6 = "coclasscreatefunction"
name.7 = "lrmsubsystemtype"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "API_Functiontest_LRM"
val.3 = "API Functiontest LRM Description"
val.4 = ""
val.5 = ""
val.6 = ""
val.7 = "DB2"

rc = 4
i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #19 failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

rc = CB390CFG("-action 'createlrm' -xmlinput 'inputcreatelrm.xml'
             -input 'tempin' -output 'FCT19'")

if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #19 failed"
  exit
end
exit

```



```
error:
say "Error in FCT Test #19" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit
```

出力ファイルは、以下のようになります。

```
administratorname.1 CBADMIN
coclasscreatefunction.1 DB2RRSAF390ResourceMgr_IResourceMgrAdminObject_Impl_Create
coclassname.1 DB2RRSAF390ResourceMgr::IResourceMgrAdminObject
codllname.1 BBOIDRMI
conversationname.1 API Functiontest
lrmdescription.1 API Functiontest LRM Description
lrmlname.1 API_Functiontest_LRM
lrmsubsystemtype.1 DB2
sysplexname.1 PLEX1
status 0
message.1 OK
count 1
```

アクション “deletelrm”

このアクションは、名前付き LRM を削除します。ただし、これは、論理的な削除となります。この変更が関連付けられている会話がコミットされるまで、削除は行なわれません。

構文

```
rc = CB390CFG—" -action—'deletelrm' —————→
-xmlinput—'defaultxmlfilename' —————→
      | -input—'inputfilename' —————→
- output—'outputfilename' —")—————→
```

構文の詳細

rc すべてのが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。deletelrm のデフォルト xml ファイル "inputdeletelrm.xml" は、231ページの『inputdeletelrm.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリに入っています。このディレクトリが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 "inputdeletelrm.xml" を入力

するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに

`"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputdeletelrm.xml"` を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、`DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` にそのディレクトリーを設定する必要があります。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイル指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、`XMLGEN` (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについては、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める必要があります。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、`"/tmp"` ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、この LRM アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、`XMLGEN` (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、231ページの『`inputdeletelrm.xml`』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
<code>conversationname</code>	会話の名前	x
<code>lrmname</code>	lrm の名前	x

例 スクリプトの例を以下に示します。

```
/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

name.= 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "lrmname"
```

```

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "API_Functiontest_LRM"

rc = 4
i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #21 failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

rc = CB390CFG("-action 'deletelrm' -xmlinput 'inputdeletelrm.xml'
             -input 'tempin' -output 'FCT21'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #21 failed"
  exit
end
exit

error:
say "Error in FCT Test #21" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

出力ファイルは、以下のようになります。

```

/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error
name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "lrmname"
val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "API_Functiontest_LRM"
rc = 4
i = 1
do while(name.i <> '0')

rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
if (rc == 4) then do
say "FCT Test #21 failed while XMLGEN"
exit
end
i = i+1
end;
rc = CB390CFG("-action 'deletelrm' -xmlinput 'inputdeletelrm.xml'
             -input 'tempin' -output 'FCT21'")
if (rc == 4) then do

```

```

say "FCT Test #21 failed"
exit
end
exit
error:
say "Error in FCT Test #21" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

アクション “changelrm”

このアクションは、名前付き LRM の属性を変更します。

構文

```

rc = CB390CFG("-action 'changelrm'
              -xmlinput 'defaultxmlfilename'
              [-input 'inputfilename']
              -output 'outputfilename'")

```

The diagram illustrates the expansion of the command string. It shows the original command with arrows pointing to each option: `-action`, `'defaultxmlfilename'`, `[-input 'inputfilename']`, and `-output 'outputfilename'`.

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。changelrm のデフォルト xml ファイル "inputchangelrm.xml" は、231ページの『inputchangelrm.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。

このディレクトリーが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 "inputchangelrm.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに

"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputchangelrm.xml" を設定

することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設定する必要があります。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイルを指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについては、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める必要があります。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、この LRM アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、231ページの『inputchangelrm.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
lrmname	lrm の名前	x
lrmdescription	lrm の説明	x
coclassname		
codllname		
coclasscreatefunction		
lrmsubsystemtype		

例 スクリプトの例を以下に示します。

```
/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

name. = 0
```

```

name.1 = "conversationname"
name.2 = "lrmname"
name.3 = "lrmdescription"
name.4 = "coclassname"
name.5 = "codllname"
name.6 = "coclasscreatefunction"
name.7 = "lrmsubsystemtype"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "API_Functiontest_LRM"
val.3 = "API Functiontest_LRM Description modified"
val.4 = ""
val.5 = ""
val.6 = ""
val.7 = "IMS_OTMA_PAA"

rc = 4
i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #20 failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

rc = CB390CFG("-action 'changelrm' -xmlinput 'inputchangelrm.xml'
              -input 'tempin' -output 'FCT20'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #20 failed"
  exit
end
exit

error:
say "Error in FCT Test #20" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

出力ファイルは、以下ようになります。

```

administratorname.1 CBADMIN
coclasscreatefunction.1 DB2RRSAF390ResourceMgr_IResourceMgrAdminObject_Impl_Create
coclassname.1 DB2RRSAF390ResourceMgr::IResourceMgrAdminObject
codllname.1 BBOIDRMI
conversationname.1 API Functiontest
lrmdescription.1 API Functiontest LRM Description modified
lrmname.1 API_Functiontest_LRM
lrmsubsystemtype.1 DB2
sysplexname.1 PLEX1
status 0
message.1 OK
count 1

```

アクション “listlrm”

このアクションは、名前付き LRM の一覧を表示します。LRM の名前に "*" を設定すると、すべての LRM が一覧表示されます。

構文

```

▶—rc = CB390CFG—(“— -action—'listlrm' —————▶
▶ -xmlinput—'defaultxmlfilename' —————▶
   |                                     |
   |— -input—'inputfilename' —————▶
▶ -output—'outputfilename' —”)—————▶

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。listlrm のデフォルト xml ファイル "inputlistlrm.xml" は、232ページの『inputlistlrm.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。このディレクトリーが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 "inputlistlrm.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに "/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputlistlrm.xml" を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設定する必要があります。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイルを指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについて

は、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める必要があります。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、この LRM アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、232ページの『inputlistlrm.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
lrmname	lrm の名前。 "*" を設定すると、会話内のすべての LRM が一覧表示されます。	x

例 スクリプトの例を以下に示します。

```

/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "lrmname"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "API_Functiontest_LRM"

rc = 4
i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #22 failed while XMLGEN"
  exit
  end
  i = i+1
end;

rc = CB390CFG("-action 'listlrm' -xmlinput 'inputlistlrm.xml'")

```



```

        -input 'tempin' -output 'FCT22'")
if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #22 failed"
    exit
end
exit

error:
say "Error in FCT Test #22" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

出力ファイルは、以下のようになります。

```

administratorname.1 CBADMIN
coclasscreatefunction.1 DB2RRSAF390ResourceMgr_IResourceMgrAdminObject_Impl_Create
coclassname.1 DB2RRSAF390ResourceMgr::IResourceMgrAdminObject
codllname.1 BBOIDRMI
conversationname.1 API Functiontest
lrmdescription.1 API Functiontest LRM Description modified
lrmname.1 API_Functiontest_LRM
lrmsubsystemtype.1 DB2
sysplexname.1 PLEX1
status 0
message.1 OK
count 1

```

LRMI

以下の関数は、LRMI を変更するために提供されています。

構文

```

▶ rc = CB390CFG—" -action—'
    create—' lrm—'
    delete—'
    change—'
    list—'
▶ -xmlinput—'defaultxmlfilename'
    -input—'inputfilename'
▶ -output—'outputfilename' —")

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、戻りコード (rc) は「4」になります。

-action

createlrmi 新しい lrm を作成します。

deletelrmi lrm を削除します。

changelrmi *lrmi* を変更します。

listlrmi *lrmi* の一覧を表示します。

-xmlinput

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、実行するアクションの必須パラメーターをすべて指定する必要があります。このファイルは、文書型定義 (DTD) が指定された xml ファイルです。DTD では、文書構造の指定のみを行ないます。ユーザーは、各パラメーターのデフォルト値を指定することができます。これらのパラメーターは、REXX スクリプトで入力パラメーターを介してオーバーライドすることができます。デフォルト xml ファイルは、201ページの『第9章 デフォルト XML ファイル』にすべて記載されています。これらのファイル内のパラメーターには、SM Administration EUI のデフォルト値が設定されています。

デフォルト xml ファイルは、環境変数 `DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` で指定されたパスに含まれていなければなりません。もし、含まれていない場合は、このデフォルト xml ファイルのパスを指定する必要があります。

たとえば、`-xmlinput 'inputcreatelrmi.xml'` では、`DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` 内のデフォルト入力 xml ファイルが指定されますが、`-xmlinput './inputcreatelrmi.xml'` では、現在のディレクトリー内のファイルが指定されます。

デフォルト xml ファイルのデフォルト・パスを変更するには、環境変数 `DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` に別の既存のパスを設定します。この場合は、そのパスが存在するとともに、使用するデフォルト xml ファイルがそのディレクトリーに入っていることを確認してください。

-input

これは、CB390CFG API のオプション・パラメーターです。デフォルト xml ファイルのパラメーターをオーバーライドする名前値ペアが入った入力ファイルを指定します。REXX 変数を使用して xml ファイルを生成するには、XMLGEN と呼ばれるツールを使用します。XMLGEN ツールについては、185ページの『第5章 XMLGEN』で説明しています。

重要: パラメーターとデフォルト xml ファイルがマージされると、入力ファイルは削除されます。

-output

出力ファイルには、より詳細な情報が記録されます。各 LRMI ア

クシヨンの説明では、出力ファイルの例を用意しています。LRMI
アクションの一般的な出力形式は、以下のようになります。

```

administratorname.1 AdministratorName
conversationname.1 ConversationName
lrmidescription.1 LRMIDescription
lrmname.1 LRMIName
lrmname.1 LRMName
sysplexname.1 SysplexName
systemname.1 SystemName
status 0|4
message.1 OK|ErrorMessage
count NumberOfListedLRMI

```

アクション “createlrmi”

このアクションは、新しい LRMI を作成します。

構文

```

▶▶ rc = CB390CFG—(“— -action—'createlrmi' —————▶
▶ -xmlinput—'defaultxmlfilename' —————▶
    └── -input—'inputfilename' ───┘
▶ -output—'outputfilename' —”)————▶▶

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。createlrmi のデフォルト xml ファイル "inputcreatelrmi.xml" は、233ページの『inputcreatelrmi.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。

このディレクトリーが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 "inputcreatelrmi.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに "/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputcreatelrmi.xml" を設

定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設定する**必要があります**。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイル指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについては、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める**必要があります**。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、この LRMI アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、233ページの『inputcreatelrmi.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
lrmmname	lrm の名前	x
lrminame	lrmi の名前	x
lrmidescription	lrmi の説明	
systemname	システムの名前	x

パラメーター名	値	必須
connection	<p>接続データ。 デフォルト xml 内の接続データを指定するには、各接続データのタイプごとにエレメントを設定する必要があります。接続データを指定する場合は、属性を設定する必要があります。接続データを REXX スクリプトで指定する場合は、すべての接続データに対して 1 つだけ名前値ペアを指定する必要があります。以下の形式に従って、 "name" 値には接続を指定し、"value" 値には接続データを挿入します。 name='value' [name='value' ...]。パラメーターの name には接続データの名前を指定し、value にはその値を指定します。</p>	

例 スクリプトの例を以下に示します。

```

/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "lrmname"
name.3 = "lrmname"
name.4 = "lrmidescription"
name.5 = "systemname"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "API Functiontest_LRM"
val.3 = "API Functiontest_LRMI"
val.4 = "API Functiontest LRMI Description"
val.5 = "SY1"

rc = 4
i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #23 failed while XMLGEN"
  exit
  end
  i = i+1
end;

rc = CB390CFG("-action 'createlrmi' -xmlinput 'inputcreatelrmi.xml'
-input 'tempin' -output 'FCT23'")

```

```

if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #23 failed"
  exit
end
exit

error:
say "Error in FCT Test #23" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

出力ファイルは、以下のようになります。

```

administratorname.1 CBADMIN
conversationname.1 API Functiontest
lrmidescription.1 API Functiontest LRMI Description
lrmname.1 API_Functiontest_LRMI
lrmname.1 API_Functiontest_LRM
sysplexname.1 PLEX1
systemname.1 SY1
connection.1 ID1 = 'test1' ID2 = 'test2'
status 0
message.1 OK
count 1

```

アクション “deletelrmi”

このアクションは、名前付き LRMI を削除します。ただし、これは、論理的な削除となります。この変更が関連付けられている会話がコミットされるまで、削除は行なわれません。

構文

```

▶—rc = CB390CFG—(“— -action—'deletelrmi' —————▶

▶— -xmlinput—'defaultxmlfilename' —————▶
└— -input—'inputfilename' —————▶

▶— -output—'outputfilename' —”)—————▶

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。

まず、省略できるのは、オプションの属性だけです。deletelrmi のデフォルト xml ファイル "inputdeletelrmi.xml" は、234ページの『inputdeletelrmi.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。

このディレクトリーが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 "inputdeletelrmi.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに "/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputdeletelrmi.xml" を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設定する必要があります。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイルを指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについては、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める必要があります。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、この LRMI アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、234ページの『inputdeletelrmi.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
lrname	lrm の名前	x
lrminame	lrmi の名前	x

例 スクリプトの例を以下に示します。

```

/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "lrmname"
name.3 = "lrmname"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "API_Functiontest_LRM"
val.3 = "API_Functiontest_LRMI"

rc = 4
i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #25 failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

rc = CB390CFG("-action 'deletelrmi' -xmlinput 'inputdeletelrmi.xml'
             -input 'tempin' -output 'FCT25'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #25 failed"
  exit
end
exit

error:
say "Error in FCT Test #25" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

出力ファイルは、以下のようになります。

```

administratorname.1 CBADMIN
conversationname.1 API Functiontest
lrmidescription.1 API Functiontest LRMI Description modified
lrmname.1 API_Functiontest_LRMI
lrmname.1 API_Functiontest_LRM
sysplexname.1 PLEX1
systemname.1 SY1
connection.1 ID2 = 'changedtest2' ID1 = 'changedtest1'
status 0
message.1 OK
count 1

```


アクション “changelrmi”

このアクションは、名前付き LRMI の属性を変更します。

構文

```

▶ -rc = CB390CFG—(“— -action—'changelrmi' —————→

▶ -xmlinput—'defaultxmlfilename' —————→
    |                                     |
    | -input—'inputfilename' —————→ |
    |                                     |
▶ -output—'outputfilename' —”)—————→▶

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。changelrmi のデフォルト xml ファイル "inputchangelrmi.xml" は、234ページの『inputchangelrmi.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。

このディレクトリーが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 "inputchangelrmi.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに

"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputchangelrmi.xml" を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設定する必要があります。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイルを指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについて

は、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める必要があります。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、この LRMI アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、234ページの『inputchangelrmi.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
lrmlname	lrml の名前	x
lrmliname	lrmi の名前	x
lrmlidescription	lrmi の説明	
systemname	システムの名前	x
connection	<p>接続データ。 デフォルト xml 内の接続データを指定するには、各接続データのタイプごとにエレメントを設定する必要があります。接続データを指定する場合は、属性を設定する必要があります。接続データを REXX スクリプトで指定する場合は、すべての接続データに対して 1 つだけ名前値ペアを指定する必要があります。以下の形式に従って、 "name" 値には接続を指定し、"value" 値には接続データを挿入します。 name='value' [name='value' ...]。パラメーターの name には接続データの名前を指定し、value にはその値を指定します。</p>	

例 スクリプトの例を以下に示します。

```
/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

name. = 0
```

```

name.1 = "conversationname"
name.2 = "lrmname"
name.3 = "lrminame"
name.4 = "lrmidescription"
name.5 = "systemname"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "API_Functiontest_LRM"
val.3 = "API_Functiontest_LRMI"
val.4 = "API Functiontest LRMI Description modified"
val.5 = "SY1"

rc = 4
i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #24 failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

rc = CB390CFG("-action 'changelrmi' -xmlinput 'inputchangelrmi.xml'
             -input 'tempin' -output 'FCT24'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #24 failed"
  exit
end
exit

error:
say "Error in FCT Test #24" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

出力ファイルは、以下のようになります。

```

administratorname.1 CBADMIN
conversationname.1 API Functiontest
lrmidescription.1 API Functiontest LRMI Description modified
lrminame.1 API_Functiontest_LRMI
lrmname.1 API_Functiontest_LRM
sysplexname.1 PLEX1
systemname.1 SY1
connection.1 ID1 = 'changedtest1' ID2 = 'changedtest2'
status 0
message.1 OK
count 1

```

アクション “listlrmi”

このアクションは、名前付き LRMI の一覧を表示します。LRMI の名前に "*" を設定すると、すべての LRMI が一覧表示されます。

構文

```
rc = CB390CFG—" -action—'listlrmi' —"
-xmlinput—'defaultxmlfilename' —"
  |
  | -input—'inputfilename' —"
  |
- output—'outputfilename' —")
```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。listlrmi のデフォルト xml ファイル "inputlistlrmi.xml" は、235ページの『inputlistlrmi.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。このディレクトリーが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名 "inputlistlrmi.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに "/usr/lpp/WebSphere/samples/smapi/inputlistlrmi.xml" を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設定する必要があります。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイルを指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについて

は、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める必要があります。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリ内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、この LRMI アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、235ページの『inputlistlrmi.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
lrmlname	lrml の名前	x
lrminame	lrmi の名前。 "*" を設定すると、LRM に関連付けられているすべての LRMI が一覧表示されます。	

例 スクリプトの例を以下に示します。

```

/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "lrmlname"
name.3 = "lrminame"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "API_Functiontest_LRM"
val.3 = "API_Functiontest_LRMI"

rc = 4
i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #26 failed while XMLGEN"
  exit
  end
  i = i+1
end;

```

```
rc = CB390CFG("-action 'listlrmi' -xmlinput 'inputlistlrmi.xml'
             -input 'tempin' -output 'FCT26'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #26 failed"
  exit
end
exit

error:
say "Error in FCT Test #26" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit
```

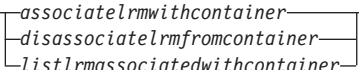

出力ファイルは、以下のようになります。

```
administratorname.1 CBADMIN
conversationname.1 API Functiontest
lrmidescription.1 API Functiontest LRMI Description modified
lrmname.1 API_Functiontest_LRMI
lrmname.1 API_Functiontest_LRMI
sysplexname.1 PLEX1
systemname.1 SY1
connection.1 ID2 = 'changedtest2' ID1 = 'changedtest1'
status 0
message.1 OK
count 1
```

コンテナ /LRM 関連

以下の関数は、LRM およびコンテナ間の関連を変更するために提供されています。

構文

```
► rc = CB390CFG(" -action—'  ' —►
► -xmlinput—'defaultxmlfilename'  —►
► -output—'outputfilename' —")—►
```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、戻りコード (rc) は「4」になります。

-action*associatelrminwithcontainer**disassociatelrminfromcontainer**listlrminassociatedwithcontainer***-xmlinput**

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、実行するアクションの必須パラメーターをすべて指定する必要があります。このファイルは、文書型定義 (DTD) が指定された xml ファイルです。DTD では、文書構造の指定のみを行いません。ユーザーは、各パラメーターのデフォルト値を指定することができます。これらのパラメーターは、REXX スクリプトで入力パラメーターを介してオーバーライドすることができます。デフォルト xml ファイルは、201ページの『第9章 デフォルト XML ファイル』にすべて記載されています。これらのファイル内のパラメーターには、SM Administration EUI のデフォルト値が設定されています。

デフォルト xml ファイルは、環境変数 `DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` で指定されたパスに含まれていなければなりません。もし、含まれていない場合は、このデフォルト xml ファイルのパスを指定する必要があります。

たとえば、`-xmlinput 'inputassociatelrminwithcontainer.xml'` では、`DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` 内のデフォルト入力 xml ファイルが指定されますが、

`-xmlinput './inputassociatelrminwithcontainer.xml'` では、現在のディレクトリー内のファイルが指定されます。

デフォルト xml ファイルのデフォルト・パスを変更するには、環境変数 `DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` に別の既存のパスを設定します。この場合は、そのパスが存在するとともに、使用するデフォルト xml ファイルがそのディレクトリーに入っていることを確認してください。

-input

これは、CB390CFG API のオプション・パラメーターです。デフォルト xml ファイルのパラメーターをオーバーライドする名前値ペアが入った入力ファイルを指定します。REXX 変数を使用して xml ファイルを生成するには、XMLGEN と呼ばれるツールを使用します。XMLGEN ツールについては、185ページの『第5章 XMLGEN』で説明しています。

重要: パラメーターとデフォルト xml ファイルがマージされると、入力ファイルは削除されます。

-output

出力ファイルには、より詳細な情報が記録されます。各関連アクションの説明では、出力ファイルの例を用意しています。関連アクションの一般的な出力形式は、以下のようになります。

```

administratorname.1 AdministratorName
containername.1 ContainerName
conversationname.1 ConversationName
lrmname.1 LRMName
servername.1 ServerName
sysplexname.1 SysplexName
status 0|4
message.1 OK|ErrorMessage
count NumberOfListedAssociations

```

アクション “associatelrmwithcontainer”

このアクションは、名前付き LRM と名前付きコンテナーとの関連付けを行います。

構文

```

▶▶ rc = CB390CFG (“ — -action—'associatelrmwithcontainer' —————▶
▶ -xmlinput—'defaultxmlfilename' —————▶
| -input—'inputfilename' |
▶ -output—'outputfilename' —”)▶▶

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。associatelrmwithcontainer のデフォルト xml ファイル "inputassociatelrmwithcontainer.xml" は、236ページの

『inputassociatelmwithcontainer.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/CB390/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。

このディレクトリーが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名

"inputassociatelmwithcontainer.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに "/usr/lpp/CB390/samples/smapi/inputassociatelmwithcontainer.xml" を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設定する**必要があります**。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイルを指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについては、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める**必要があります**。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、この関連アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、236ページの『inputassociatelmwithcontainer.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
servername	サーバーの名前	x
lrmname	lrm の名前	x

パラメーター名	値	必須
containername	コンテナの名前	x

例 スクリプトの例を以下に示します。

```

/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "servername"
name.3 = "lrmname"
name.4 = "containername"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "APIFCT"
val.3 = "API_Functiontest_LRM"
val.4 = "API_Functiontest_Container"

rc = 4
i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #30 failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

rc = CB390CFG("-action 'associatelrmwithcontainer'
             -xmlinput 'inputassociatelrmwithcontainer.xml'
             -input 'tempin' -output 'FCT30'")

if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #30 failed"
  exit
end
exit

error:
say "Error in FCT Test #30" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

出力ファイルは、以下のようになります。

```

administratorname.1 CBADMIN
containername.1 API_Functiontest_Container
conversationname.1 API Functiontest
lrmname.1 API_Functiontest_LRM
servername.1 APIFCT

```

```

sysplexname.1 PLEX1
status 0
message.1 OK
count 1

```

アクション “disassociatelrmfromcontainer”

このアクションは、名前付き LRM と名前付きコンテナーとの関連付けを解除します。

構文

```

▶—rc = CB390CFG—(“ — -action—'disassociatelrmfromcontainer' —————▶
▶ -xmlinput—'defaultxmlfilename' —————▶
|                                     |
| —input—'inputfilename' —————▶
▶ -output—'outputfilename' —”)————▶

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。

disassociatelrmfromcontainer のデフォルト xml ファイル

"inputdisassociatelrmfromcontainer.xml" は、237ページの

『inputdisassociatelrmfromcontainer.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/CB390/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。

このディレクトリーが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名

"inputdisassociatelrmfromcontainer.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに "/usr/lpp/CB390/samples/smapi/"

inputdisassociatelrmfromcontainer.xml" を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合

は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設定する**必要があります**。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイル指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについては、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める**必要があります**。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、この関連アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、237ページの『inputdisassociateIrmfromcontainer.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
servername	サーバーの名前	x
lrnname	lrn の名前	x
containername	コンテナの名前	x

例 スクリプトの例を以下に示します。

```
/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "servername"
name.3 = "lrnname"
name.4 = "containername"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
```

```

val.2 = "APIFCT"
val.3 = "API_Functiontest_LRM"
val.4 = "API_Functiontest_Container"

rc = 4
i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #31 failed while XMLGEN"
  exit
  end
  i = i+1
end;

rc = CB390CFG("-action 'disassociatelmfromcontainer'
              -xmlinput 'inputdisassociatelmfromcontainer.xml'
              -input 'tempin' -output 'FCT31'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #31 failed"
  exit
end
exit

error:
say "Error in FCT Test #31" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

出力ファイルは、以下のようになります。

```

administratorname.1 CBADMIN
containername.1 API_Functiontest_Container
conversationname.1 API Functiontest
lrmname.1 API_Functiontest_LRM
servername.1 APIFCT
sysplexname.1 PLEX1
status 0
message.1 OK
count 1

```

アクション “listlrmassociatedwithcontainer”

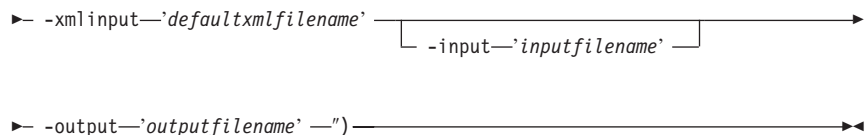
このアクションは、名前付きコンテナーに関連付けられている名前付き LRM の一覧を表示します。LRM の名前に "*" を設定すると、コンテナーに関連付けられているすべての LRM が一覧表示されます。

構文

```

▶▶rc = CB390CFG(“ -action—'listlrmassociatedwithcontainer' —————▶▶

```



構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。

listlrmassociatedwithcontainer のデフォルト xml ファイル

"inputlistlrmassociatedwithcontainer.xml" は、238ページの

『inputlistlrmassociatedwithcontainer.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/CB390/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。

このディレクトリーが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名

"inputlistlrmassociatedwithcontainer.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに "/usr/lpp/CB390/samples/smapi/"

inputlistlrmassociatedwithcontainer.xml" を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設定する**必要があります**。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイルを指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについては、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める**必要があります**。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、この関連アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、238ページの『inputlistlrmassociatedwithcontainer.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
servername	サーバーの名前	x
lrmname	lrm の名前。 "*" を設定すると、指定されたコンテナに関連付けられているすべての LRM が一覧表示されます。	x
containername	コンテナの名前	x

例 スクリプトの例を以下に示します。

```

/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "servername"
name.3 = "lrmname"
name.4 = "containername"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "APIFCT"
val.3 = "API_Functiontest_LRM"
val.4 = "API_Functiontest_Container"

rc = 4
i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #32 failed while XMLGEN"
  end
end

```

```

        exit
      end
      i = i+1
    end;

    rc = CB390CFG("-action 'listlrmassociatedwithcontainer'
                 -xmlinput 'inputlistlrmassociatedwithcontainer.xml'
                 -input 'tempin' -output 'FCT32'")
    if (rc == 4) then do
      say "FCT Test #32 failed"
      exit
    end
    exit

error:
say "Error in FCT Test #32" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

出力ファイルは、以下のようになります。

```

administratorname.1 CBADMIN
containername.1 API_Functiontest_Container
conversationname.1 API_Functiontest
lrmname.1 API_Functiontest_LRM
servername.1 APIFCT
sysplexname.1 PLEX1
status 0
message.1 OK
count 1

```

アプリケーション・ファミリー

構文

```

▶ rc = CB390CFG(" -action- 'import- Applicationfamily-'
                -remove-
                -list-
                -input- 'inputfilename'
                -output- 'outputfilename' ")

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、戻りコード (rc) は「4」になります。

-action

<i>importApplicationfamily</i>	アプリケーション・ファミリーをサーバーに対して構成します。
<i>removeApplicationfamily</i>	アプリケーション・ファミリーを削除します。
<i>listApplicationfamily</i>	サーバーに対して構成されているアプリケーション・ファミリーの一覧を表示します。

-xmlinput

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、実行するアクションの必須パラメーターをすべて指定する必要があります。このファイルは、文書型定義 (DTD) が指定された xml ファイルです。DTD では、文書構造の指定のみを行いません。ユーザーは、各パラメーターのデフォルト値を指定することができます。これらのパラメーターは、REXX スクリプトで入力パラメーターを介してオーバーライドすることができます。デフォルト xml ファイルは、201ページの『第9章 デフォルト XML ファイル』にすべて記載されています。これらのファイル内のパラメーターには、SM Administration EUI のデフォルト値が設定されています。

デフォルト xml ファイルは、環境変数 `DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` で指定されたパスに含まれていなければなりません。もし、含まれていない場合は、このデフォルト xml ファイルのパスを指定する必要があります。

たとえば、`-xmlinput 'inputimportApplicationfamily.xml'` では、`DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` 内のデフォルト入力 xml ファイルが指定されますが、

`-xmlinput './inputimportApplicationfamily.xml'` では、現在のディレクトリー内のファイルが指定されます。

デフォルト xml ファイルのデフォルト・パスを変更するには、環境変数 `DEFAULT_CLIENT_XML_PATH` に別の既存のパスを設定します。この場合は、そのパスが存在するとともに、使用するデフォルト xml ファイルがそのディレクトリーに入っていることを確認してください。

-input

これは、CB390CFG API のオプション・パラメーターです。デフォルト xml ファイルのパラメーターをオーバーライドする名前値ペアが入った入力ファイルを指定します。REXX 変数を使用して

xml ファイルを生成するには、XMLGEN と呼ばれるツールを使用します。XMLGEN ツールについては、185ページの『第5章 XMLGEN』で説明しています。

重要: パラメーターとデフォルト xml ファイルがマージされると、入力ファイルは削除されます。

-output

出力ファイルには、より詳細な情報が記録されます。各アプリケーション・ファミリー・アクションの説明では、出力ファイルの例を用意しています。アプリケーション・ファミリー・アクションの一般的な出力形式は、以下のようになります。

```

administratorname.1 AdministratorName
applicationfamilydescription.1 ApplicationFamilyDescription
applicationfamilyname.1 ApplicationFamilyName
conversationname.1 ConversationName
servername.1 ServerName
sysplexname.1 SysplexName
status 0|4
message.1 OK|ErrorMessage
count NumberOfListedApplicationFamilies

```

アクション “importApplicationfamily”

このアクションは、名前付きアプリケーション・ファミリーをインポートします。

構文

```

rc = CB390CFG—" -action-'importApplicationfamily' —————>
-xmlinput-'defaultxmlfilename' —————>
      |
      | -input-'inputfilename'
      |
- output-'outputfilename' —————>

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。

importApplicationfamily のデフォルト xml ファイル
 "inputimportApplicationfamily.xml" は、238ページの
 『inputimportapplicationfamily.xml』に記載されています。このファ
 イルは、"/usr/lpp/CB390/samples/smapi" ディレクトリーに入ってい
 ます。

このディレクトリーが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定
 されている場合は、ファイル名
 "inputimportApplicationfamily.xml" を入力するだけで構いません。
 ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーター
 に "/usr/lpp/CB390/samples/smapi/
 inputimportApplicationfamily.xml" を設定することにより、デフ
 オルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分
 でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファ
 イルのディレクトリーを完全に指定するか、または、
 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設定する**必要が
 あります**。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれる
 ファイルを指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト
 xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章
 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについて
 は、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合
 は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて
 含める**必要があります**。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力フ
 ァイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、このアプリケーション・ファミリー・アクション用とし
 て認められている属性がすべて含まれています。必須属性は、デフ
 オルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN
 (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができま
 す。デフォルト xml ファイルは、238ページの

『inputimportapplicationfamily.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
servername	サーバーの名前	x

パラメーター名	値	必須
applicationfamilyname	アプリケーション・ファミリーの名前	x
ddlfilename	dll ファイル・データ・セットの名前	x
outputfilename	出力データ・セットの名前	x

例 スクリプトの例を以下に示します。

```

/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "servername"
name.3 = "applicationfamilyname"
name.4 = "ddlfilename"
name.5 = "outputfilename"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "APIFCT"
val.3 = "API_Functiontest_Application"
val.4 = "BOSSMN3.DDL(DEMO)"
val.5 = "BOSSMN3.GUIOUT.ERRLOG"

rc = 4
i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #27 failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

rc = CB390CFG("-action 'importApplicationfamily'
              -xmlinput 'inputimportApplicationfamily.xml'
              -input 'tempin' -output 'FCT27'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #27 failed"
  exit
end
exit

error:
say "Error in FCT Test #27" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

出力ファイルは、以下のようになります。

```
administratorname.1 CBADMIN
applicationfamilydescription.1
applicationfamilyname.1 Scripting
conversationname.1 API Functiontest
servername.1 APIFCT
sysplexname.1 PLEX1
status 0
message.1 OK
count 1
```

アクション “removeApplicationfamily”

このアクションは、名前付きアプリケーション・ファミリーを削除します。ただし、これは、論理的な削除となります。この変更が関連付けられている会話がコミットされるまで、削除は行なわれません。

構文

```
rc = CB390CFG—(“— -action—’removeApplicationfamily’ —————→
— -xmlinput—’defaultxmlfilename’ —————→
└ -input—’inputfilename’ ───┘
— -output—’outputfilename’ —”)————→
```

構文の詳細

rc すべてのが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。

removeApplicationfamily のデフォルト xml ファイル "inputremoveApplicationfamily.xml" は、239ページの

『inputremoveapplicationfamily.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/CB390/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。

このディレクトリーが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名

"inputremoveApplicationfamily.xml" を入力するだけで構いません

ん。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに "/usr/lpp/CB390/samples/smapi/inputremoveApplicationfamily.xml" を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設定する**必要があります**。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイル指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについては、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める**必要があります**。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリー内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、このアプリケーション・ファミリー・アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、239ページの『inputremoveapplicationfamily.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
servername	サーバーの名前	
applicationfamilyname	アプリケーション・ファミリーの名前	

例 スクリプトの例を以下に示します。

```
/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

name. = 0
name.1 = "conversationname"
```

```

name.2 = "servername"
name.3 = "applicationfamilyname"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "APIFCT"
val.3 = "API_Functiontest_Application"

rc = 4
i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #29 failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

rc = CB390CFG("-action 'removeApplicationfamily'
             -xmlinput 'inputremoveApplicationfamily.xml'
             -input 'tempin' -output 'FCT29'")
if (rc == 4) then do
  say "FCT Test #29 failed"
  exit
end
exit

error:
say "Error in FCT Test #29" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

出力ファイルは、以下のようになります。

```

administratorname.1 CBADMIN
applicationfamilydescription.1
applicationfamilyname.1 Scripting
conversationname.1 API Functiontest
servername.1 APIFCT
sysplexname.1 PLEX1
status 0
message.1 OK
count 1

```

アクション “listApplicationfamily”

このアクションは、名前付きアプリケーション・ファミリーの一覧を表示します。ファミリー・アプリケーションの名前に "*" を設定すると、すべてのアプリケーション・ファミリーが一覧表示されます。

構文

```

▶—rc = CB390CFG—" — -action—'listApplicationfamily' —————▶
▶— -xmlinput—'defaultxmlfilename' —————▶
   |                                     |
   | —input—'inputfilename' —————▶
▶— -output—'outputfilename' —" —————▶

```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、rc は「4」になります。

defaultxmlfilename

これはデフォルト xml ファイルです。このファイルには、文書型定義 (DTD) およびすべての必須パラメーターを含める必要があります。省略できるのは、オプションの属性だけです。

listApplicationfamily のデフォルト xml ファイル

"inputlistApplicationfamily.xml" は、240ページの

『inputlistapplicationfamily.xml』に記載されています。このファイルは、"/usr/lpp/CB390/samples/smapi" ディレクトリーに入っています。

このディレクトリーが環境変数 DEFAULT_CLIENT_XML_PATH に指定されている場合は、ファイル名

"inputlistApplicationfamily.xml" を入力するだけで構いません。ディレクトリーが指定されていない場合は、このパラメーターに

"/usr/lpp/CB390/samples/smapi/inputlistApplicationfamily.xml" を設定することにより、デフォルト xml ファイルのロケーションを完全に指定します。ご自分でデフォルト指定した xml ファイルを使用する場合は、そのファイルのディレクトリーを完全に指定するか、または、DEFAULT_CLIENT_XML_PATH にそのディレクトリーを設定する必要があります。

inputfilename

このパラメーターはオプションです。名前値ペアのみが含まれるファイルを指定します。これらの新しく指定された値をデフォルト xml ファイルの値に設定するには、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) を使用します。これがどのように機能するかについて

は、以下の例を参照してください。このファイルが存在しない場合は、デフォルトの xml 入力ファイルに必須パラメーターをすべて含める必要があります。

outputfilename

このパラメーターには、出力ファイルの名前を指定します。出力ファイルは、"/tmp" ディレクトリ内に作成されます。

デフォルト xml ファイルの値

以下の表には、このアプリケーション・ファミリー・アクション用として認められている属性がすべて含まれています。必須属性は、デフォルト xml ファイル内に定義する必要があります。これは、XMLGEN (185ページの『第5章 XMLGEN』) スクリプトで定義することができます。デフォルト xml ファイルは、240ページの『inputlistapplicationfamily.xml』に記載されています。

パラメーター名	値	必須
conversationname	会話の名前	x
servername	サーバーの名前	x
applicationfamilyname	アプリケーション・ファミリーの名前。 "*" を設定すると、指定されたサーバー内のすべてのアプリケーション・ファミリーが一覧表示されます。	x

例 スクリプトの例を以下に示します。

```

/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "servername"
name.3 = "applicationfamilyname"

val. = 0
val.1 = "API Functiontest"
val.2 = "APIFCT"
val.3 = "API_Functiontest_Application"

rc = 4
i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)

```

```
    if (rc == 4) then do
        say "FCT Test #28 failed while XMLGEN"
        exit
    end
    i = i+1
end;

rc = CB390CFG("-action 'listApplicationfamily'
              -xmlinput 'inputlistApplicationfamily.xml'
              -input 'tempin' -output 'FCT28'")
if (rc == 4) then do
    say "FCT Test #28 failed"
    exit
end
exit

error:
say "Error in FCT Test #28" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit
```

出力ファイルは、以下のようになります。

```
administratorname.1 CBADMIN
applicationfamilydescription.1
applicationfamilyname.1 Scripting
conversationname.1 API Functiontest
servername.1 APIFCT
sysplexname.1 PLEX1
status 0
message.1 OK
count 1
```

第5章 XMLGEN

この REXX スクリプトは、CB390CFG スクリプトの入力ファイルを生成するために提供されています。デフォルト xml ファイルのデフォルト値をいくつか変更したい場合は、こうした関数を使用して、属性値を変更する必要があります。この関数は、ファイルをオープンして、それに値を書き込みます。これらの値と、デフォルト xml ファイルの値をマージする場合は、入力として

'tempinputfilename'

パラメーターを指定して、管理関数を呼び出します。

構文

```
►►—rc = XMLGEN—(—"tempinputfilename"—attributename—attributevalue—)——►◄
```

構文の詳細

rc 実行された操作からの戻りコード。操作が正常に完了した場合は 0、エラーが発生した場合は 4 が戻されます。

tempinputfilename

入力ファイルの名前を指定します。この入力ファイルは、一時的にだけ使用することができ、CB390CFG ツール (17ページの『第4章 CB390CFG』) の入力として使用することができます。このファイルは、/tmp ディレクトリーに作成されます。

attributename

変更する属性の名前を指定します。

attributevalue

設定する属性の値を指定します。

XMLGEN スクリプト・コード

この関数の機能を詳しく理解いただくため、XMLGEN のスクリプト・コードを記載します。

```
/* REXX ----- */
/* ===== */
/*
/* COPYRIGHT =
/* Licensed Material - Property of IBM
/*
/* 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000
/* All Rights Reserved. */
```

XMLGEN

```
/* U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or */
/* Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp.*/
/* Status = H28K510 */
/* */
/* FILENAME: XMLGEN */
/* */
/* */
/* FUNCTION: */
/* REXX script for generating the tempin input file for */
/* SM Scripting API */
/* */
/* ===== */
/* This script open the specified file "filename" and writed the */
/* "name" and the "val" into it. If an error occured the script */
/* returns "4". Otherwise "0" */

parse arg filename name val

path="/tmp/"||filename

ADDRESS SYSCALL

"open" path,
        0_rdwr+0_creat+0_append,
        777

if (retval == (-1)) then do
    say 'file not opened, error codes' errno errnojr ERRORTXT(errno)
    return 4
end

fd = retval
name = name || " "
val = val || esc_n
'write' fd 'name' length(name)
'write' fd 'val' length(val)

if (retval == (-1)) then do
    say 'record not written, error codes' errno errnojr 'close' fd
    return 4
end

return 0

exit
```

例 このスクリプトの例では、属性名 conversationname (値は Document Demo)、および属性名 conversationdescription (値は Document Demo Description) を \ tmp \ tempin ファイルに書き込み、管理ツールの createconversation スクリプトに続いて、呼び出しを行ないます。

```
/* REXX function */
call syscalls 'ON'
```

```

signal on error

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "conversationdescription"

val. = 0
val.1 = "Document Demo"
val.2 = "Document Demo Description"

rc=0
i=1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "Error in function: createconversation while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

rc = CB390CFG("-action 'createconversation' -xmlinput 'inputcreateconversation.xml'
              -input 'tempin' -output 'tempout'")
if (rc == 4) then
  say "Error in function: createconversation"
exit

error:
say "Error" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```


第6章 XMLPARSE

この REXX スクリプトは、結果を印刷するために提供されています。関数呼び出しからの結果パラメーターを参照したい場合は、出力ファイルを調べるか、または、この REXX スクリプトで結果を印刷します。この関数は、指定したファイルをオープンし、それを行単位で印刷します。ファイルの形式は、1 行に 1 つ *attributename* 値を書くようにします。cb390cfg 関数および cb390cmd 関数の出力ファイルは、すでにこの形式となっています。XMLPARSE スクリプトがどのように機能するかについては、以下の例を参照してください。

構文

```
►—rc = XMLPARSE—(—"filename" —"target" —)—————►
```

構文の詳細

rc すべてが正常に完了した場合、戻りコード (rc) は「0」になります。アクションの処理中にエラーが発生した場合、戻りコード (rc) は「4」になります。

filename

これは、パーサーがターゲットを見付けるファイルの名前です。このファイルが有効でない場合、または、ターゲットが見付からない場合は、関数により "4" が戻されます。

target

これは、ターゲットについての記述です。したがって、以下の 3 つの値を指定することができます。

- V** 値のみを印刷します。
- N** 属性名のみを印刷します。
- ALL** 属性名と値の両方を印刷します。

XMLPARSE スクリプト・コード

この関数の機能を詳しく理解していただくため、REXX スクリプト・コード XMLPARSE を記載します。

```
/* REXX ----- */
/* ===== */
/* */
/* COPYRIGHT = */
```

XMLPARSE

```
/* Licensed Material - Property of IBM */
/* */
/* 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000 */
/* All Rights Reserved. */
/* U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or */
/* Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp.*/
/* Status = H28K510 */
/* */
/* FILENAME: XMLPARSE */
/* */
/* */
/* FUNCTION: */
/* REXX script to list values on the screen */
/* ===== */
/* This script opens the specified file "filename" for reading */
/* and displays for all lines in the file the specified information.*/
/* The type of the information can be set by the "nameorvalue" */
/* parameter. "N" displays the names only. "V" displays the values */
/* only. "ALL" displays both (name and value). */

parse arg filename nameorvalue

filename = "/tmp/"||filename

ADDRESS SYSCALL

readfile filename info.
ADDRESS

do i=1 to info.0
  parse var info.i var_name var_value
  if nameorvalue = "V" then
    say var_value
  if nameorvalue = "N" then
    say var_name
  if nameorvalue = "ALL" then
    say var_name " = " var_value
end

return 0
exit
```

例 このスクリプトの例では、入力ファイル (185ページの『第5章 XMLGEN』) にパラメーターを書き込み、指定したファイル (-input tempin および -output tempout) を設定して関数 createconversation を呼び出し、さらに tempout ファイルの構文解析を行なって、すべての属性を印刷します。

```
/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "conversationdescription"
```



```
val. = 0
val.1 = "Document Demo"
val.2 = "Document Demo Description"

rc = 4
i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "Error in function: createconversation while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

rc = CB390CFG("-action 'createconversation' -xmlinput 'inputcreateconversation.xml'
             -input 'tempin' -output 'tempout'")
if (rc == 4) then do
  say "Error in function: createconversation"
  exit
end

error:
say "Error" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit
```

XMLPARSE

第7章 XMLFIND

この REXX スクリプトは、ファイル内の特定の属性を見付けるために提供されています。ファイルの形式は、1 行に 1 つ `attributename` 値を書くようにします。この関数は `XMLEXTRACT` スクリプト (197ページの『第8章 `XMLEXTRACT`』) と似ていますが、`XMLFIND` スクリプトは、既知の属性の値のみを戻します。

構文

```
►—rc = XMLFIND—(—"filename"—"attributename"—)◄
```

構文の詳細

data

これは、指定された属性の値です。

filename

これは、指定された属性を見付けるために、スクリプトが調べるファイルの名前です。

attributename

これは、指定されたファイル内でスクリプトが検索する属性の名前です。

XMLFIND スクリプト・コード

この関数の機能を詳しく理解していただくため、REXX スクリプト・コード `XMLFIND` を記載します。

```
/* REXX ----- */
/* ===== */
/*
/* COPYRIGHT =
/* Licensed Material - Property of IBM
/*
/* 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000
/* All Rights Reserved.
/* U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or
/* Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp.*
/* Status = H28K510
/*
/* FILENAME: XMLFIND
/*
/*
```

XMLFIND

```
/* FUNCTION: */
/* REXX script for getting the value of the specified attribute */
/* */
/* ===== */
/* This script opens the specified file "filename" for reading */
/* and searches for the specified "namevalue" in the file. */
/* If the attribute is found the value is returned. Otherwise */
/* "4" is returned */

parse arg filename namevalue

ADDRESS SYSCALL

readfile "/tmp/"||filename info.
ADDRESS
do i=0 to info.0
  parse var info.i var_name var_value
  if var_name = namevalue then
    return var_value
end

return 4
EXIT
```

例 このスクリプトの例では、まず入力ファイル (185ページの『第5章 XMLGEN』) にパラメーターを書き込み、指定したファイル (-input tempin および -output tempout) を設定して関数 createconversation を呼び出します。次に、属性 conversationname について tempout ファイルの構文解析を行ない、この属性とその値を使用して、新しい入力ファイル生成します。この新しい入力ファイルは、関数 commitconversation を実行するために使用されます。

```
/* REXX ----- */
/* ===== */
/* */
/* COPYRIGHT = */
/* Licensed Material - Property of IBM */
/* */
/* 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000 */
/* All Rights Reserved. */
/* U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or */
/* Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp.*/
/* Status = H28K510 */
/* */
/* FILENAME: XMLFIND */
/* */
/* */
/* FUNCTION: */
/* REXX script for getting the value of the specified attribute */
/* */
/* ===== */
/* This script opens the specified file "filename" for reading */
/* and searches for the specified "namevalue" in the file. */
```

```
/* If the attribute is found the value is returned. Otherwise */
/* "4" is returned */

parse arg filename namevalue

ADDRESS SYSCALL

readfile "/tmp/"||filename info.
ADDRESS
do i=0 to info.0
  parse var info.i var_name var_value
  if var_name = namevalue then
    return var_value
end

return 4
EXIT
```

XMLFIND

第8章 XMLEXTRACT

この REXX スクリプトは、指定したファイル内の特定の行から、属性名または値を取り出します。このスクリプトを使用すると、他の REXX スクリプトの出力ファイルを行単位で読み取ることができます。この関数は XMLFIND スクリプト (193ページの『第7章 XMLFIND』) と似ていますが、XMLEXTRACT スクリプトは、REXX の不明の属性を調べたり、入力ファイルから値を読み取ることができます。

構文

```
►—rc = XMLEXTRACT—(—"inputfilename"—"line target"—)◄
```

構文の詳細

data

スクリプトから戻されるデータを指定します。属性名または値を指定することができます。

inputfilename

入力ファイルの名前を指定します。ファイルの形式は、1 行に 1 つ name 値を書くようにします。

line

スクリプトがデータを取り込む行を指定します。

target

スクリプトが名前または値のどちらを取り出すのかを指定します。指定できる値は以下のとおりです。

N 指定された行で見付かった属性名が取り出されます。

V 指定された行で見付かった属性値が取り出されます。

XMLGEN スクリプト・コード

この関数の機能を詳しく理解していただくため、XMLEXTRACT のスクリプト・コードを記載します。

```
/* REXX ----- */
/* ===== */
/*
/* COPYRIGHT =
/* Licensed Material - Property of IBM
/*
/*
/* 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000
/*
```

XMLEXTRACT

```
/* All Rights Reserved. */
/* U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or */
/* Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp.*/
/* Status = H28K510 */
/* */
/* FILENAME: XMLEXTRACT */
/* */
/* */
/* FUNCTION: */
/* REXX script for getting the value or the specified attribute name*/
/* of a special line in the spacificed file */
/* ===== */
/* This script opens the specified file "filename" for reading */
/* and returns the name or the value of the specified line in the */
/* file "filename". What the script should return can be specified */
/* with the "nameorvalue" flag. "V" is for value, "N" is for name. */

parse arg filename line nameorvalue

ADDRESS SYSCALL

readfile "/tmp/"||filename info.

ADDRESS

parse var info.line var_name var_value

if var_name = 'status' then
  return 0
if nameorvalue = "V" then
  return var_value
if nameorvalue = "N" then
  parse var var_name var_name '.' var_nr
  return var_name

exit
```

例 このスクリプトの例では、サーバーの設定を変更します。最初に、変更するサーバーの一覧が表示されます。出力は、tempout ファイルに書き込まれます。XMLEXTRACT は属性名を取り出します。この値は、必要に応じて変更されます。次に、tempout ファイルが XMLGEN によって更新されます。変更がすべて実行されると、CB390CFG スクリプトが呼び出されます。

```
/* REXX function */
call syscalls 'ON'
signal on error

sval. = 0
sname. = 0

name. = 0
```



```

name.1 = "conversationname"
name.2 = "servername"

val. = 0
val.1 = "Document Demo"
val.2 = "DEMOSRV"

rc = 4
i = 1
l = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "Error in Function: listserver while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;

rc = CB390CFG("-action 'listserver' -xmlinput 'inputlistserver.xml'
              -input 'tempin' -output 'tempout'")
if (rc == 4) then do
  say "Error in Function: listserver"
  exit
end

do forever
  n = XML EXTRACT("tempout" l "N")
  if n <> '0' then do
    sname.l = n
    if n = "serverdescription" then do
      sval.l = "New Description"
    end
    else if n = "garbagecollectioninterval" then do
      sval.l = "55555"
    end
    else do
      v = XML EXTRACT("tempout" l "V")
      sval.l = v
    end
    rc = XMLGEN("tempin" sname.l sval.l)
    if (rc == 4) then do
      say "Error in Function: listserver while XMLGEN"
      exit
    end
  end
  end
  leave
  l=l+1
end

rc = CB390CFG("-action 'changeserver' -xmlinput 'inputchangeserver.xml'
              -input 'tempin' -output 'tempout'")
if (rc == 4) then do

```

XMLEXTRACT

```
    say "Error in Function: changeserver"  
    exit  
end  
  
say "Server changed"  
exit  
  
error:  
say "Error" rc "at line" sigl  
say sourceline(sigl)  
exit
```

第9章 デフォルト XML ファイル

以下のファイルは、ユーザーが変更することができます。ここに記載する値は、SM-EUI のデフォルト値です。これらは、create メソッドに対して定義することしかできません。その他のメソッドはすべて、ユーザーが指定する必要のある独自のパラメーターを持っています。

inputcreateconversation.xml

```
<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputcreateconversation.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28K510 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=OW44455, H28K510, 20000721, PDCG: Created. -->
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputcreateconversation [
<!ELEMENT inputcreateconversation EMPTY>
<!--ATTLIST inputcreateconversation
  conversationname CDATA #REQUIRED
  conversationdescription CDATA #IMPLIED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputcreateconversation
  conversationname = ''
  conversationdescription = ''
/>
```

inputdeleteconversation.xml

```

<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputdeleteconversation.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28K510 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$LO=OW44455, H28K510, 20000721, PDCG: Created. -->
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputdeleteconversation [
<!ELEMENT inputdeleteconversation EMPTY>
<!ATTLIST inputdeleteconversation
  conversationname CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputdeleteconversation
  conversationname = ''
/>

```

inputcommitconversation.xml

```

<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputcommitconversation.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28K510 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->

```

```

<!--$L0=0W44455, H28K510, 20000721, PDCG: Created.          -->
<!--                                                    -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputcommitconversation [
<ELEMENT inputcommitconversation EMPTY>
<ATTLIST inputcommitconversation
  conversationname CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of dafeult values-->
<inputcommitconversation
  conversationname = ''
/>

```

inputlistconversation.xml

```

<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputlistconversation.xml          -->
<!--                                                    -->
<!-- Descriptive name: ...                          -->
<!--                                                    -->
<!-- Proprietary statement:                        -->
<!--                                                    -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM          -->
<!--                                                    -->
<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000        -->
<!-- All Rights Reserved.                          -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28K510                              -->
<!--                                                    -->
<!-- Change history:                              -->
<!--$L0=0W44455, H28K510, 20000721, PDCG: Created. -->
<!--                                                    -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputlistconversation [
<ELEMENT inputlistconversation EMPTY>
<ATTLIST inputlistconversation
  conversationname CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputlistconversation
  conversationname = ''
/>

```

inputchangesysplex.xml

```

<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputchangesysplex.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-F31 (C) Copyright IBM Corp. 2000, 2001 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28W400 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$LO=OW44455, CB4.0_beta, 20001205, PDBL: Created. -->
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputchangesysplex [
<!ELEMENT environment EMPTY>
<!ATTLIST environment
value CDATA #REQUIRED
name CDATA #REQUIRED
>
<!ELEMENT inputchangesysplex (environment*)>
<!ATTLIST inputchangesysplex
conversationname CDATA #REQUIRED
sysplexname CDATA #REQUIRED
sysplexdescription CDATA #IMPLIED
logstreamname CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputchangesysplex
conversationname = ''
sysplexname = ''
sysplexdescription = ''
logstreamname = ''
>
</inputchangesysplex>

```

inputlistsysplex.xml

```

<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputlistsysplex.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->

```

```

<!-- -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- 5655-F31 (C) Copyright IBM Corp. 2000, 2001 -->
<!-- -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- -->
<!-- Status = H28W400 -->
<!-- -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=0W44455, H28K510, 20001205, PDBL: Created. -->
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputlistsysplex [
<!ELEMENT inputlistsysplex EMPTY>
<!ATTLIST inputlistsysplex
  conversationname CDATA #REQUIRED
  sysplexname CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputlistsysplex
  conversationname = ''
  sysplexname = ''
/>

```

inputcreatesystem.xml

```

<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputcreatesystem.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-F31 (C) Copyright IBM Corp. 2000, 2001 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28W400 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=0W44455, H28K510, 20001203, PDBL: Created. -->

```

デフォルト XML ファイル

```
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputcreatesystem [
<!ELEMENT inputcreatesystem EMPTY>
<!ATTLIST inputcreatesystem
  conversationname CDATA #REQUIRED
  systemname CDATA #REQUIRED
  systemdescription CDATA #IMPLIED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputcreatesystem
  conversationname = ''
  systemname = ''
  systemdescription = ''
/>
```

inputchangesystem.xml

```
<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputchangesystem.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-F31 (C) Copyright IBM Corp. 2000, 2001 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28W400 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=0W44455, H28K510, 20000721, PDCG: Created. -->
<!--$L1=0W44455, CB4.0, 20001205, PDBL: OLT support, security enhancement -->
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputchangesystem [
<!ELEMENT inputchangesystem EMPTY>
<!ATTLIST inputchangesystem
  conversationname CDATA #REQUIRED
  systemname CDATA #REQUIRED
  systemdecription CDATA #IMPLIED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputchangesystem
```



```

    conversationname = ''
    systemname = ''
    systemdescription = ''
  >
</inputchangesystem>

```

inputlistsystem.xml

```

<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputlistsystem.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-F31 (C) Copyright IBM Corp. 2000, 2001 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28W400 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=OW44455, H28K510, 20001205, PDBL: Created. -->
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputlistsystem [
<!ELEMENT inputlistsystem EMPTY>
<!ATTLIST inputlistsystem
  conversationname CDATA #REQUIRED
  systemname CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputlistsystem
  conversationname = ''
  systemname = ''
/>

```

inputdeletesystem.xml

```

<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputdeletesystem.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->

```

デフォルト XML ファイル

```
<!-- -->
<!-- 5655-F31 (C) Copyright IBM Corp. 2000, 2001 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28W400 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=0W44455, H28K510, 20000721, PDCG: Created. -->
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputdeletesystem [
<!ELEMENT inputdeletesystem EMPTY>
<!ATTLIST inputdeletesystem
  conversationname CDATA #REQUIRED
  systemname CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputdeletesystem
  conversationname = ''
  systemname = ''
/>
```

inputcreateserver.xml

```
<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputcreateserver.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-F31 (C) Copyright IBM Corp. 2000, 2001 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28W400 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=0W44455, H28K510, 20000721, PDCG: Created. -->
<!--$L1=0W44455, CB4.0, 20001205, PDBL: OLT support, security enhancement -->
<!--$L2=0W44455, CB4.0, 20010124, PDBL: Kerberos, AssertedID support -->
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputcreateserver [
<!ELEMENT security EMPTY>
<!ATTLIST security
```

```

    value CDATA #REQUIRED
  >
<!ELEMENT environment EMPTY>
<!ATTLIST environment
  value CDATA #REQUIRED
  name CDATA #REQUIRED
>
<!ELEMENT inputcreateserver (environment*,security*)>
<!ATTLIST inputcreateserver
  acceptassertedid (Y|N) #REQUIRED
  allowkerberos (Y|N) #REQUIRED
  allownonauthenticatedclients (Y|N) #REQUIRED
  allowserverregiongarbagecollection (Y|N) #REQUIRED
  allowuseridpasswd (Y|N) #REQUIRED
  allowssl (Y|N) #REQUIRED
  allowsslclientcerts (Y|N) #REQUIRED
  conversationname CDATA #REQUIRED
  dcekeytabfile CDATA #REQUIRED
  dcequalityofprotection CDATA #REQUIRED
  debuggerallowed (Y|N) #REQUIRED
  garbagecollectioninterval CDATA #REQUIRED
  identityofthecontrolregion CDATA #REQUIRED
  identityoftheserverregion CDATA #REQUIRED
  isolationpolicy CDATA #REQUIRED
  localidentity CDATA #REQUIRED
  logstreamname CDATA #REQUIRED
  olthostname CDATA #REQUIRED
  oltpport CDATA #REQUIRED
  procname CDATA #REQUIRED
  productionserver (Y|N) #REQUIRED
  remoteidentity CDATA #REQUIRED
  replicationpolicy CDATA #REQUIRED
  sendassertedid (Y|N) #REQUIRED
  serverdescription CDATA #IMPLIED
  servername CDATA #REQUIRED
  serverregionjvmname CDATA #REQUIRED
  serverregionrequiresjvm (Y|N) #REQUIRED
  serverregionstacksize CDATA #REQUIRED
  smfwrserveractivity (Y|N) #REQUIRED
  smfwrcontaineractivity (Y|N) #REQUIRED
  smfwrserverinterval (Y|N) #REQUIRED
  smfwrcontainerinterval (Y|N) #REQUIRED
  smfrintervallength CDATA #REQUIRED
  sslracfkeyring CDATA #REQUIRED
  sslv2timeout CDATA #REQUIRED
  sslv3timeout CDATA #REQUIRED
  transactionfactory (Y|N) #REQUIRED
  usedce (Y|N) #REQUIRED
  useridpassticket (Y|N) #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputcreateserver
  acceptassertedid = 'N'

```

デフォルト XML ファイル

```
allowkerberos = 'N'  
allownonauthenticatedclients = 'N'  
allowserverregiongarbagecollection = 'Y'  
allowuseridpasswd = 'N'  
allowssl = 'N'  
allowsslclientcerts = 'N'  
conversationname = ''  
dcekeytabfile = ''  
dcequalityofprotection = 'No_Protection'  
debuggerallowed = 'Y'  
garbagecollectioninterval = '50000'  
identityofthecontrolregion = ''  
identityoftheserverregion = ''  
isolationpolicy = 'One_Transaction_Per_Server_Region'  
localidentity = ''  
logstreamname = ''  
olthostname = ''  
oltpport = '5000'  
procname = ''  
productionserver = 'N'  
remoteidentity = ''  
replicationpolicy = 'Replicate_As_Needed'  
sendassertedid = 'N'  
serverdescription = ''  
servername = ''  
serverregionjvmname = ''  
serverregionrequiresjvm = 'N'  
serverregionstacksize = ''  
smfwrserveractivity = 'N'  
smfwrcontaineractivity = 'N'  
smfwrserverinterval = 'N'  
smfwrcontainerinterval = 'N'  
smfrintervallength = '3600'  
sslracfkeyring = ''  
sslv2timeout = '100'  
sslv3timeout = '600'  
transactionfactory = 'N'  
usedce = 'N'  
useridpassticket = 'N'  
>  
</inputcreateserver>
```

inputdeleteserver.xml

```
<?xml version='1.0'?>  
<!------->  
<!-- File name: inputdeleteserver.xml -->  
<!-- -->  
<!-- Descriptive name: ... -->  
<!-- -->  
<!-- Proprietary statement: -->  
<!-- -->  
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->  
<!-- -->
```

```

<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28K510 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=0W44455, H28K510, 20000721, PDCG: Created. -->
<!-- -->
<!--=====
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputdeleteserverinstance [
<!ELEMENT inputdeleteserverinstance EMPTY>
<!ATTLIST inputdeleteserverinstance
    conversationname CDATA #REQUIRED
    servername CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputdeleteserverinstance
    conversationname = ''
    servername = ''
/>

```

inputchangeserver.xml

```

<?xml version='1.0'?>
<!--=====
<!-- File name: inputchangeserver.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-F31 (C) Copyright IBM Corp. 2000, 2001 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28W400 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=0W44455, H28K510, 20000721, PDCG: Created. -->
<!--$L1=0W44455, CB4.0, 20001205, PDBL: OLT support, security enhancement -->
<!--$L2=0W44455, CB4.0, 20010124, PDBL: Kerberos, AssertedID support -->
<!-- -->
<!--=====
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputchangeserver [
<!ELEMENT security EMPTY>
<!ATTLIST security
    value CDATA #REQUIRED

```

デフォルト XML ファイル

```
>
<!ELEMENT environment EMPTY><!ATTLIST environment
  value CDATA #REQUIRED
  name CDATA #REQUIRED
>
<!ELEMENT inputchangeserver (environment*,security*)>
<!ATTLIST inputchangeserver
  acceptassertedid CDATA #REQUIRED
  allowkerberos CDATA #REQUIRED
  allownonauthenticatedclients CDATA #REQUIRED
  allowserverregiongarbagecollection CDATA #REQUIRED
  allowuseridpasswd CDATA #REQUIRED
  allowssl CDATA #REQUIRED
  allowsslclientcerts CDATA #REQUIRED
  conversationname CDATA #REQUIRED
  dcekeytabfile CDATA #REQUIRED
  dcequalityofprotection CDATA #REQUIRED
  debuggerallowed CDATA #REQUIRED
  garbagecollectioninterval CDATA #REQUIRED
  identityofthecontrolregion CDATA #REQUIRED
  identityoftheserverregion CDATA #REQUIRED
  isolationpolicy CDATA #REQUIRED
  localidentity CDATA #REQUIRED
  logstreamname CDATA #IMPLIED
  olthostname CDATA #IMPLIED
  oltpport CDATA #REQUIRED
  procname CDATA #REQUIRED
  productionserver CDATA #REQUIRED
  remoteidentity CDATA #REQUIRED
  replicationpolicy CDATA #REQUIRED
  sendassertedid CDATA #REQUIRED
  serverdescription CDATA #IMPLIED
  servername CDATA #REQUIRED
  serverregionjvmname CDATA #IMPLIED
  serverregionrequiresjvm CDATA #REQUIRED
  serverregionstacksize CDATA #REQUIRED
  smfwrserveractivity CDATA #IMPLIED
  smfwrcontaineractivity CDATA #IMPLIED
  smfwrserverinterval CDATA #IMPLIED
  smfwrcontainerinterval CDATA #IMPLIED
  smfintervallength CDATA #IMPLIED
  sslracfkeyring CDATA #IMPLIED
  sslv2timeout CDATA #REQUIRED
  sslv3timeout CDATA #REQUIRED
  transactionfactory CDATA #REQUIRED
  usedce CDATA #REQUIRED
  useridpassticket CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputchangeserver
  acceptassertedid = ''
  allowkerberos = ''
  allownonauthenticatedclients = ''
```

```

allowserverregiongarbagecollection = ''
allowuseridpasswd = ''
allowssl = ''
allowsslclientcerts = ''
conversationname = ''
dcekeytabfile = ''
dcequalityofprotection = ''
debuggerallowed = ''
garbagecollectioninterval = ''
identityofthecontrolregion = ''
identityoftheserverregion = ''
isolationpolicy = ''
localidentity = ''
logstreamname = ''
olthostname = ''
oltport = ''
procname = ''
productionserver = ''
remoteidentity = ''
replicationpolicy = ''
sendassertedid = ''
serverdescription = ''
servername = ''
serverregionjvmname = ''
serverregionrequiresjvm = ''
serverregionstacksize = ''
smfwrserveractivity = ''
smfwrcontaineractivity = ''
smfwrserverinterval = ''
smfwrcontainerinterval = ''
smfrintervallength = ''
sslracfkeyring = ''
sslv2timeout = ''
sslv3timeout = ''
transactionfactory = ''
usedce = ''
useridpassticket = ''
>
</inputchangeserver>

```

inputlistserver.xml

```

<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputlistserver.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000 -->
<!-- All Rights Reserved. -->

```

デフォルト XML ファイル

```
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28K510 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=0W44455, H28K510, 20000721, PDCG: Created. -->
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputlistserver [
<!ELEMENT inputlistserver EMPTY>
<!ATTLIST inputlistserver
  conversationname CDATA #REQUIRED
  servername CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputlistserver
  conversationname = ''
  servername = ''
/>
```

inputlistj2eeapplication.xml

```
<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputlistj2eeapplication.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28K510 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=0W44455, H28K510, 20010125, PDBL: Created. -->
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputlistj2eeapplication [
<!ELEMENT inputlistj2eeapplication EMPTY>
<!ATTLIST inputlistj2eeapplication
  conversationname CDATA #REQUIRED
  j2eeservername CDATA #REQUIRED
  j2eeapplicationname CDATA #REQUIRED
>
]>
```



```

<!--begin of default values-->
<inputlistj2eeapplication
  conversationname = ''
  j2eeservername = ''
  j2eeapplicationname = ''
/>

```

inputdeletej2eeapplication.xml

```

<?xml version='1.0'?>
<!--=====-->
<!-- File name: inputdeletej2eeapplication.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2001 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28K510 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=0W44455, CB4.0, 20000124, PDBL: Created -->
<!-- -->
<!--=====-->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputdeletej2eeapplication [
<!ELEMENT inputdeletej2eeapplication EMPTY>
<ATTLIST inputdeletej2eeapplication
  conversationname CDATA #REQUIRED
  j2eeservername CDATA #REQUIRED
  j2eeapplicationname CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputdeletej2eeapplication
  conversationname = ''
  j2eeservername = ''
  j2eeapplicationname = ''
/>

```

inputlistj2eecomponents.xml

```

<?xml version='1.0'?>
<!--=====-->
<!-- File name: inputlistj2eecomponents.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->

```

デフォルト XML ファイル

```
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28K510 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=0W44455, H28K510, 20010125, PDBL: Created. -->
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputlistj2eecomponents [
<!ELEMENT inputlistj2eecomponents EMPTY>
<!ATTLIST inputlistj2eecomponents
  conversationname CDATA #REQUIRED
  j2eeservername CDATA #REQUIRED
  j2eeapplicationname CDATA #REQUIRED
  modulename CDATA #REQUIRED
  componentname CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputlistj2eecomponents
  conversationname = ''
  j2eeservername = ''
  j2eeapplicationname = ''
  modulename = ''
  componentname = ''
/>
```

inputlistj2eemodules.xml

```
<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputlistj2eemodules.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- 5655-F31 (C) Copyright IBM Corp. 2000, 2001 -->
<!-- -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- -->
```

```

<!-- Status = H28W400 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=OW44455, H28K510, 20010125, PDBL: Created. -->
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputlistj2eemodules [
<!ELEMENT inputlistj2eemodules EMPTY>
<!ATTLIST inputlistj2eemodules
  conversationname CDATA #REQUIRED
  j2eeservername CDATA #REQUIRED
  j2eeapplicationname CDATA #REQUIRED
  modulename CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputlistj2eemodules
  conversationname = ''
  j2eeservername = ''
  j2eeapplicationname = ''
  modulename = ''
/>

```

inputcreatej2eeserver.xml

```

<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputcreatej2eeserver.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- 5655-F31 (C) Copyright IBM Corp. 2000, 2001 -->
<!-- -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- -->
<!-- Status = H28W400 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=OW44455, H28K510, 20000721, PDBL: Created. -->
<!--$L1=OW44455, CB4.0, 20001205, PDBL: OLT support, security enhancement -->
<!--$L2=OW44455, CB4.0, 20010125, PDBL: kerberos, assertedID support -->
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputcreatej2eeserver [
<!ELEMENT security EMPTY>

```

デフォルト XML ファイル

```
<!ATTLIST security
  value CDATA #REQUIRED
>
<!ELEMENT environment EMPTY>
<!ATTLIST environment
  value CDATA #REQUIRED
  name CDATA #REQUIRED
>
<!ELEMENT inputcreatej2eeserver (environment*,security*)>
<!ATTLIST inputcreatej2eeserver
  acceptassertedid (Y|N) #REQUIRED
  allowkerberos (Y|N) #REQUIRED
  allownonauthenticatedclients (Y|N) #REQUIRED
  allowserverregiongarbagecollection (Y|N) #REQUIRED
  allowuseridpasswd (Y|N) #REQUIRED
  allowssl (Y|N) #REQUIRED
  allowsslclientcerts (Y|N) #REQUIRED
  conversationname CDATA #REQUIRED
  dcekeytabfile CDATA #REQUIRED
  dcequalityofprotection CDATA #REQUIRED
  debuggerallowed (Y|N) #REQUIRED
  garbagecollectioninterval CDATA #REQUIRED
  identityofthecontrolregion CDATA #REQUIRED
  identityoftheserverregion CDATA #REQUIRED
  isolationpolicy CDATA #REQUIRED
  j2eeserverdescription CDATA #IMPLIED
  j2eeservername CDATA #REQUIRED
  localidentity CDATA #REQUIRED
  logstreamname CDATA #REQUIRED
  olthostname CDATA #REQUIRED
  oltpport CDATA #REQUIRED
  procname CDATA #REQUIRED
  productionserver (Y|N) #REQUIRED
  remoteidentity CDATA #REQUIRED
  replicationpolicy CDATA #REQUIRED
  sendassertedid (Y|N) #REQUIRED
  serverregionjvmname CDATA #REQUIRED
  serverregionrequiresjvm (Y|N) #REQUIRED
  serverregionstacksize CDATA #REQUIRED
  sslracfkeyring CDATA #REQUIRED
  sslv2timeout CDATA #REQUIRED
  sslv3timeout CDATA #REQUIRED
  transactionfactory (Y|N) #REQUIRED
  usedce (Y|N) #REQUIRED
  useridpassticket (Y|N) #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputcreatej2eeserver
  acceptassertedid = 'N'
  allowkerberos = 'N'
  allownonauthenticatedclients = 'N'
  allowserverregiongarbagecollection = 'Y'
  allowuseridpasswd = 'N'
```

```

allowssl = 'N'
allowsslclientcerts = 'N'
conversationname = ''
dcekeytabfile = ''
dcequalityofprotection = 'No_Protection'
debuggerallowed = 'Y'
garbagecollectioninterval = '50000'
identityofthecontrolregion = ''
identityoftheserverregion = ''
isolationpolicy = 'One_Transaction_Per_Server_Region'
j2eeserverdescription = ''
j2eeservername = ''
localidentity = ''
logstreamname = ''
olthostname = ''
oltpport = '5000'
procname = ''
productionserver = 'N'
remoteidentity = ''
replicationpolicy = 'Replicate_As_Needed'
sendassertedid = 'N'
serverregionjvmname = ''
serverregionrequiresjvm = 'N'
serverregionstacksize = ''
sslracfkeyring = ''
sslv2timeout = '100'
sslv3timeout = '600'
transactionfactory = 'N'
usedce = 'N'
useridpassticket = 'N'
>
</inputcreatej2eeserver>

```

inputdeletej2eeserver.xml

```

<?xml version='1.0'?>
<!--=====-->
<!-- File name: inputdeletej2eeserver.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2001 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28K510 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=0W44455, CB4.0, 20000124, PDBL: Created -->
<!-- -->

```

デフォルト XML ファイル

```
<!--=====-->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputdeletej2eeserver [
<!ELEMENT inputdeletej2eeserver EMPTY>
<!ATTLIST inputdeletej2eeserver
  conversationname CDATA #REQUIRED
  j2eeservername CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputj2eedeleteserver
  conversationname = ''
  j2eeservername = ''
/>
```

inputchangej2eeserver.xml

```
<?xml version='1.0'?>
<!--=====-->
<!-- File name: inputchangej2eeserver.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- 5655-F31 (C) Copyright IBM Corp. 2000, 2001 -->
<!-- -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- -->
<!-- Status = H28W400 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=0W44455, H28K510, 20000721, PDBL: Created. -->
<!--$L1=0W44455, CB4.0, 20001205, PDBL: OLT support, security enhancement -->
<!--$L2=0W44455, CB4.0, 20010125, PDBL: kerberos, assertedID support -->
<!-- -->
<!--=====-->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputchangej2eeserver [
<!ELEMENT security EMPTY>
<!ATTLIST security
  value CDATA #REQUIRED
>
<!ELEMENT environment EMPTY><!ATTLIST environment
  value CDATA #REQUIRED
  name CDATA #REQUIRED
>
<!ELEMENT inputchangej2eeserver (environment*,security*)>
```

```

<!ATTLIST inputchangej2eeserver
  acceptassertedid CDATA #REQUIRED
  allowkerberos CDATA #REQUIRED
  allownonauthenticatedclients CDATA #REQUIRED
  allowserverregiongarbagecollection CDATA #REQUIRED
  allowuseridpasswd CDATA #REQUIRED
  allowssl CDATA #REQUIRED
  allowsslclientcerts CDATA #REQUIRED
  conversationname CDATA #REQUIRED
  dcekeytabfile CDATA #REQUIRED
  dcequalityofprotection CDATA #REQUIRED
  debuggerallowed CDATA #REQUIRED
  garbagecollectioninterval CDATA #REQUIRED
  identityofthecontrolregion CDATA #REQUIRED
  identityoftheserverregion CDATA #REQUIRED
  isolationpolicy CDATA #REQUIRED
  j2eeserverdescription CDATA #IMPLIED
  j2eeservername CDATA #REQUIRED
  localidentity CDATA #REQUIRED
  logstreamname CDATA #IMPLIED
  olthostname CDATA #IMPLIED
  oltpport CDATA #REQUIRED
  procname CDATA #REQUIRED
  productionserver CDATA #REQUIRED
  remoteidentity CDATA #REQUIRED
  replicationpolicy CDATA #REQUIRED
  sendassertedid CDATA #REQUIRED
  serverregionjvmname CDATA #IMPLIED
  serverregionrequiresjvm CDATA #REQUIRED
  serverregionstacksize CDATA #REQUIRED
  sslracfkeyring CDATA #IMPLIED
  sslv2timeout CDATA #REQUIRED
  sslv3timeout CDATA #REQUIRED
  transactionfactory CDATA #REQUIRED
  usedce CDATA #REQUIRED
  useridpassticket CDATA #REQUIRED
>
]>

```

```

<!--begin of default values-->
<inputchangej2eeserver
  acceptassertedid = ''
  allowkerberos = ''
  allownonauthenticatedclients = ''
  allowserverregiongarbagecollection = ''
  allowuseridpasswd = ''
  allowssl = ''
  allowsslclientcerts = ''
  conversationname = ''
  dcekeytabfile = ''
  dcequalityofprotection = ''
  debuggerallowed = ''
  garbagecollectioninterval = ''
  identityofthecontrolregion = ''
  identityoftheserverregion = ''

```

デフォルト XML ファイル

```
isolationpolicy = ''
j2eeserverdescription = ''
j2eeservername = ''
localidentity = ''
logstreamname = ''
olthostname = ''
oltpport = ''
procname = ''
productionserver = ''
remoteidentity = ''
replicationpolicy = ''
sendassertedid = ''
serverregionjvmname = ''
serverregionrequiresjvm = ''
serverregionstacksize = ''
sslracfkeyring = ''
sslv2timeout = ''
sslv3timeout = ''
transactionfactory = ''
usedce = ''
useridpassticket = ''
>
</inputchangej2eeserver>
```

inputlistj2eeserver.xml

```
<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputlistj2eeserver.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2001 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28K510 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=0W44455, CB4.0, 20000124, PDBL: Created -->
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputlistj2eeserver [
<!ELEMENT inputlistj2eeserver EMPTY>
<!ATTLIST inputlistj2eeserver
 conversationname CDATA #REQUIRED
 j2eeservername CDATA #REQUIRED
>
]>
```



```

<!--begin of default values-->
<inputlistj2eeserver
  conversationname = ''
  j2eeservername = ''
/>

```

inputcreateserverinstance.xml

```

<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputcreateserverinstance.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000, 2001 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28K510 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=OW44455, H28K510, 20000721, PDBL: Created. -->
<!--$L1=OW44455, CB4.0, 20010124, PDBL: attribute configportnumber added -->
<!--$L2=OW44455, CB4.x, 20010226, PDBL: attribute sslfirewallport added -->
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputcreateserverinstance [
<!ELEMENT environment EMPTY>
<!ATTLIST environment
  value CDATA #REQUIRED
  name CDATA #REQUIRED
>
<!ELEMENT inputcreateserverinstance (environment*)>
<!ATTLIST inputcreateserverinstance
  conversationname CDATA #REQUIRED
  servername CDATA #REQUIRED
  serverinstancename CDATA #REQUIRED
  serverinstancedescriptions CDATA #IMPLIED
  systemname CDATA #REQUIRED
  logstreamname CDATA #IMPLIED
  configportnumber CDATA #REQUIRED
  sslfirewallport CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputcreateserverinstance
  conversationname = ''

```

デフォルト XML ファイル

```
servername = ''
serverinstancename = ''
serverinstancedescription = ''
systemname = 'SY1'
logstreamname = ''
configportnumber = '9000'
sslfirewallport = '0'
>
</inputcreateserverinstance>
```

inputdeleteserverinstance.xml

```
<?xml version='1.0'?>
<!--=====-->
<!-- File name: inputdeleteserverinstance.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28K510 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=0W44455, H28K510, 20000721, PDCG: Created. -->
<!-- -->
<!--=====-->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputdeleteserverinstance [
<!ELEMENT inputdeleteserverinstance EMPTY>
<!ATTLIST inputdeleteserverinstance
conversationname CDATA #REQUIRED
servername CDATA #REQUIRED
serverinstancename CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputdeleteserverinstance
conversationname = ''
servername = ''
serverinstancename = ''
/>
```

inputchangeserverinstance.xml

```

<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputchangeserverinstance.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000, 2001 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28K510 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=OW44455, H28K510, 20000721, PDBL: Created. -->
<!--$L1=OW44455, CB4.0, 20010124, PDBL: attribute configportnumber added -->
<!--$L2=OW44455, CB4.x, 20010226, PDBL: attribute sslfirewallport added -->
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputchangeserverinstance [
<!ELEMENT environment EMPTY>
<!ATTLIST environment
value CDATA #REQUIRED
name CDATA #REQUIRED
>
<!ELEMENT inputchangeserverinstance (environment*)>
<!ATTLIST inputchangeserverinstance
conversationname CDATA #REQUIRED
servername CDATA #REQUIRED
serverinstancename CDATA #REQUIRED
serverinstancedescription CDATA #IMPLIED
systemname CDATA #REQUIRED
logstreamname CDATA #IMPLIED
configportnumber CDATA #REQUIRED
sslfirewallport CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputchangeserverinstance
conversationname = ''
servername = ''
serverinstancename = ''
serverinstancedescription = ''
systemname = ''
logstreamname = ''

```

デフォルト XML ファイル

```
    configportnumber = ''
    sslfirewallport = ''
  >
</inputchangeserverinstance>
```

inputlistserverinstance.xml

```
<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputlistserverinstance.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28K510 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=0W44455, H28K510, 20000721, PDCG: Created. -->
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputlistserverinstance [
<ELEMENT inputlistserverinstance EMPTY>
<ATTLIST inputlistserverinstance
  conversationname CDATA #REQUIRED
  servername CDATA #REQUIRED
  serverinstancename CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputlistserverinstance
  conversationname = ''
  servername = ''
  serverinstancename = ''
/>
```

inputcreatecontainer.xml

```
<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputcreatecontainer.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
```

```

<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28K510 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=0W44455, H28K510, 20000721, PDCG: Created. -->
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputcreatecontainer [
<!ELEMENT inputcreatecontainer EMPTY>
<!ATTLIST inputcreatecontainer
  conversationname CDATA #REQUIRED
  servername CDATA #REQUIRED
  containername CDATA #REQUIRED
  containerdescription CDATA #IMPLIED
  aclcheckrequired (Y|N) #REQUIRED
  activationisolationpolicy CDATA #REQUIRED
  passivationconstraints CDATA #REQUIRED
  managedobjectrefreshpolicy CDATA #REQUIRED
  transactionpolicy CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputcreatecontainer
  conversationname = ''
  servername = ''
  containername = ''
  containerdescription = ''
  aclcheckrequired = 'N'
  activationisolationpolicy = 'Transaction_Level'
  passivationconstraints = 'Not_Pinned'
  managedobjectrefreshpolicy = 'At_Activation'
  transactionpolicy = 'TX_Requires'
/>

```

inputdeletecontainer.xml

```

<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputdeletecontainer.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000 -->

```

デフォルト XML ファイル

```
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28K510 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=0W44455, H28K510, 20000721, PDCG: Created. -->
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputdeletecontainer [
<!ELEMENT inputdeletecontainer EMPTY>
<!ATTLIST inputdeletecontainer
  conversationname CDATA #REQUIRED
  servername CDATA #REQUIRED
  containername CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputdeletecontainer
  conversationname = ''
  servername = ''
  containername = ''
/>
```

inputchangecontainer.xml

```
<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputchangecontainer.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28K510 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=0W44455, H28K510, 20000721, PDCG: Created. -->
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputchangecontainer [
<!ELEMENT inputchangecontainer EMPTY>
<!ATTLIST inputchangecontainer
  conversationname CDATA #REQUIRED
  servername CDATA #REQUIRED
```

```

    containername CDATA #REQUIRED
    containerdescription CDATA #IMPLIED
    aclcheckrequired CDATA #REQUIRED
    activationisolationpolicy CDATA #REQUIRED
    passivationconstraints CDATA #REQUIRED
    managedobjectrefreshpolicy CDATA #REQUIRED
    transactionpolicy CDATA #REQUIRED
  >
]>

<!--begin of default values-->
<inputchangecontainer
  conversationname = ''
  servername = ''
  containername = ''
  containerdescription = ''
  aclcheckrequired = ''
  activationisolationpolicy = ''
  passivationconstraints = ''
  managedobjectrefreshpolicy = ''
  transactionpolicy = ''
/>

```

inputlistcontainer.xml

```

<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputlistcontainer.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28K510 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=0W44455, H28K510, 20000721, PDCG: Created. -->
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputlistcontainer [
<!ELEMENT inputlistcontainer EMPTY>
<!ATTLIST inputlistcontainer
  conversationname CDATA #REQUIRED
  servername CDATA #REQUIRED
  containername CDATA #REQUIRED
>
]>

```

デフォルト XML ファイル

```
<!--begin of default values-->
<inputlistcontainer
  conversationname = ''
  servername = ''
  containername = ''
/>
```

inputcreatelrm.xml

```
<?xml version='1.0'?>
<!--=====-->
<!-- File name: inputcreatelrm.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28K510 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=0W44455, H28K510, 20000721, PDCG: Created. -->
<!-- -->
<!--=====-->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputcreatelrm [
<!ELEMENT inputcreatelrm EMPTY>
<!ATTLIST inputcreatelrm
  conversationname CDATA #REQUIRED
  lrmname CDATA #REQUIRED
  lrmdescription CDATA #IMPLIED
  coclassname CDATA #REQUIRED
  codllname CDATA #REQUIRED
  coclasscreatefunction CDATA #REQUIRED
  lrmsubsystemtype CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputcreatelrm
  conversationname = ''
  lrmname = ''
  lrmdescription = ''
  coclassname = ''
  codllname = ''
  coclasscreatefunction = ''
  lrmsubsystemtype = 'Generic'
/>
```

inputdeletelrm.xml

```

<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputdeletelrm.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28K510 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=OW44455, H28K510, 20000721, PDCG: Created. -->
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputdeletelrm [
<!ELEMENT inputdeletelrm EMPTY>
<!ATTLIST inputdeletelrm
  conversationname CDATA #REQUIRED
  lrmname CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputdeletelrm
  conversationname = ''
  lrmname = ''
/>

```

inputchangelrm.xml

```

<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputchangelrm.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28K510 -->

```

デフォルト XML ファイル

```
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=0W44455, H28K510, 20000721, PDCG: Created. -->
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputchangelrm [
<!ELEMENT inputchangelrm EMPTY>
<!ATTLIST inputchangelrm
  conversationname CDATA #REQUIRED
  lrmname CDATA #REQUIRED
  lrmdescription CDATA #IMPLIED
  coclassname CDATA #REQUIRED
  codllname CDATA #REQUIRED
  coclasscreatefunction CDATA #REQUIRED
  lrmsubsystemtype CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputchangelrm
  conversationname = ''
  lrmname = ''
  lrmdescription = ''
  coclassname = ''
  codllname = ''
  coclasscreatefunction = ''
  lrmsubsystemtype = ''
/>
```

inputlistlrm.xml

```
<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputlistlrm.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28K510 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=0W44455, H28K510, 20000721, PDCG: Created. -->
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputlistlrm [
```

```

<!ELEMENT inputlistlrm EMPTY>
<!ATTLIST inputlistlrm
  conversationname CDATA #REQUIRED
  lrmname CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputlistlrm
  conversationname = ''
  lrmname = ''
/>

```

inputcreatelrmi.xml

```

<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputcreatelrmi.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28K510 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=0W44455, H28K510, 20000721, PDCG: Created. -->
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputcreatelrmi [
<!ELEMENT connection EMPTY>
<!ATTLIST connection
  value CDATA #REQUIRED
  name CDATA #REQUIRED
>
<!ELEMENT inputcreatelrmi (connection*)>
<!ATTLIST inputcreatelrmi
  conversationname CDATA #REQUIRED
  lrmname CDATA #REQUIRED
  lrminame CDATA #REQUIRED
  lrmidescription CDATA #IMPLIED
  systemname CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputcreatelrmi

```

デフォルト XML ファイル

```
    conversationname = ''
    lrmname = ''
    lrminame = ''
    lrmidescription = ''
    systemname = 'SY1'
>
</inputcreatelrmi>
```

inputdeletelrmi.xml

```
<?xml version='1.0'?>
<!-- File name:  inputdeletelrmi.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name:  ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement:  -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28K510 -->
<!-- -->
<!-- Change history:  -->
<!--$L0=0W44455, H28K510, 20000721, PDCG: Created. -->
<!-- -->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputdeletelrmi [
<!ELEMENT inputdeletelrmi EMPTY>
<!ATTLIST inputdeletelrmi
  conversationname CDATA #REQUIRED
  lrmname CDATA #REQUIRED
  lrminame CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputdeletelrmi
  conversationname = ''
  lrmname = ''
  lrminame = ''
/>
```

inputchangelrmi.xml

```
<?xml version='1.0'?>
<!-- File name:  inputchangelrmi.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name:  ... -->
```

```

<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28K510 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=0W44455, H28K510, 20000721, PDCG: Created. -->
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputchangelrmi [
<!ELEMENT connection EMPTY>
<!ATTLIST connection
  value CDATA #REQUIRED
  name CDATA #REQUIRED
>
<!ELEMENT inputchangelrmi (connection*)>
<!ATTLIST inputchangelrmi
  conversationname CDATA #REQUIRED
  lrmname CDATA #REQUIRED
  lrminame CDATA #REQUIRED
  lrmidescription CDATA #IMPLIED
  systemname CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputchangelrmi
  conversationname = ''
  lrmname = ''
  lrminame = ''
  lrmidescription = ''
  systemname = ''
>
</inputchangelrmi>

```

inputlistlrmi.xml

```

<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputlistlrmi.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->

```

デフォルト XML ファイル

```
<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28K510 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=0W44455, H28K510, 20000721, PDCG: Created. -->
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputlistserver [
<!ELEMENT inputlistserver EMPTY>
<!ATTLIST inputlistserver
  conversationname CDATA #REQUIRED
  lrmname CDATA #REQUIRED
  lrminame CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputlistserver
  conversationname = ''
  lrmname = ''
  lrminame = ''
/>
```

inputassociatelrmwithcontainer.xml

```
<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputassociatelrmwithcontainer.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28K510 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=0W44455, H28K510, 20000721, PDCG: Created. -->
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputassociatelrmwithcontainer [
<!ELEMENT inputassociatelrmwithcontainer EMPTY>
<!ATTLIST inputassociatelrmwithcontainer
  conversationname CDATA #REQUIRED
```

```

servername CDATA #REQUIRED
lrmname CDATA #REQUIRED
containername CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputassociatelrmwithcontainer
  conversationname = ''
  servername = ''
  lrmname = ''
  containername = ''
/>

```

inputdisassociatelrmfromcontainer.xml

```

<?xml version='1.0'?>
<!--=====-->
<!-- File name: inputdisassociatelrmfromcontainer.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28K510 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=0W44455, H28K510, 20000721, PDCG: Created. -->
<!-- -->
<!--=====-->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputdisassociatelrmfromcontainer [
<!ELEMENT inputdisassociatelrmfromcontainer EMPTY>
<!-- ATTLIST inputdisassociatelrmfromcontainer
  conversationname CDATA #REQUIRED
  servername CDATA #REQUIRED
  lrmname CDATA #REQUIRED
  containername CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputdisassociatelrmfromcontainer
  conversationname = ''
  servername = ''
  lrmname = ''
  containername = ''
/>

```

inputlistlrmassociatedwithcontainer.xml

```

<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputlistlrmassociatedwithcontainer.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28K510 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=OW44455, H28K510, 20000721, PDCG: Created. -->
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputlistlrmassociatedwithcontainer [
<!ELEMENT inputlistlrmassociatedwithcontainer EMPTY>
<!ATTLIST inputlistlrmassociatedwithcontainer
conversationname CDATA #REQUIRED
servername CDATA #REQUIRED
lrmname CDATA #REQUIRED
containername CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputlistlrmassociatedwithcontainer
conversationname = ''
servername = ''
lrmname = ''
containername = ''
/>

```

inputimportapplicationfamily.xml

```

<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputimportApplicationfamily.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000 -->

```



```

<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28K510 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=0W44455, H28K510, 20000721, PDCG: Created. -->
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputimportapplicationfamily [
<!ELEMENT inputimportApplicationFamily EMPTY>
<!-- ATTLIST inputimportApplicationFamily
  conversationname CDATA #REQUIRED
  sysplexname CDATA #REQUIRED
  servername CDATA #REQUIRED
  applicationfamilyname CDATA #REQUIRED
  ddlfilename CDATA #REQUIRED
  outputfilename CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputimportApplicationFamily
  conversationname = ''
  servername = ''
  applicationfamilyname = ''
  ddlfilename = ''
  outputfilename = ''
/>

```

inputremoveapplicationfamily.xml

```

<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputremoveApplicationfamily.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- -->
<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000 -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- Status = H28K510 -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=0W44455, H28K510, 20000721, PDCG: Created. -->
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->

```

デフォルト XML ファイル

```
<!DOCTYPE inputremoveApplicationFamily [  
<!ELEMENT inputremoveApplicationFamily EMPTY>  
<!ATTLIST inputremoveApplicationFamily  
  conversationname CDATA #REQUIRED  
  servername CDATA #REQUIRED  
  applicationfamilyname CDATA #REQUIRED  
>  
  
<!--begin of default values-->  
<inputremoveApplicationFamily  
  conversationname = ''  
  servername = ''  
  applicationfamilyname = ''  
</>
```

inputlistapplicationfamily.xml

```
<?xml version='1.0'?>  
<!------->  
<!-- File name: inputlistApplicationfamily.xml -->  
<!-- -->  
<!-- Descriptive name: ... -->  
<!-- -->  
<!-- Proprietary statement: -->  
<!-- -->  
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->  
<!-- -->  
<!-- 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000 -->  
<!-- All Rights Reserved. -->  
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->  
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->  
<!-- Status = H28K510 -->  
<!-- -->  
<!-- Change history: -->  
<!--$L0=0W44455, H28K510, 20000721, PDCG: Created. -->  
<!-- -->  
<!------->  
<!-- internal DTD -->  
<!DOCTYPE inputlistApplicationFamily [  
<!ELEMENT inputlistApplicationFamily EMPTY>  
<!ATTLIST inputlistApplicationFamily  
  conversationname CDATA #REQUIRED  
  servername CDATA #REQUIRED  
  applicationfamilyname CDATA #REQUIRED  
>  
  
<!--begin of default values-->  
<inputlistApplicationFamily  
  conversationname = ''  
  servername = ''  
  applicationfamilyname = ''  
</>
```

inputprocessearfile.xml

```

<?xml version='1.0'?>
<!------->
<!-- File name: inputprocessearfile.xml -->
<!-- -->
<!-- Descriptive name: ... -->
<!-- -->
<!-- -->
<!-- Proprietary statement: -->
<!-- -->
<!-- Licensed Material - Property of IBM -->
<!-- 5655-F31 (C) Copyright IBM Corp. 2000, 2001 -->
<!-- -->
<!-- All Rights Reserved. -->
<!-- -->
<!-- U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or -->
<!-- Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp. -->
<!-- -->
<!-- Status = H28W400 -->
<!-- -->
<!-- -->
<!-- Change history: -->
<!--$L0=0W44455, H28K510, 20010125, PDBL: Created. -->
<!-- -->
<!------->
<!-- internal DTD -->
<!DOCTYPE inputimpurtapplicationfamily [
<!ELEMENT inputprocessearfile EMPTY>
<!ATTLIST inputprocessearfile
  conversationname CDATA #REQUIRED
  j2eeservername CDATA #REQUIRED
  earfilename CDATA #REQUIRED
>
]>

<!--begin of default values-->
<inputprocessearfile
  conversationname = ''
  j2eeservername = ''
  earfilename = ''
/>

```

デフォルト XML ファイル

第10章 REXX スクリプトの例

アクティブなサーバーに対する属性の変更

この例では、アクティブなサーバーの属性を変更します。したがって、新しい会話を追加し、変更するサーバーの一覧を表示して既存の属性を取得し、変更を行ない、それから、会話をアクティブにする必要があります。

```
/* REXX ----- */
/* ===== */
/*
/* COPYRIGHT =
/* Licensed Material - Property of IBM
/*
/* 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000
/* All Rights Reserved.
/* U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or
/* Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp.
/* Status = H28K510
/*
/* FILENAME: SMAPI001
/*
/*
/* FUNCTION:
/* Change attributes of active server with SM Scripting API
/*
/* !! WARNING !!
/* This script changes the attributes and activates the conversation.
/* All changes will take place in the running system!
/*
/* =====
/* This script changes attributes of an active server.
/* First a new conversation called "Demo Script 001" will be added.
/* Then the server "BBOASR3" will be listed to get all properties.
/* After that the attributes values for "serverdescription" and
/* "garbagecollectioninterval" will be changed. Finally the
/* conversation "Demo Script 001" will be committed and activated
/*
/* Dependencies:
/* The conversation "Demo Script 001" must not be added previously.
/* The server "BBOASR3" must be valid in the current active
/* conversation.

call syscalls 'ON'
signal on error

say "starting Demo Script 001"

/* 1. Step - Create new conversation"*/
```

REXX スクリプトの例

```
say "Creating conversation..."
name. = 0
name.1 = "conversationname"

val. = 0
val.1 = "Demo Script 001"

rc = 0
i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "Demo Script 001 createconversation failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;
rc = CB390CFG("-action 'createconversation' -xmlinput 'inputcreateconversation.xml'
              -input 'tempin' -output 'tempout'")
if (rc == 4) then do
  say "Demo Script 001 createconversation failed"
  exit
end
say "conversation created"
/* 1. Step - End*/

/* 2. Step - Change active server*/
say "Changing server..."

sval. = 0
sname. = 0

name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "servername"

val. = 0
val.1 = "Demo Script 001"
val.2 = "BBOASR3"

rc = 0
i = 1
l = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "Demo Script 001 listserver failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;
```

```

rc = CB390CFG("-action 'listserver' -xmlinput 'inputlistserver.xml'
              -input 'tempin' -output 'tempout'")
if (rc == 4) then do
  say "Demo Script 001 listserver failed"
  exit
end

do forever
  n = XMLEXTRACT("tempout" 1 "N")
  if n <> '0' then do
    sname.1 = n
    if n = "serverdescription" then do
      sval.1 = "New Description"
    end
    else if n = "garbagecollectioninterval" then do
      sval.1 = "55555"
    end
    else do
      v = XMLEXTRACT("tempout" 1 "V")
      sval.1 = v
    end
    rc = XMLGEN("tempin" sname.1 sval.1)
    if (rc == 4) then do
      say "Demo Script 001 changeserver failed while XMLGEN"
      exit
    end
  end
  else
    leave
  l=l+1
end

rc = CB390CFG("-action 'changeserver' -xmlinput 'inputchangeserver.xml'
              -input 'tempin' -output 'tempout'")
if (rc == 4) then do
  say "Demo Script 001 changeserver failed"
  exit
end
say "Server changed"
/* 2. Step - End"*/

/* 3. Step - Commit and activate conversation"*/
say "Committing conversation..."
name. = 0
name.1 = "conversationname"

val. = 0
val.1 = "Demo Script 001"

rc = 0
i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do

```

REXX スクリプトの例

```
        say "Demo Script 001 commitconversation failed while XMLGEN"
        exit
    end
    i = i+1
end;
rc = CB390CFG("-action 'commitconversation' -xmlinput 'inputcommitconversation.xml'
             -input 'tempin' -output 'tempout'")
if (rc == 4) then do
    say "Demo Script 001 commitconversation failed"
    exit
end
say "Conversation committed and activated"
/* 3. Step - End"*/

say "Demo Script 001 completed"
exit

error:
say "Error" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit
```

アクティブなサーバーに対するコンテナおよび LRM の追加

この例では、アクティブなサーバーにコンテナと LRM を追加します。したがって、新しい会話を追加し、コンテナおよび LRM を追加してから、会話をアクティブにする必要があります。

```
/* REXX ----- */
/* ===== */
/*
/* COPYRIGHT =
/* Licensed Material - Property of IBM
/*
/* 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000
/* All Rights Reserved.
/* U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or
/* Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp.
/* Status = H28K510
/*
/* FILENAME: SMAPI002
/*
/*
/* FUNCTION:
/* Add a new container and a new LRM to the running system
/*
/* !! WARNING !!
/* This script adds a new container and a new LRM to the active
/* conversation. All changes will take place in the running system.
/*
/* =====
/* This script adds a new container "Demo_Container" and a new LRM
/* "Demo_LRM" to the running system. First a new conversation
/*
```



```

/* "Demo Script 002" will be added. Then the new container      */
/* "Demo Container" will be added following the LRM "Demo_LRM"  */
/* will be added too. Finally the conversation "Demo Script 002" */
/* will be committed and activated.                             */
/*                                                              */
/* Dependencies:                                              */
/* The conversation "Demo Script 002" must not be added previously. */
/* The server "BBOASR3" must be valid in the current active   */
/* conversation.                                              */

call syscalls 'ON'
signal on error

say "starting Demo Script 002"

/* 1. Step - Create new conversation*/
say "Creating new conversation..."
name. = 0
name.1 = "conversationname"

val. = 0
val.1 = "Demo Script 002"

rc = 0
i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "Demo Script 002 createconversation failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;
rc = CB390CFG("-action 'createconversation' -xmlinput 'inputcreateconversation.xml'
             -input 'tempin' -output 'tempout'")
if (rc == 4) then do
  say "Demo Script 002 createconversation failed"
  exit
end
say "Conversation created"
/* 1. Step - End*/

/* 2. Step - Adding container*/
say "Adding container..."
name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "servername"
name.3 = "containername"
name.4 = "containerdescription"
name.5 = "aclcheckrequired"
name.6 = "activationisolationpolicy"
name.7 = "passivationconstraints"

```

REXX スクリプトの例

```
name.8 = "managedobjectrefreshpolicy"
name.9 = "transactionpolicy"

val. = 0
val.1 = "Demo Script 002"
val.2 = "BBOASR3"
val.3 = "Demo_Container"
val.4 = "Demo Container Description"
val.5 = "N"
val.6 = "Transaction_Level"
val.7 = "Not_Pinned"
val.8 = "At_Activation"
val.9 = "TX_Required"

rc = 0
i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "Demo Script 002 createcontainer failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;
rc = CB390CFG("-action 'createcontainer' -xmlinput 'inputcreatecontainer.xml'
             -input 'tempin' -output 'tempout'")
if (rc == 4) then do
  say "Demo Script 002 createcontainer failed"
  exit
end
say "Container added"
/* 2. Step - End*/

/* 3. Step - Adding LRM*/
say "Adding LRM..."
name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "lrname"
name.3 = "lrmdescription"
name.4 = "coclassname"
name.5 = "codllname"
name.6 = "coclasscreatefunction"
name.7 = "lrmsubsystemtype"

val. = 0
val.1 = "Demo Script 002"
val.2 = "Demo_LRM"
val.3 = "Demo LRM Description"
val.4 = ""
val.5 = ""
val.6 = ""
val.7 = "DB2"

rc = 0
```

```

i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "Demo Script 002 createlrm failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;
rc = CB390CFG("-action 'createlrm' -xmlinput 'inputcreatelrm.xml'
             -input 'tempin' -output 'tempout'")
if (rc == 4) then do
  say "Demo Script 002 createlrm failed"
  exit
end
say "LRM added"
/* 3. Step - End*/

/* 4. Step - Commit and activate conversation*/
name. = 0
name.1 = "conversationname"

val. = 0
val.1 = "Demo Script 002"

rc = 0
i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "Demo Script 002 commitconversation failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;
rc = CB390CFG("-action 'commitconversation' -xmlinput 'inputcommitconversation.xml'
             -input 'tempin' -output 'tempout'")
if (rc == 4) then do
  say "Demo Script 002 commitconversation failed"
  exit
end
/* 4. Step - End*/

say "Demo Script 002 completed"
exit

error:
say "Error" rc "at line" sigl
say sourceline(sigl)
exit

```

アクティブなサーバーからのアプリケーションの削除

この例では、アクティブなサーバーからアプリケーションを削除します。したがって、新しい会話を追加し、アプリケーションを削除してから、会話をアクティブにする必要があります。

```

/* REXX ----- */
/* ===== */
/* */
/* COPYRIGHT = */
/* Licensed Material - Property of IBM */
/* */
/* 5655-A98 (C) Copyright IBM Corp. 2000 */
/* All Rights Reserved. */
/* U.S. Government users - RESTRICTED RIGHTS - Use, Duplication, or */
/* Disclosure restricted by GSA-ADP schedule contract with IBM Corp.*/
/* Status = H28K510 */
/* */
/* FILENAME: SMAPI003 */
/* */
/* FUNCTION: */
/* Delete application family from active server */
/* */
/* !! WARNING !! */
/* This script deletes the application family and activates the */
/* conversation. All changes will take place in the running system. */
/* ===== */
/* This script deletes an application family from the active */
/* server. First a new conversation "Demo Script 003" will be added.*/
/* Then the application family "WAREHOUSE3" will be deleted and */
/* finally the conversation "Demo Script 003" will be committed and */
/* activated */
/* */
/* Dependencies: */
/* The conversation "Demo Script 003" must not be added previously. */
/* The server "BBOASR3" must be valid in the current active */
/* conversation and the application family "WAREHOUSE3" must be */
/* present in the server "BBOASR3" */

call syscalls 'ON'
signal on error

say "starting Demo Script 003"

/* 1. Step - Create new conversation*/
say "Creating new conversation..."
name. = 0
name.1 = "conversationname"

val. = 0
val.1 = "Demo Script 003"

rc = 0
i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "Demo Script 003 createconversation failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;
rc = CB390CFG("-action 'createconversation' -xmlinput 'inputcreateconversation.xml'
             -input 'tempin' -output 'tempout'")
if (rc == 4) then do
  say "Demo Script 003 createconversation failed"
  exit
end
say "Conversation created"
/* 1. Step - End"*/

```

```

/* 2. Step - Deleting application*/
say "Deleting application..."
name. = 0
name.1 = "conversationname"
name.2 = "servername"
name.3 = "applicationfamilyname"

val. = 0
val.1 = "Demo Script 003"
val.2 = "BBOASR3"
val.3 = "WAREHOUSE3"

rc = 0
i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "Demo Script 003 removeApplicationfamily failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;
rc = CB390CFG("-action 'removeApplicationfamily' -xmlinput 'inputremoveApplicationfamily.xml'
              -input 'tempin' -output 'tempout'")
if (rc == 4) then do
  say "Demo Script 003 removeApplicationfamily failed"
  exit
end
say "Application deleted"
/* 2. Step - End*/

/* 3. Step - Commit and activate conversation*/
name. = 0
name.1 = "conversationname"

val. = 0
val.1 = "Demo Script 003"

rc = 0
i = 1

do while(name.i <> '0')
  rc = XMLGEN("tempin" name.i val.i)
  if (rc == 4) then do
    say "Demo Script 003 commitconversation failed while XMLGEN"
    exit
  end
  i = i+1
end;
rc = CB390CFG("-action 'commitconversation' -xmlinput 'inputcommitconversation.xml'
              -input 'tempin' -output 'tempout'")
if (rc == 4) then do
  say "Demo Script 003 commitconversation failed"
  exit
end
/* 3. Step - End*/

say "Demo Script 003 completed"
exit

error:
say "Error" rc "at line" sig1
say sourceline(sig1)
exit

```

付録. 特記事項

本書において、日本では発表されていない IBM 製品 (機械およびプログラム)、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのような IBM 製品、プログラミングまたはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で IBM ライセンス・プログラムまたは他の IBM 製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。IBM 製品、プログラム、またはサービスに代えて、IBM の有効な知的所有権またはその他の法的に保護された権利を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM によって明示的に指定されたものを除き、他社の製品と組み合わせた場合の操作の評価と検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書で解説されている主題について特許権 (特許出願を含む)、商標権、または著作権を所有している場合があります。本書の提供は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用権等を許諾することを意味するものではありません。

〒106-0032 東京都港区六本木 3 丁目 2-31
AP 事業所
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

本書に対して、周期的に変更が行われ、これらの変更は、文書の次版に組み込まれます。IBM は、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するもので

特記事項

はありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Mail Station P300
2455 South Road
Poughkeepsie, NY 12601-5400
USA

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。また、IBM 以外の製品に関するパフォーマンスの正確性、互換性、またはその他の要求は確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があり、単に目標を示しているものです。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書で使用される例

本書で使用される例は IBM Corporation が作成したサンプルに過ぎません。これらの例は、標準的な製品や IBM 製品の一部ではなく、ユーザーのアプリケーション開発を支援する目的で単独で提供されるものです。例は、「現状のまま」で提供されます。IBM は、これらの例の機能およびパフォーマンスに関して、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。IBM は、これらの例を使用することによって生じたいかなる損害に対しても、これらの損害の可能性を通知されていた場合を含め、法律上の責任を負わないものとします。

上記の免責事項をすべて了承した場合に限り、これらの例の配布、コピー、更新、および他のソフトウェアへの取り込みを自由に行うことができます。

プログラミング・インターフェース情報

本書には、WebSphere for z/OS のプログラミング・インターフェースとして使用することを意図していない情報が含まれています。

商標

以下の用語は、IBM Corp. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

DB2	RACF
IBM	WebSphere
IMS	z/OS
OS/390	

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標および登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標または登録商標です。

用語集

本書で使用される用語の詳細については、以下の資料を参照してください。

- *WebSphere Application Server* エンタープライズ版 *Component Broker* 用語集 (SD88-7380)。以下のインターネット・アドレスからご覧になることができます。

<http://www.ibm.com/jp/software/websphere/appserv/library.html>

- Sun Microsystems Glossary of Java Technology-Related Terms。以下のインターネット・アドレスからご覧になることができます。

<http://java.sun.com/docs/glossary.html>

探している用語が見付からない場合は、*IBM Glossary of Computing Terms* を調べてください。これは、以下のインターネット・アドレスからご覧になることができます。

<http://www.ibm.com/ibm/terminology/>

また、以下の Sun の Web サイトもご覧ください。

<http://www.sun.com/>



プログラム番号: 5655-F31

Printed in Japan

SA88-8657-00



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12